

証券アナリストによる ディスクロージャー優良企業選定

(2024 年度)

2024 年 10 月

公益社団法人 **日本証券アナリスト協会**
ディスクロージャー研究会



ディスクロージャー研究会委員

座 長	許斐 潤	野村證券
座長代理	伊藤 敏憲	伊藤リサーチ・アンド・アドバイザー
	内田 陽祐	野村アセットマネジメント
	喜多 徳明	明治安田生命保険
	北山 信次	丸三証券
	津田 和徳	大和証券
	森田 正司	岡三証券
	渡辺 英克	みずほ証券

(五十音順)

ディスクロージャー研究会各専門部会長

建設・住宅・不動産	川嶋 宏樹	SMBC 日興証券
食 品	守田 誠	大和証券
化 学 ・ 繊 維	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
トイレタリー・化粧品	佐藤 和佳子	モルガン・スタンレー MUFG 証券
医 薬 品	山口 秀丸	シティグループ 証券
鉄鋼・非鉄金属	山口 敦	SMBC 日興証券
機 械	田井 宏介	大和証券
電気・精密機器	佐渡 拓実	大和証券
自動車・同部品・タイヤ	箱守 英治	大和証券
エ ネ ル ギ ー	新家 法昌	みずほ証券
運 輸	姫野 良太	JP モルガン証券
通信・インターネット	増野 大作	野村證券
商 社	成田 康浩	野村證券
小 売 業	小場 啓司	モルガン・スタンレー MUFG 証券
銀 行	高宮 健	野村證券
保険・証券・その他金融	村木 正雄	SMBC 日興証券
ITサービス・ソフトウェア	上野 真	大和証券
広告・メディア・エンタテインメント	前田 栄二	SMBC 日興証券
新 興 市 場 銘 柄	古島 次郎	大和証券
個人投資家向け情報提供	東 英憲	野村證券

目 次

はじめに	2
ディスクロージャー優良企業	3
高水準のディスクロージャーを連続維持している企業	5
ディスクロージャーの改善が著しい企業	5
概 括	6
各 専 門 部 会 報 告	
建設・住宅・不動産	11
食 品	18
化 学 ・ 繊 維	25
トイレタリー・化粧品	32
医 薬 品	39
鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	46
機 械	53
電 気 ・ 精 密 機 器	60
自動車・同部品・タイヤ	70
エ ネ ル ギ ー	77
運 輸	86
通信・インターネット	93
商 社	100
小 売 業	107
銀 行	114
保険・証券・その他金融	121
ITサービス・ソフトウェア	128
広告・メディア・エンタテインメント	135
新 興 市 場 銘 柄	142
個人投資家向け情報提供	149

は　じ　め　に

日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会は、企業情報開示の促進・向上を目的として、「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」制度を 1995 年度からスタートさせましたが、このほど 2024 年度（第 30 回）の選定結果がまとまりました。

本制度は、企業に日頃接している現役の証券アナリストが評価を実施していることと、開示書類の発行者である企業と利用者である証券アナリストとの双方向の直接対話型であること、の二つの点を特色としております。

本年度は、18 業種を評価対象業種とし、経営戦略とリンクした形での人的資本情報の開示や資本コストを意識した経営の取組みの開示などにも着目した評価項目・配点として、評価を実施いたしました。業種毎の優良企業選定の結果は、7 業種が初受賞、7 業種が返り咲き受賞となり、また、鉄鋼・非鉄金属では 2 社が優良企業（同得点第 1 位で、初受賞と返り咲き受賞）になるなど、多くの業種において順位の変動がありました。

また、2005 年度から開始した、新興市場銘柄および個人投資家向け情報提供における優良企業選定を本年度も実施しており、新興市場銘柄は 3 社、個人投資家向け情報提供は 3 社（いずれも業種別とのダブル受賞）が、優良企業として選定されました。

詳細については、後掲の各専門部会報告書をご覧ください。

本制度は、本年度で 30 年を迎えました。当初は延べ約 200 名の証券アナリストによりスタートしましたが、本年度は約 550 名の方々が参加しております（各業種報告書に氏名等を掲載）。企業価値向上と持続的成長を企業が実現していく上で、求められるディスクロージャーの内容は年々進化しております。当研究会では、これまでも企業開示制度や企業を巡る環境の変化に応じて評価項目を見直すなど制度の充実・アップデートを行ってきておりますが、今後もこの優良企業選定制度を通じて、企業情報開示の促進・向上に寄与して参りますので、関係各方面のご理解とご支援をお願いいたします。

ディスクロージャー優良企業

業種ごとに各々第1位の評価を受けた企業、新興市場銘柄および個人投資家向け情報提供において各々上位3位の評価を受けた企業に、表彰楯を贈呈することとしました。

〔業種別〕

建設・住宅・不動産	三井不動産	(初受賞)
食品	味の素	(3回目)
化学・繊維	三井化学	(4回連続8回目)
トイレタリー・化粧品	ファンケル	(3回目)
医薬品	中外製薬	(初受賞)
鉄鋼・非鉄金属 (2社同得点第1位)	日本製鉄	(4回目)
	UACJ	(初受賞)
機械	荏原製作所	(初受賞)
電気・精密機器	日立製作所	(3回目)
自動車・同部品・タイヤ	ブリヂストン	(3回連続3回目)
エネルギー	出光興産	(2回連続2回目)
運輸	川崎汽船	(初受賞)
通信・インターネット	ソフトバンク	(初受賞)
商社	三井物産	(8回連続9回目)
小売業	三越伊勢丹ホールディングス	(初受賞)
銀行	三井住友フィナンシャルグループ	(5回目)
保険・証券・その他金融	東京海上ホールディングス	(6回目)
ITサービス・ソフトウェア	野村総合研究所	(8回連続16回目)
広告・メディア・エンタテインメント	オリエンタルランド	(5回目)

(注) 同順位の場合、社名はコード番号順に記載

ディスクロージャー
2024年度 優良企業

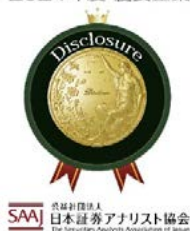


2024 Award for Excellence
in Corporate Disclosure
— Industries —
SAAJ The Securities Analysts
Association of Japan

〔新興市場銘柄〕

ス パ イ ダ ー プ ラ ス	(2 回連続 2 回目)
ス マ レ ジ	(2 回 目)
G M O フ ィ ナ ン シ ャ ル ゲ ー ト	(2 回連続 2 回目)

ディスクロージャー
新興市場銘柄
2024年度 優良企業

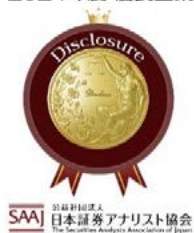


2024 Award for Excellence
in Corporate Disclosure
— Emerging Markets —
SAAJ The Securities Analysts
Association of Japan

〔個人投資家向け情報提供〕

味 の 素	(4 回連続 4 回目)
日 本 製 鉄	(2 回 目)
東 京 海 上 ホ ー ル デ ィ ン グ ス	(2 回 目)

ディスクロージャー
個人投資家向け情報提供
2024年度 優良企業



2024 Award for Excellence
in Corporate Disclosure
— Disclosure to Individual Investors —
SAAJ The Securities Analysts
Association of Japan

高水準のディスクロージャーを連続維持している企業

本優良企業選定制度において直近3回連続して第2位または第3位の評価を受けた次の2社に、高水準のディスクロージャーを連続維持している企業として称賛状を贈呈することとしました。

エ	ネ	ル	ギ	ー	日	本	瓦	ス
運				輸	九	州	旅	客
							鉄	道

ディスクロージャーの改善が著しい企業

ディスクロージャーの改善が著しいと評価された次の5社に、称賛状を贈呈することとしました。

建 設 ・ 住 宅 ・ 不 動 産	大	林	組
機 械	ア	マ	ダ
自 動 車 ・ 同 部 品 ・ タ イ ヤ	本	田	技 研 工 業
自 動 車 ・ 同 部 品 ・ タ イ ヤ	住	友	ゴ ム 工 業
広告・メディア・エンタテインメント	K	A	D O K A W A

概 括

ディスクロージャー研究会
座 長 許 斐 潤

1. 評価対象

- (1) 業種別については、東証プライム市場の上場株式時価総額上位企業を中心として、建設・住宅・不動産(18社)、食品(21社)、化学・繊維(21社)、トイレットリー・化粧品(9社)、医薬品(20社)、鉄鋼・非鉄金属(15社)、機械(19社)、電気・精密機器(23社)、自動車・同部品・タイヤ(21社)、エネルギー(21社)、運輸(15社)、通信・インターネット(10社)、商社(7社)、小売業(22社)、銀行(12社)、保険・証券・その他金融(9社)、ITサービス・ソフトウェア(11社)、広告・メディア・エンタテインメント(19社)の18業種合計293社を評価対象とした。
- (2) 新興市場銘柄については、グロース、ネクスト、Q-Boardおよびアンビシャスの4つの市場に上場している企業(他市場への変更申請または変更予定を公表しているものを除く。)の中から、時価総額が上位であって、かつその企業を調査対象としているアナリストの数が一定数以上の30社(継続評価企業16社、再評価企業(2年以上前に評価対象としたことがある企業)3社、新規評価企業11社)を評価対象とした。なお、30社はすべてグロース市場の企業となった。
- (3) 個人投資家向け情報提供については、本年度の各業種(18業種)および新興市場銘柄についての選定結果において上位1割(評価対象企業の数で10で割った数(小数点第1位を切上げ))に入った企業のうち、2023年7月から2024年6月までの間において、「個人投資家向け会社説明会」を実施した31社を評価対象とした。
- (4) 評価対象は、原則として、2023年7月から2024年6月までの期間における企業のディスクロージャーである。

2. 評価方法等

- (1) 業種別の評価については、次のとおり。

① 評価基準は、(a) 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス、(b) 説明会、インタビュー、説明資料等における開示、(c) フェア・ディスクロージャー、(d) ESGに関連する情報の開示、(e) 各業種の状況に即した自主的な情報開示、の5つの評価分野から構成されている。各分野の配点については、ディスクロージャー研究会(以下、「当研究会」という)が定める評価分野別の配点枠の範囲内で、当研究会の下に設置された業種別の各専門部会が設定した(下表参照。5分野合計で100点満点)。

評 価 分 野	配 点 枠
(a) 経営陣のIR姿勢等	15点 ～ 50点
(b) 説明会等	10点 ～ 40点
(c) フェア・ディスクロージャー	5点 ～ 25点
(d) ESG 関連	15点 ～ 40点
(e) 自主的情報開示	5点 ～ 20点

② 本年度は、5つの評価分野のうち、「ESGに関連する情報の開示」の内容を中心に見直した。具体的には、経営戦略とリンクした形で人的資本情報の開示や、資本コストを意識した経営の取組みの開示など、長期的な企業価値の創造や向上につながる情報開示をより高く評価する観点から、各専門部会において見直しを行い、本年度の評価項目および配点を設定した。

- ③ 各専門部会で決定された上記評価基準に基づき、証券アナリスト経験年数 3 年以上かつ当該業種担当概ね 2 年以上のアナリストで、評価期間中に評価対象企業への接触が 4 回以上あった者（自主申告）、延べ 491 名が評価を行った。
- (2) 新興市場銘柄については、上記(1)①の(a)から(e)までの 5 つの評価分野について、13 の評価項目およびそれぞれの配点を設定した。この評価基準に基づき、評価対象期間中に評価対象企業への接触があった 40 名のアナリストが評価を行った。
- (3) 個人投資家向け情報提供については、①個人投資家向け会社説明会の開催等、②ウェブサイトにおける開示等、③事業報告書等の内容、の 3 つの評価分野について 17 の評価項目を設定した。この評価項目のうち、6 項目については、各評価対象企業に対しアンケート調査を実施し、その回答に基づき評点を付した。残りの 11 項目については、証券会社等において、個人投資家向けの情報提供に携わっている「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員 14 名が、主に、個人投資家に提供される説明資料やウェブサイトでの開示において、個人投資家の理解に資するような情報提供ができているかなどの観点から評点を付し、最終評価は両者の評点を合算して行った。
- (4) 上記(1)から(3)までの評価結果を基に、各専門部会（20 部会、計 142 名の委員）において慎重に分析・検討を行い、それぞれ報告書を取りまとめた。当研究会は、これらの報告書を踏まえて、「優良企業」25 社を選定した。なお、本年度の「優良企業」においては、7 社が初受賞となり、10 社が振り返りの受賞となった。また、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」2 社、および「ディスクロージャーの改善が著しい企業」5 社も選定した。

3. 評価結果の概要

評価結果の詳細は、後掲の「各専門部会報告」に示しているが、その概要は次のとおりである。

- (1) 業種別における総合評価平均点は、次表のとおりとなった。ちなみに、全評価対象企業 293 社の総合評価平均点を算出すると、70.8 点（昨年度 70.0 点）であった。（注 1）

業 種	総合評価平均点（昨年度）
建設・住宅・不動産	77.0 点（73.6 点）
食 品	65.8 点（64.7 点）
化学・繊維	71.2 点（72.1 点）
トイレタリー・化粧品	73.2 点（71.8 点）
医薬品	71.9 点（73.1 点）
鉄鋼・非鉄金属	73.1 点（73.9 点）
機 械 ※	70.2 点（72.8 点）
電気・精密機器	76.1 点（76.7 点）
自動車・同部品・タイヤ	66.1 点（64.4 点）
エネルギー	67.7 点（61.3 点）
運 輸	67.9 点（69.0 点）
通信・インターネット	69.4 点（68.9 点）
商 社	80.0 点（77.8 点）
小売業	69.0 点（70.9 点）
銀 行	77.8 点（77.8 点）
保険・証券・その他金融	71.4 点（72.7 点）
IT サービス・ソフトウェア	70.2 点（69.8 点）
広告・メディア・エンタテインメント	65.9 点（62.9 点）

※ 機械の括弧内の数字は、2022 年度の総合評価平均点である。

- ① 本年度の評価結果を概観すると、18 業種のうち 13 業種において優良企業の初受賞または振り返りの受賞となっており、また、鉄鋼・非鉄金属では、2 社が同得点第 1 位となるなど、多くの業種で順位に変動が見られた。総合評価の上位企業は総じて、5 つの評価分野でそれぞれ高い評価を受けているが、特に「経営陣

のIR姿勢等」において最上位の評価を受けているものが多く、「ESG 関連」でも高い評価を受けている。

なお、昨今、複数の業種において不祥事案が生じているが、このような状況においては、市場が求める情報を、公平かつタイムリーに提供することが期待される。本年度においては、そのような開示対応について、よりの確に評価に反映できるように、評価項目の見直しを行っており、評価結果を見ると、開示対応の差により得点率や順位の変動が生じている状況が見られている。

以下では、「経営陣のIR 姿勢等」、「ESG 関連」および「自主的情報開示」の評価分野について詳述する。

- ② 「経営陣のIR 姿勢等」においては、経営陣が積極的にIRに関与し、経営トップが会社の方針やメッセージを自らの言葉で明確に伝えている企業が高く評価された。また、経営トップが投資家・証券アナリストとの対話を重視し、その声を経営に活かそうとする姿勢も高く評価されている。証券アナリストが中長期的な企業価値向上を見極めるうえで、このような経営トップとの対話を一層重視していることが窺える。IR部門については、体制の充実、情報の集積はもちろんのこと、経営陣との距離の近さや、自社の他部門との連携がとれている企業が高く評価された。

一方で、社外取締役に関連する項目については、社外取締役との対話の機会設定や社外取締役によるパネルディスカッションの開催等を行った一部の企業は高く評価されたものの、多くの業種で依然として平均得点率が低い状況にある。企業を巡る内外の環境変化が激しい昨今、社外取締役の役割が一層重要になっていることを踏まえ、評価の低い企業には改善努力を強く求めたい。

- ③ 「ESG 関連」においては、前述のとおり、経営戦略とリンクした形で人的資本情報の開示や、資本コストを意識した経営の取組みの開示など、長期的な企業価値の創造や向上につながる情報開示をより高く評価する観点から評価項目を見直している。評価結果を見ると、各業種全般に、昨年度に比べ得点率がやや改善している状況が見られる。上位企業に対する評価実施アナリストの意見を見ると、ROE 向上の姿勢とそのための資本政策の考え方を明確に示していること、ESG と事業活動とのリンクを十分に説明していることが高く評価されており、また、統合報告書の内容がサステナビリティレポートと連携しており理解しやすいこと、ESG 説明会の開催や、ESG 関連データの開示を積極的に行っていることなども評価されている。

一方で、少なからぬ業種において、評価上位と下位の企業間の較差が大きい状況が見られている。ESG を含む非財務情報は、企業価値の創造や持続的な向上の観点から投資家が重視する情報である。業種間において事業形態や事業環境等は異なるものの、他業種の上位企業の開示内容等も参考にし、改善に取り組んでいただきたい。

- ④ 「自主的情報開示」においては、各種事業説明会や現地施設見学会など、自社の業務状況の理解に資するイベントを積極的に提供している企業が高い評価を受けている。なお、現地施設見学会などでは、業務開発の進捗状況だけでなく、各企業のビジョンや方針などが現場に浸透していることを確認する場としても重要であるとの評価実施アナリストの声があったことを紹介する。

(注1) 業種ごとの総合評価平均点、昨年度比較、全評価対象企業の評価平均点は、概況を伝えるために敢えて算出したものであるが、業種間で評価項目の内容や配点が異なることに留意する必要がある。また、業種ごとの昨年度平均点との比較も、評価項目の増減や内容・配点の見直し、評価対象企業の変更などがあるため、数値の増減だけでディスクロージャーの改善や後退を論じることは難しい。

- (2) 新興市場銘柄(30社)の評価平均点は64.4点(昨年度68.8点)であった。(注2)

優良企業3社は、初受賞はなく、連続受賞2社、返り咲きが1社であった。

5つの評価分野のうち、「自主的情報開示」(昨年度同率)を除く4分野の平均得点率が昨年度を下回った。なお、「ESG 関連」と「自主的情報開示」の2分野は共に平均得点率が50%台と、昨年度に続き低い水準となった。特に、「ESG 関連」の中の1項目(資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等の十分な説明)は、全13項目中最も低い得点率となった。

評価実施アナリストの意見を見ると、経営トップを含む経営陣が説明会等に登壇し、自らの言葉で経営戦略を説明している企業、計画未達な項目など自社の課題を認識してしっかり開示している企業が高く評価されている。なお、新興市場銘柄の企業は、その規模から総じてIR体制に制約があるが、そのような中でも、経営陣との距離が近い(考え方を共有しているなど)IR部門を評価する声があった。

(注 2) 本年度の評価対象企業 30 社には新規評価企業や再評価企業が含まれているため、数値の昨年度からの変化に厳密な意味はない。

(3) 個人投資家向け情報提供部門 (31 社) の評価平均点は 80.3 点 (昨年度 78.2 点) であった。(注 3)

優良企業 3 社は、いずれも業種とのダブル受賞であった。

評価期間における個人投資家向け会社説明会の平均開催数は 3.3 回で、昨年度 (3.0 回) および一昨年度 (2.4 回) に比べ徐々に回復しているが、新型コロナウイルス感染症拡大以前の状況 (2019 年度 9.0 回) から見ると引き続き低調である。一方で、個人投資家向け会社説明会の内容を配布資料だけでなく動画または音声でウェブサイトに掲載した企業については 29 社 (94%) と、昨年度 (93%) に続き高水準であった。なお、本年度の新規項目である「資本コストを意識した経営の実現に向けた対応」を開示した企業は全社であった。

評価実施アナリストの意見を見ると、「個人投資家向け会社説明会の開催等」においては、経営戦略やビジネスモデル等の説明が充実していること、図表等により情報を整理していること、説明資料のほかに動画を活用していることなど、個人投資家向けの工夫がされている点が評価された。「ウェブサイトにおける開示等」においては、企業の全体像や技術的な情報を個人投資家にも理解しやすいように説明していることが評価されたほか、人的資本に関する戦略と指標・データがわかりやすくまとめられていることを評価する声もあった。「事業報告書等の内容」においては、ビジョンの実現に向けての注力領域や経営指標などが具体的に言及されていること、ESG を経営の中心に据え、具体的に説明し、情報量も豊富であること、中期経営計画の進捗状況や今後の展開など経営の振り返りを具体的に示していることなどが評価された。

(注 3) 本年度の評価対象企業は 31 社で、昨年度 (28 社) よりも増加していること、また、31 社の中には、新規評価企業が含まれているため、数値の昨年度からの変化に厳密な意味はない。

(4) 総じてみれば、企業のディスクロージャーへの取組姿勢や開示内容は年々向上してきている。経営トップをはじめ経営陣が自らメッセージを発信し、株式市場の意見に耳を傾け、それを経営に反映する企業は、以前より多く見られており、また、ESG を含む非財務情報の開示に注力している企業も増えている。

一方で、評価実施アナリストからは、経営トップや社外取締役を含む経営陣との対話の機会をさらに求める声がある。これは、証券アナリストにとって、中長期的な企業価値向上を見極めるうえで、経営トップ等との対話の重要性が一層増していることの表れではないかと思われる。

このような状況も踏まえ、当研究会としては、引き続き評価結果や評価実施アナリストの意見を直接企業へフィードバックするなど、今後も、企業との双方向で建設的な対話を通じてディスクロージャーのさらなる向上のために取り組んで参りたい。

最後に、本年度の評価作業には、各専門部会委員のほか多数の経験豊富な証券アナリストが参加され、全部門において延べ約 550 名の方々から評価が寄せられた。業務多忙の中で、企業のディスクロージャーの促進・向上を目指し、真摯な姿勢で精力的に作業に従事していただいたことに対し、ここに深甚なる感謝の意を表したい。また、証券アナリストが所属する金融機関等のご理解にも感謝を申し上げたい。さらに、本評価制度の意義を理解され、本年度の評価作業についてご協力をいただいた企業の皆様に、深く御礼を申し上げる。

以 上

【各専門部会報告】

20 部会

(注1) 社名は2024年10月10日現在の登記社名とした。

(注2) 評価実施アナリストの所属会社名は、原則として評価実施時点(2024年6月)における会社名とした。

建設・住宅・不動産

1. 評価対象企業（18社）

【建設】（4社）

大成建設、大林組、清水建設、鹿島建設

【住宅・不動産】（11社）

長谷エコーポレーション、大東建託、大和ハウス工業、積水ハウス、
野村不動産ホールディングス、オープンハウスグループ^{（注）}、東急不動産ホールディングス、
三井不動産、三菱地所、東京建物、住友不動産

【住宅設備】（3社）

TOTO、LIXIL、リンナイ

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）昨年度、トライアル評価を実施した（次年度の評価を見据えた予備的な評価で、評価結果は非公表）。

2. 評価方法等

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	2	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	29
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	16
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	3	23
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	7
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2）評価実施アナリストは29名（所属先20社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1）総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新規の企業を加えたほか、ESG関連の項目内容を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は77.0点（昨年度73.6点）、総合評価点の標準偏差は5.8点（昨年度6.8点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較すると、高得点順に、住宅・不動産（11社）：78.7点（昨年度76.8点）、建設（4社）：76.0点（昨年度67.5点）、住宅設備（3社）：72.1点（昨年度71.0点）となり、昨年度に比べ、建設が大きく上がった。個社で見ると、大林組（+13.7点）および大成建設（+8.6点）の上昇幅が大きかった。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣のIR姿勢等が75%（昨年度73%）、説明会等が76%（昨年度73%）、フェア・ディスクロージャーが87%（昨年度81%）、ESG関連が75%（昨年度71%）、自主的情報開示が70%（昨年度同率）となった。

- ④ 評価項目を見ると、全 11 項目のうち、次の 3 項目は、平均得点率で 80%以上となり、高水準となった。(説明会等(2.(3))、フェア・ディスクロージャー(3.(1)(2))。項目番号は「2024 年度評価項目および配点」(後掲)を参照のこと)

- 2.(3) 「四半期毎に業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか(四半期毎に開催:満点)、開催が 2 回以下:0 点」(平均得点率 84%〔昨年度 83%〕)(得点率(評価点/配点(以下省略)):0%3 社・100%15 社)
- 3.(1) 「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項の情報開示(メディア対応を含む)に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」(平均得点率 84%〔昨年度 78%〕)(得点率:70%台 3 社・80%台 13 社・90%台 2 社)
- 3.(2) 「決算説明会・電話会議の参加機会、決算説明会資料や期中のデータが公平に提供されていますか」(平均得点率 90%〔昨年度 83%〕)(得点率:80%台 5 社・90%台 13 社)

- ⑤ ESG 関連の 3 項目は、次のとおりとなり、いずれも 70%台であった。

- 4.(1) 「非財務情報(人的資本を含む ESG 情報、統合報告書等)の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいますか」(平均得点率 77%〔昨年度 71%〕)(得点率:60%台 2 社・70%台 10 社・80%台 6 社)
- 4.(2) 「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか」(平均得点率 75%〔昨年度同率〕)(得点率:50%台 1 社・60%台 2 社・70%台 11 社・80%台 4 社)
- 4.(3) 「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策(資本コスト、キャピタルアロケーション等)、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていますか」平均得点率 73%〔昨年度 68%〕)(得点率:50%台 1 社・60%台 5 社・70%台 9 社・80%台 2 社・90%台 1 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 三井不動産(ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕)

総合評価点 85.1 点〔昨年度比+4.7 点〕、昨年度第 4 位〕

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等(得点率(以下省略) 88%)、説明会等(86%)、ESG 関連(84%)が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 9 位(87%)、自主的情報開示が第 11 位(73%)となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く 4 分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となった。また、「経営陣の IR 姿勢」も同得点第 1 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位(昨年度第 4 位)となった。これらに関連して、これまで以上に経営トップに企業価値向上への意志、取り組みがうかがえ、それを自分の言葉で投資家にわかりやすく伝えているとの声が寄せられた。また、長期経営方針を公表し、それを丁寧に説明する姿勢を評価する声もあった。IR 部門については、十分に情報が蓄積されており信頼できるとの声のほか、資本効率やキャピタルアロケーションなどの BS 面も意識していることを評価する声もあった。なお、事業部や経営企画と IR がさらに近い距離になることを期待する声があった。
- ③ 説明会等においては、「四半期情報開示」が満点となったほか、「説明会、インタビューにおける開示」も最も高い評価となった。また、「説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示」も同得点第 3 位となった結果、この分野において第 1 位(昨年度第 2 位)となった。これらに関連して、説明会の資料が充実しており、部門別の動向も明瞭であるとの声があったほか、現状や見通し、経営陣の考えなどを IR 担当者が過不足なく投資家に説明していることを評価する声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」(同得点第 8 位)および「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 11 位)は、共に高い水準ではあるものの、平均得点率と同程度であった。これらに関連して、セル・バイ双方に公平なトップミーティングの開催を求める声や、大型プロジェクトの事業規模や、海外情報などのタイムリーな開示を望む声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「目標とする経営指標等」が最も高い評価となった。これに関連して、資本政策の説明が明瞭かつ十分であるとの声や、各取組み、KPI などについて、それぞれの意図や背景がうかがえるものになっていることを評価する声があった。「非財務情報の開示」(第 5 位)は、昨年度に比べ、得点率が改善した。

これに関連して、統合報告書のレベルは高いとしつつ、人的資本開示においてマテリアリティに関連させた戦略や独自性がさらに出てくると良いとの意見があった。「コーポレートガバナンス・コード」は同得点第9位であった。

- ⑥ 自主的情報開示の「各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していること」は第11位となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 積水ハウス（総合評価点 84.1 点〔昨年度比+1.6 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（91%）、ESG 関連が第2位（83%）、経営陣の IR 姿勢等が第3位（83%）、説明会等（83%）、自主的情報開示（79%）が第4位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」（第3位）が評価された。「IR 部門の機能」は同得点第5位となったが、80%以上の得点率であった。これらに関連して、経営トップが決算説明会や事業説明会に随時参加するなど経営陣による IR へのコミットが優れているとの声が寄せられた。また、事業説明会や ESG 説明会に積極的に対応していることを評価する声もあった。なお、海外事業に関して、より詳細な説明が必要との意見があった。
- ③ 説明会等においては、「四半期情報開示」が満点となったほか、「説明会、インタビューにおける開示」が第3位となった。「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」は第6位であった。これらに関連して、部門別の動向が明瞭であるとの声や、MDC 買収の効果に関する説明を評価する声があった。なお、米国の受注などのデータのさらなる充実を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（第2位）および「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」（同得点第2位）が共に 90%以上の得点率となり、この分野において同得点第1位（昨年度第2位）となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「非財務情報（人的資本を含む ESG 情報、統合報告書等）の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいること」が最も高い評価となった。「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コスト、キャピタルアロケーション等）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」は第4位となった。なお、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」は同得点第5位であった。
- ⑥ 自主的情報開示の「各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していること」は第4位となった。充実していたイベントとして、ESG 説明会、国際事業説明会などを挙げる声があった。

第3位 長谷エコーポレーション（総合評価点 83.0 点〔昨年度比+5.3 点〕、昨年度同得点第6位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（86%）、説明会等（85%）が第2位、フェア・ディスクロージャー（89%）、自主的情報開示（77%）が同得点第5位、ESG 関連が第10位（74%）となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が同得点第1位となり、「IR 部門の機能」が第4位となった。いずれの得点率も、昨年度に比べ改善した。これらに関連して、経営陣が IR に積極的であり、決算説明会や IR ミーティングに参加し、課題・戦略・方針を説明しているとの声のほか、経営トップには投資家と向き合う姿勢があるとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「四半期情報開示」が満点となった。これに関連して、四半期毎の経営トップによる面談の実施を評価する声があった。また、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が共に第2位となり、いずれも 80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第2位（昨年度同得点第6位）となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第3位）が高い評価となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」（第13位）も、90%以上の得点率であった。
- ⑤ ESG 関連においては、「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コスト、キ

ャピタルアロケーション等)、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」が第5位となった。「非財務情報(人的資本を含む ESG 情報、統合報告書等)の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいること」は同得点第12位となったが、昨年度に比べ、得点率は大きく改善した。なお、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」は第15位であった。

- ⑥ 自主的情報開示の「各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していること」(同得点第5位)は、昨年度に比べ得点率が改善した。充実していたイベントとして、マンション市場説明会を挙げる声が多く、そのほかに、トピック案件見学会を挙げる声もあった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **大林組** (ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 81.2 点〔昨年度比+13.7 点、一昨年度比+9.2 点〕、同得点第6位〔昨年度第14位、一昨年度第11位〕)

- ① 同社は、自主的情報開示が第1位(90%)、ESG 関連が同得点第3位(81%)、経営陣の IR 姿勢等が第5位(80%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第5位(89%)、説明会等が第10位(76%)となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が改善し、総合順位で8ランクのアップとなった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が同得点第5位(昨年度第11位)となった。また、「経営陣の IR 姿勢」が第7位(昨年度同得点第14位)となり、昨年度に比べ得点率が20ポイント以上改善した。これらに関連して、社長のスモールミーティング開催を評価する声が多く寄せられた。また、取材には担当役員が対応し、事前質問に丁寧な回答が得られるとの声もあった。
- ③ 説明会等においては、「四半期情報開示」が満点となった。「説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示」は同得点第9位となり、「説明会、インタビューにおける開示」は第13位となったが、いずれの得点率も昨年度に比べ改善した。なお、質問に対する回答が十分でないことがあるとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」が同得点第2位(昨年度同得点第13位)となり、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第6位(昨年度同得点第11位)となった。いずれの得点率も、昨年度に比べ10ポイント以上改善した。なお、Eメールでの情報発信を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「目標とする経営指標等」(第2位(昨年度第15位))が高く評価された。「コーポレートガバナンス・コード」(第4位)および「非財務情報の開示」(同得点第8位)も、昨年度に比べ、得点率が大きく改善した。資本政策の開示を高く評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していること」は最も高い評価となった。充実していたイベントとして、トピック説明会、横浜シンフォステージ見学会などを挙げる声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以 上

2024年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（建設・住宅・不動産）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目2 (配点 25点)		評価項目3 (配点 29点)		評価項目2 (配点 16点)		評価項目3 (配点 23点)		評価項目1 (配点 7点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8801 三井不動産	85.1	22.0	1	24.8	1	13.9	9	19.3	1	5.1	11	4
2	1928 積水ハウス	84.1	20.8	3	24.2	4	14.6	1	19.0	2	5.5	4	1
3	1808 長谷工コーポレーション	83.0	21.6	2	24.6	2	14.3	5	17.1	10	5.4	5	6
4	1878 大東建託	81.7	19.9	6	24.4	3	14.5	3	17.7	6	5.2	9	5
4	3231 野村不動産ホールディングス	81.7	20.5	4	24.1	5	14.2	8	18.3	5	4.6	13	2
6	1802 大林組	81.2	20.0	5	21.9	10	14.3	5	18.7	3	6.3	1	14
6	1925 大和ハウス工業	81.2	19.8	7	23.1	8	14.4	4	18.7	3	5.2	9	3
8	8802 三菱地所	80.2	19.5	8	23.9	6	13.9	9	17.5	8	5.4	5	6
9	1812 鹿島建設	78.5	18.1	13	23.1	8	14.3	5	17.7	6	5.3	7	11
10	8804 東京建物	77.0	18.7	10	23.2	7	14.6	1	16.5	14	4.0	15	8
11	3289 東急不動産ホールディングス	76.0	18.2	11	21.8	11	13.4	17	16.7	12	5.9	2	10
12	5947 リンナイ	75.0	19.4	9	20.4	14	13.6	13	16.8	11	4.8	12	9
13	1801 大成建設	72.7	17.7	14	20.8	13	13.8	12	16.6	13	3.8	16	16
14	5938 LIXIL	72.0	16.7	15	19.6	16	13.9	9	16.5	14	5.3	7	12
15	3288 オープンハウスグループ	71.6	18.2	11	21.5	12	13.5	15	15.0	17	3.4	17	
16	1803 清水建設	71.5	15.3	17	19.8	15	13.6	13	17.2	9	5.6	3	15
17	5332 TOTO	69.2	15.8	16	19.4	17	13.5	15	16.2	16	4.3	14	13
18	8830 住友不動産	64.3	15.3	17	18.4	18	13.0	18	14.8	18	2.8	18	17
	評価対象企業評価平均点	77.00	18.75		22.17		13.96		17.24		4.88		

2024年度評価項目および配点 (建設・住宅・不動産)

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (25点)	配点	委員のみ
(1)経営陣のIR姿勢		
・経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15	
(2)IR部門の機能		
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	10	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (29点)	配点	委員のみ
(1)説明会、インタビューにおける開示		
・短信および説明会資料等において、実績および計画（前提条件等を含む）を明記のうえ、理解を深めるような十分な説明がなされていますか。また、質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。	15	
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示		
・部門別（注1）・会社別に受注、売上利益の実績と見通し（注2）は十分に開示されていますか。また、資産・負債・キャッシュフローの状況が十分に説明されていますか。	12	
(3)四半期情報開示		
・四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか。〔四半期ごと開催：2点、3回開催：1点、その他：0点〕	2	●
3. フェア・ディスクロージャー (16点)	配点	委員のみ
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
・経営陣およびIR部門が投資家にとって重要と判断される事項（注3）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	8	
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供		
・決算説明会・電話会議の参加機会、決算説明会資料や期中のデータが公平に提供されていますか。	8	
4. ESGに関連する情報の開示 (23点)	配点	委員のみ
(1)非財務情報の開示		
・非財務情報（人的資本を含むESG情報、統合報告書等）の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいますか。	10	
(2)コーポレートガバナンス・コード		
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	4	
(3)目標とする経営指標等		
・中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明がなされていますか。	9	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (7点)	配点	委員のみ
・各種現場見学会や事業説明会等を積極的かつ公平に実施していますか。【過去1年間を目安に評価】 【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	7	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

（注1）「部門別」については、業態により・・・【ゼネコン】：国内・海外および官・民・土・建・その他、【住宅】：戸建て・アパート・一般建築・分譲・賃貸・その他、【不動産】：分譲・賃貸・建設・委託業務・その他、【住宅設備】：製品別・その他・・・と読み替えて下さい。

（注2）「受注、売上利益の実績と見通し」については、【不動産・住宅設備】については売上利益の実績と見通し・・・と読み替えて下さい。

（注3）「投資家にとって重要と判断される事項」とは、東証のT Dnetへの登録を含む次のような事項です。例えば・・・疫病、受注動向、指名停止、訴訟、労災、災害、環境汚染、取引先の倒産、海外市場での変動、大型プロジェクトの事業費概算、資産の取得・売却、新技術・新商品開発、雇用政策の変更、バランスシートおよび債務保証における大きな変動等。

建設・住宅・不動産専門部会委員

部 会 長	川嶋 宏樹	SMBC 日興証券
部会長代理	竹川 克彦	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	寺岡 秀明	大和証券
	橋本 嘉寛	みずほ証券
	福島 大輔	野村證券
	望月 政広	CLSA 証券
	山口 啓朗	大和アセットマネジメント

評価実施アナリスト（29 名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	中川 義裕	みずほ証券
姉川 俊幸	モルガン・スタンレー MUFG 証券	橋本 嘉寛	みずほ証券
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	花井 美穂	SOMPO アセットマネジメント
今泉 達矢	アセットマネジメント One	濱川 友吾	野村證券
荻野 晃	丸三証券	福島 大輔	野村證券
小澤 公樹	SBI 証券	二見 哲史	アセットマネジメント One
河内 亮	丸三証券	辺見 愛子	アライアンス・バークスタイン
川嶋 宏樹	SMBC 日興証券	細貝 広孝	QUICK
菊崎 雄太	ニッセイアセットマネジメント	松崎 亘	JP モルガン・アセット・マネジメント
黒木 文明	ニッセイアセットマネジメント	三木 正士	シティグループ 証券
古島 次郎	大和証券	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
白崎 辰五	りそなアセットマネジメント	望月 政広	CLSA 証券
竹川 克彦	三井住友トラスト・アセットマネジメント	八木 亮	モルガン・スタンレー MUFG 証券
田澤 淳一	SMBC 日興証券	山口 啓朗	大和アセットマネジメント
寺岡 秀明	大和証券		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

食 品

1. 評価対象企業（21 社）

ニッスイ、日清製粉グループ本社、江崎グリコ、山崎製パン、カルビー、森永乳業、ヤクルト本社、明治ホールディングス、日本ハム、アサヒグループホールディングス、キリンホールディングス、コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス、サントリー食品インターナショナル、不二製油グループ本社、キッコーマン、味の素、キューピー、ニチレイ、東洋水産、日清食品ホールディングス、日本たばこ産業

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	34
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	18
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	8
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
計		12	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 20 名（所属先 19 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、主に **ESG 関連**の項目内容および配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は **65.8 点**（昨年度 64.7 点）となった。総合評価点の標準偏差は 11.6 点（昨年度 14.8 点）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 63%（昨年度 59%）、**説明会等**が 70%（昨年度 69%）、**フェア・ディスクロージャー**が 79%（昨年度 84%）、**ESG 関連**が 65%（昨年度 66%）、**自主的情報開示**が 55%（昨年度同率）となった。
- ③ 評価項目について見ると、全 12 項目のうち、次の項目（**フェア・ディスクロージャー**の中の 1 項目）の平均得点率が 80%以上となり、高水準であった。

（ア） 「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。また、日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率 80%〔昨年度 86%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：60%台 2 社・70%台 8 社・80%台 7 社・90%台 4 社）

- ④ 一方、次の3項目（**経営陣のIR姿勢等**の中の1項目(a)、**自主的情報開示**の2項目(b)(c)）は、平均得点率が50%台以下となり、低水準となった。いずれの項目においても、企業間の得点率の差が大きい状況が引き続き見られており、下位評価企業の改善努力を求めたい。

- (a) 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 28%〔昨年度 24%〕）（得点率：10%台以下 10 社・20%台 2 社・30%台 4 社・40%台 1 社・50%台 2 社・60%台 1 社・80%台 1 社）
- (b) 「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していますか。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」（平均得点率 59%〔昨年度 64%〕）（得点率：30%台 2 社・40%台 1 社・50%台 8 社・60%台 5 社・70%台 3 社・80%台 2 社）
- (c) 「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していますか」（平均得点率 52%〔昨年度 47%〕）（得点率：10%台 5 社・20%台 1 社・40%台 1 社・50%台 4 社・60%台 2 社・70%台 5 社・80%台 3 社）

- ⑤ **ESG 関連**の3項目は次のとおりであり、いずれも 60%台となった。なお、各項目の内容については本年度に大きく見直しているため、昨年度比を示していない。

- (a) 「非財務情報（ESG 情報や Scope3 を含めた気候変動問題等）に関して、中長期的な改善目標など定性・定量両面での開示、及び統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていますか」（平均得点率 66%）（得点率：30%台 1 社・40%台 2 社・50%台 3 社・60%台 6 社・70%台 6 社・80%台 3 社）
- (b) 「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していますか」（平均得点率 66%）（得点率：40%台 3 社・50%台 4 社・60%台 6 社・70%台 5 社・80%台 1 社・90%台 2 社）
- (c) 「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていますか」（平均得点率 64%）（得点率：40%台 3 社・50%台 5 社・60%台 4 社・70%台 8 社・80%台 1 社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 味の素（ディスクロージャー優良企業〔3回目〕、

総合評価点 85.0 点〔昨年度比－5.1 点〕、昨年度第2位〕

- ① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**（得点率（以下省略）87%）、**フェア・ディスクロージャー**（93%）、**ESG 関連**（88%）が第1位、**自主的情報開示**が第3位（76%）、**説明会等**が同得点第3位（78%）となった。昨年度に比べ、**フェア・ディスクロージャー**を除く4分野において、得点率が下がった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」および「社外取締役との対話」が共に最も高い評価となり、また、「IR部門の機能」（第3位）についても評価された結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、経営陣が事業説明会やスモールミーティングで意見を収集するなど **IR** を積極的に活用し、**ESG** 課題などを経営に取り入れる姿勢があるとの声が寄せられた。また、社外取締役が投資家との対話に積極的に関与していることを評価する声もあった。**IR** 部門については、数量や単価に関する情報も把握し適切に説明できるとの声があった。なお、リスクに関する十分な説明を求める声があった。
- ③ **説明会等**においては、「インタビューにおける開示」が同得点第3位となった。「説明会、説明資料等における開示」（同得点第4位）は、昨年度に比べ、得点率が大きく下がった。これらに関連して、会社が伝えたい情報だけでなく、足元の環境変化などについても十分な説明を求める声のほか、ヘルスケアなどの非食品事業に関する情報について一層の提供を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」が最も高い評価となり、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」も、同得点第1位（昨年度同得点第5位）となった。いずれの項目も90%以上の得点率となり、この分野において第1位となった。これらに関連して、決算説明会の開示内容や、

英語対応などが優れているとの声があった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していること」および「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」が共に最も高い評価となった。また、「非財務情報（ESG 情報や Scope3 を含めた気候変動問題等）に関して、中長期的な改善目標など定性・定量両面での開示、及び統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」も同得点第 1 位となり、この分野において、昨年度に続き第 1 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」（第 2 位）が評価された。なお、「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」は同得点第 6 位となり、昨年度に比べ、得点率が下がった。充実していた見学会等として、川崎 CIC、タイ事業の戦略説明会を挙げる声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 アサヒグループホールディングス（総合評価点 83.3 点〔昨年度比－7.8 点〕、昨年度第 1 位）

- ① 同社は、説明会等（83%）、自主的情報開示（86%）が第 1 位、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位（82%）、ESG 関連が第 3 位（83%）、フェア・ディスクロージャーが第 4 位（88%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて、得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が同得点第 1 位となった。これに関連して、IR 部門とは、中長期的な視点でも有益な議論ができるとの声や、数量や単価に関する情報も把握し適切に説明しているとの声があった。また、「経営陣の IR 姿勢」および「社外取締役との対話」が共に第 2 位となった。これらに関連して、経営トップがスモールミーティングや個別面談などで意見を収集するなど IR を積極的に活用し、ESG 課題などを経営に取り入れる姿勢があるとの声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「インタビューにおける開示」が最も高い評価となった。また、「説明会、説明資料等における開示」も同得点第 1 位となった。これらの結果、この分野において昨年度に続き第 1 位となった。なお、説明会資料において、利益増減要因などの開示がやや後退しているとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（第 4 位）が 90%以上の得点率となった。また、「リモートツールによる情報提供」（同得点第 4 位）も 85%以上の得点率となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」が第 2 位となった。「非財務情報（ESG 情報や Scope3 を含めた気候変動問題等）に関して、中長期的な改善目標など定性・定量両面での開示、及び統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」および「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していること」は共に第 3 位となった。これらに関連して、事業活動とサステナビリティの取組みなどのリンクがよくわかるとの声が寄せられた。また、スマドリ（スマートドリンク）に関する開示の充実を期待する声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、2 項目が共に最も高い評価となり、この分野において昨年度に続き第 1 位となった。有益なイベントとして、Investor Day のほか、欧州やオセアニアに関する事業戦略説明会を挙げる声が多かった。

第 3 位 キリンホールディングス（総合評価点 78.3 点〔昨年度比－7.6 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社は、ESG 関連が第 2 位（85%）、フェア・ディスクロージャーが第 3 位（90%）、説明会等が同得点第 3 位（78%）、経営陣の IR 姿勢等が同得点第 4 位（73%）、自主的情報開示が第 8 位（64%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて、得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社外取締役との対話」（同得点第 3 位）が、昨年度に比べ、得点率を大幅に下げた。「IR 部門の機能」は同得点第 4 位となった。これに関連して、IR 担当者と有益な議論ができるとの声

があった。「経営陣の IR 姿勢」については第 6 位（昨年度第 3 位）となった。これに関連して、経営トップがスモールミーティングや個別面談を行うなど IR を積極的に活用し、ESG 課題などを経営に取り入れる姿勢があるとの声が寄せられた一方、経営の優先順位が投資家の期待と異なってきている可能性があるとの声があった。また、ヘルスサイエンスにおいて、結果だけでなくプロセスや将来像を十分に説明することを望む声もあった。

- ③ **説明会等**においては、「インタビューにおける開示」が同得点第 3 位となった。また、「説明会、説明資料等における開示」が同得点第 4 位となった。これらに関連して、中期経営計画に対する通期実績の進捗状況など全体感が把握できるような説明を望む声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 1 位）が、90%以上の得点率となった。また、「リモートツールによる情報提供」（第 3 位）も 85%以上の得点率となった。これらに関連して、決算説明会の開示内容が優れているとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「非財務情報（ESG 情報や Scope3 を含めた気候変動問題等）に関して、中長期的な改善目標など定性・定量両面での開示、及び統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」が同得点第 1 位となった。また、「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していること」が第 2 位となり、90%以上の得点率であった。「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」は第 3 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」（第 7 位）および「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」（同得点第 9 位）が共に、昨年度に比べ、得点率を大きく下げた。なお、ヘルスサイエンスデイ、CSV Day は有益なイベントとの声があったが、全般的に分析の役に立つイベントが少なかったとの声もあった。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（食品）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	2802 味の素	85.0	29.5	1	14.0	3	7.4	1	28.0	1	6.1	3	2
2	2502 アサヒグループホールディングス	83.3	28.0	2	15.0	1	7.0	4	26.4	3	6.9	1	1
3	2503 キリンホールディングス	78.3	24.8	4	14.0	3	7.2	3	27.2	2	5.1	8	3
4	2897 日清食品ホールディングス	76.3	24.6	6	14.4	2	6.6	6	24.9	4	5.8	5	5
5	2264 森永乳業	74.4	25.8	3	14.0	3	6.5	9	22.9	7	5.2	7	9
6	2282 日本ハム	74.1	24.8	4	13.5	8	6.6	6	23.2	6	6.0	4	11
7	1332 ニッスイ	71.4	23.0	8	13.7	7	6.3	12	22.1	10	6.3	2	
8	2607 不二製油グループ本社	71.2	24.5	7	13.0	10	6.6	6	22.1	10	5.0	9	4
9	2871 ニチレイ	69.7	22.8	9	13.2	9	6.2	13	22.6	8	4.9	10	8
10	2269 明治ホールディングス	69.3	22.1	10	12.3	13	6.8	5	23.9	5	4.2	13	6
11	2914 日本たばこ産業	68.2	20.6	13	13.9	6	7.3	2	22.3	9	4.1	14	7
12	2229 カルビー	67.6	21.3	11	12.8	11	6.5	9	21.5	12	5.5	6	9
13	2809 キユーピー	62.7	21.2	12	12.7	12	6.0	14	19.7	13	3.1	16	16
14	2002 日清製粉グループ本社	59.3	19.4	14	11.4	18	5.9	15	17.8	17	4.8	11	12
15	2267 ヤクルト本社	58.7	18.6	16	11.7	15	5.9	15	18.2	16	4.3	12	17
15	2801 キッコーマン	58.7	18.4	17	11.3	19	5.8	18	19.2	15	4.0	15	14
17	2579 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス	57.9	17.7	18	11.6	16	6.5	9	19.4	14	2.7	17	18
18	2587 サントリー食品インターナショナル	57.0	19.0	15	12.1	14	5.9	15	17.3	18	2.7	17	13
19	2875 東洋水産	49.3	16.1	20	11.6	16	5.7	19	13.3	19	2.6	19	19
20	2212 山崎製パン	47.0	17.3	19	10.9	20	4.5	21	12.5	21	1.8	21	21
21	2206 江崎グリコ	41.6	13.4	21	8.0	21	5.0	20	13.2	20	2.0	20	20
	評価対象企業評価平均点	65.76	21.57		12.62		6.30		20.84		4.43		

2024年度評価項目および配点 (食品)

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (34点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。また、経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	4
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (18点)	配点
(1)説明会、説明資料等における開示	
・説明会等において、会社側に説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。また、説明会資料等において、決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)インタビューにおける開示	
・インタビューにおける会社側とのディスカッションは十分に満足できるものですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
3. フェア・ディスクロージャー (8点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。また、日英両言語でタイムリーに提供していますか。	4
(2)リモートツールによる情報提供	
・新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか。	4
4. ESGに関連する情報の開示 (32点)	配点
①非財務情報（ESG情報やScope3を含めた気候変動問題等）に関して、中長期的な改善目標など定性・定量両面での開示、及び統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るよう努めていますか。	12
②人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していますか。	8
③中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていますか。	12
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (8点)	配点
①携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していますか。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等。	4
②有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していますか。【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	4

食品専門部会委員

部 会 長	守田 誠	大和証券
部会長代理	角山 智信	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	鎌田 聡	大和アセットマネジメント
	マイケル ジェイコブス	ティー・ロウ・プライス・ジャパン
	高木 直実	SMBC 日興証券
	藤原 悟史	野村証券
	二見 哲史	アセットマネジメント One

評価実施アナリスト（20 名）

伊原 嶺	UBS 証券	高木 直実	SMBC 日興証券
奥下 諒	三井住友トラスト・アセットマネジメント	角山 智信	モルガン・スタンレー MUFG 証券
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
高 英詞	野村アセットマネジメント	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
小杉 大介	東京海上アセットマネジメント	仁井田 将	りそなアセットマネジメント
佐治 広	みずほ証券	福井 悠香	第一生命保険
マイケル ジェイコブス	ティー・ロウ・プライス・ジャパン	二見 哲史	アセットマネジメント One
篠崎 智明	QUICK	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
下川 寿幸	立花証券	守田 誠	大和証券
住母家 学	岡三証券	李 想	野村アセットマネジメント

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

化学・繊維

1. 評価対象企業（21 社）

帝人、東レ、クラレ、旭化成、レゾナック・ホールディングス、住友化学、日産化学、東ソー、デンカ、信越化学工業、エア・ウォーター、日本酸素ホールディングス、カネカ、三菱瓦斯化学、三井化学、JSR（注）、三菱ケミカルグループ、ダイセル、積水化学工業、UBE、日本ペイントホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）同社は、上場廃止となった（2024 年 6 月）。

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	29
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	21
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	33
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	2	12
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 27 名（所属先 20 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、ESG 関連を中心に項目内容および配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 71.2 点（昨年度 72.1 点）、総合評価点の標準偏差は 6.7 点（昨年度 6.6 点）となった。
- ② 評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 71%（昨年度 73%）、説明会等が 71%（昨年度 73%）、フェア・ディスクロージャーが 83%（昨年度同率）、ESG 関連が 70%（昨年度 69%）、自主的信息開示が 70%（昨年度同率）となった。
- ③ 評価項目（全 15 項目）について見ると、平均得点率が 80%以上となったのは、次のフェア・ディスクロージャーの 2 項目であった。
 - （a）「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか」（平均得点率 81%〔昨年度 82%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：60%台 1 社・70%台 6 社・80%台 12 社・90%台 2 社）
 - （b）「状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか」（平均得点率 86%〔昨年度 85%〕）（得点率：70%台 5 社・80%台 7 社・90%台 7 社・100%2 社）

④ ESG 関連の 3 項目は、次のとおりとなった。

- (a) 「環境 (E) 関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 73% [昨年度 72%]) (得点率: 60% 台 8 社・70% 台 8 社・80% 台 5 社)
- (b) 「社会 (S) に関連する情報を、経営戦略と整合する形で、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか」(平均得点率 69% [昨年度同率]) (得点率: 50% 台 1 社・60% 台 12 社・70% 台 6 社・80% 台 2 社)
- (c) 「資本政策 (資本コスト・キャピタルアロケーション等)、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンス (G) の有効性が示されていますか」(平均得点率 68% [昨年度 67%]) (得点率: 50% 台 3 社・60% 台 11 社・70% 台 5 社・80% 台 2 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 三井化学 (ディスクロージャー優良企業 [4 回連続 8 回目]、総合評価点 85.5 点 [昨年度比 -1.7 点])

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等 (得点率 (以下省略) 88%)、ESG 関連 (82%)、自主的情報開示 (85%) が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位 (90%)、説明会が第 2 位 (87%) となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目が共に最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップを含め経営陣が積極的に IR に関与していることや、経営トップとのコミュニケーションの機会が多いことを評価する声が寄せられた。また、経営方針、事業戦略、中長期ビジョン、計数目標、ESG への取組みなどが定量情報を含め明確に示されているとの声もあった。「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができること。また、経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮がなされていること」は第 2 位となった。IR 部門に関して、短中期の業績変動要因、会社の方向性、長期戦略等に関して有益な議論ができるとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会における会社側の説明が十分であること」および「四半期情報開示」が、共に同得点第 1 位となった。そのほかの 2 項目も第 2 位となった。これらに関連して、決算説明会に加え経営概況説明会を開催し、短中期の業績動向と中長期の方向性を丁寧に伝えようとしているとの声が寄せられた。また、業績変動要因について適切な説明が得られるとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 3 位) および「速やかな情報提供」(同得点第 3 位) が共に 85% 以上の得点率となった。これらに関連して、決算説明会の音声再生や要旨を日英両言語で遅滞なく公表しているとの声が寄せられたほか、質疑応答の要旨集がわかりやすいとの声もあった。
- ⑤ ESG 関連においては、環境 (E) に関連する項目および社会 (S) に関連する項目が、共に最も高い評価となった。また、資本政策、株主還元策等に関連する項目も第 2 位となった。これらに関連して、長期経営計画においてマテリアリティを見直し、事業活動とサステナビリティへの取組みが不可分であることを明確に示していること、非財務目標も定量化し KPI を設定、進捗状況や実績等を統合報告書等で開示していることなどを評価する声があった。また、非財務情報に関する説明会の開催を評価する声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等 (アナリスト主催を含む) を実施し、かつその内容は充実していること」が同得点第 1 位となった。「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報 (ESG 情報や無形固定資産・知的財産等) を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」も同得点第 3 位となった。これらに関連して、シンガポール工場見学会や ESG 説明会などの開催を評価する声が多く寄せられた。また、統合報告書の内容が充実しているとの声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 日産化学（総合評価点 83.4 点〔昨年度比+0.5 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、説明会等が第1位（90%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（90%）、経営陣の IR 姿勢等（83%）、ESG 関連（80%）が第2位、自主的情報開示が第4位（77%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」の2項目が共に最も高い評価となった。これらに関連して、IR 部門の機能は十分で、必要な情報の入手が容易であるとの声のほかに、十分な数値が開示され、分析がしやすいとの声が寄せられた。「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」（同得点第3位）も評価された。「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」は第6位となった。これらに関連して、経営陣は CFO を中心に IR に積極的に関与しているとの声があった。なお、経営トップについて IR への一層の関与を望む声があった。
- ③ 説明会等においては、4項目全てが最も高い評価（同得点第1位を含む）となり、この分野において第1位となった。これらに関連して、説明会資料や補足資料が充実しており、説明会における会社側のコメントも的確であるとの声や、詳細なデータを予想まで開示していることを評価する声が寄せられた。なお、動物薬原体の特許延長や、半導体材料、農薬の状況についての開示強化を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第1位）および「速やかな情報提供」（同得点第7位）が共に 90%以上の得点率となった。これらに関連して、IR 全資料の英文対応を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、資本政策、株主還元策等に関連する項目が、最も高い評価となった。これに関連して、資本政策、株主還元策の開示は優れているとの声があった。環境（E）に関連する項目は、同得点第4位に、社会（S）に関連する項目は、同得点第6位となった。人的資本や知的財産に関して有用な開示があるとの声があった。なお、G（資本効率）の取組みは十分に市場に浸透しており、今後、E と S にも期待するとの声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」が第3位となった。「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報（ESG 情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」は第7位となった。充実していたイベントとして、富山工場見学会を挙げる声が多く、また、材料科学研究所見学会を評価する声もあった。

第3位 旭化成（総合評価点 80.3 点〔昨年度比-0.2 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（90%）、自主的情報開示が第2位（83%）、経営陣の IR 姿勢等（80%）、ESG 関連（80%）が第3位、説明会等が同得点第4位（78%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の2項目が共に評価され、80%以上の得点率となった。これらに関連して、大型投資の決定などの要所所で経営トップ自らが説明会に出席し、積極的な IR を行っているとの声があった。また、経営トップとの対話機会が増えてきているとの声もあった。なお、コングロマリット構造を選択していることについて十分な説明を望む声があった。「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができること。また、経営分析に必要な重要な情報開示の継続性に配慮がなされていること」は第4位となった。IR 部門に関しては、会社の方向性や戦略、短中期の業績に与える要素等について有益な議論ができるとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会における会社側の説明が十分であること」および「説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示」が共に同得点第3位となった。「四半期情報開示」（同得点第4位）も 90%以上の得点率であった。これらに関連して、説明会資料や取材時の開示などに改善が見られるとの声や、経営戦略説明会の開催を評価する声が寄せられた。なお、定性的な説明に比べ、定量的な説明がやや不十分との声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第3位）および「速やかな情報提供」（同得点第3位）が共に 85%以上の得点率となった。これらに関連して、決算説明会の要旨が質疑応答を含め日英両言語で遅滞なく提供されていること、重要な意思決定の直後にハイブリッドで説明会を開催していることを評価する声があった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、環境（E）に関連する項目および社会（S）に関連する項目が、共に第 2 位となった。また、資本政策、株主還元策等に関連する項目も第 3 位となった。これらに関連して、事業を通じた環境および社会への貢献に加え、事業活動に付随する負荷低減に関しても定量目標を設定していること、環境関連データなどの ESG 関連データの開示に積極的であることを評価する声があった。なお、社外取締役の取締役会での意見や議論について具体的な開示を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」が同得点第 1 位となった。充実していたイベントとして、延岡工場見学会や富士工場見学会を挙げる声が多かった。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（化学・繊維）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のI R姿勢、 I R部門の機能、I R の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. E S Gに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回順位
			評価項目4 (配点 29点)		評価項目4 (配点 21点)		評価項目2 (配点 5点)		評価項目3 (配点 33点)		評価項目2 (配点 12点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4183 三井化学	85.5	25.4	1	18.2	2	4.5	1	27.2	1	10.2	1	1
2	4021 日産化学	83.4	24.2	2	19.0	1	4.5	1	26.5	2	9.2	4	2
3	3407 旭化成	80.3	23.2	3	16.3	4	4.5	1	26.3	3	10.0	2	4
4	4005 住友化学	77.5	22.7	5	16.3	4	4.5	1	24.6	5	9.4	3	5
5	4204 積水化学工業	77.0	22.3	6	16.4	3	4.2	9	25.1	4	9.0	5	3
6	4208 UBE	76.2	23.1	4	15.8	8	4.2	9	24.3	6	8.8	7	6
7	4182 三菱瓦斯化学	73.2	21.1	7	16.2	6	3.9	16	23.7	7	8.3	11	13
8	3402 東レ	72.3	20.8	9	15.3	9	4.0	14	23.3	9	8.9	6	9
9	4004 レゾナック・ホールディングス	70.3	20.9	8	14.5	12	4.1	12	22.4	12	8.4	9	17
10	4202 ダイセル	69.2	20.4	10	14.4	13	3.9	16	22.4	12	8.1	13	14
11	3401 帝人	68.5	19.8	14	13.7	16	4.2	9	22.8	10	8.0	15	10
11	4612 日本ペイントホールディングス	68.5	20.2	11	13.3	18	4.3	7	22.2	14	8.5	8	11
13	4042 東ソー	68.1	20.1	12	14.7	11	4.0	14	20.9	20	8.4	9	16
13	4188 三菱ケミカルグループ	68.1	18.9	17	13.9	14	4.4	6	23.4	8	7.5	18	7
15	4061 デンカ	68.0	20.1	12	16.0	7	3.5	21	21.1	19	7.3	19	11
16	4088 エア・ウォーター	67.3	18.1	20	14.9	10	4.3	7	21.9	16	8.1	13	20
17	3405 クラレ	67.2	19.2	15	13.7	16	3.6	20	22.5	11	8.2	12	15
18	4091 日本酸素ホールディングス	66.0	18.9	17	13.2	20	4.5	1	22.2	14	7.2	20	18
19	4063 信越化学工業	65.9	19.0	16	13.3	18	4.1	12	21.6	18	7.9	16	19
20	4185 JSR	65.6	18.5	19	13.8	15	3.8	18	21.8	17	7.7	17	8
21	4118 カネカ	57.1	16.4	21	11.5	21	3.8	18	18.9	21	6.5	21	21
	評価対象企業評価平均点	71.18	20.63		14.97		4.13		23.09		8.36		

2024年度評価項目および配点（化学・繊維）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（29点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	7
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
①IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	9
②会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（21点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	7
②インタビューにおける補足説明は十分ですか。	7
(2)説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示	
・説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていますか。	5
(3)四半期情報開示	
・四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	2
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。	3
(2)速やかな情報提供	
・状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	2
4. ESGに関連する情報の開示（33点）	配点
①環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していますか。	11
②社会（S）に関連する情報を、経営戦略と整合する形で、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。	11
③資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていますか。	11
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（12点）	配点
①工場見学、ESG説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか。【過去1年間を目安に評価】【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	7
②統合報告書、ファクトブック等の内容は充実していますか。また、統合報告書において非財務情報（ESG情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか。【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	5

化学・繊維専門部会委員

部 会 長	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
部会長代理	山田 幹也	みずほ証券
	岡寄 茂樹	野村證券
	齋藤 達哉	三井住友 DS アセットマネジメント
	澤砥 正美	SBI 証券
	野口 英彦	アセットマネジメント One
	渡辺 勇仁	大和アセットマネジメント

評価実施アナリスト（27 名）

池田 恵太	大和証券	西平 孝	岡三証券
伊藤 健悟	QUICK	西脇 秀敏	三菱 UFJ 信託銀行
今津 拓洋	アセットマネジメント One	野口 英彦	アセットマネジメント One
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	林 智夫	朝日ライフ アセットマネジメント
梅林 秀光	大和証券	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
大野 剛	丸三証券	宮本 剛	SMBC 日興証券
岡寄 茂樹	野村證券	虫明 直樹	東京海上アセットマネジメント
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	百田 史哉	三井住友トラスト・アセットマネジメント
河野 孝臣	野村證券	山田 幹也	みずほ証券
齋藤 達哉	三井住友 DS アセットマネジメント	吉田 篤	みずほ証券
澤砥 正美	SBI 証券	渡辺 勇仁	大和アセットマネジメント
高橋 豊	極東証券経済研究所	渡邊 亮一	モルガン・スタンレー MUFG 証券
立田 裕昌	SOMPO アセットマネジメント	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
坪井 暁	ニッセイアセットマネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

トイレタリー・化粧品

1. 評価対象企業（9 社）

花 王、資 生 堂、ライオン、ファンケル、コーセー、ポーラ・オルビスホールディングス、
小 林 製 薬、ピジョン、ユニ・チャーム

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	33
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	5	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	12
計		16	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 20 名（所属先 18 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、主に**経営陣の IR 姿勢等**および**説明会等**の評価項目、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は **73.2 点**（昨年度 **71.8 点**）、総合評価点の標準偏差は **5.9 点**（昨年度 **5.1 点**）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 64%（昨年度 69%）、**説明会等**が 79%（昨年度 70%）、**フェア・ディスクロージャー**が 89%（昨年度 88%）、**ESG 関連**が 77%（昨年度 72%）、**自主的情報開示**が 73%（昨年度同率）となり、**経営陣の IR 姿勢等**は、昨年度を下回り、60%台前半となった。
- ③ 評価項目について見ると、全 16 項目中 7 項目が平均得点率で 80%以上となり、高水準であった。具体的には、次の**説明会等**の 1 項目(a)、**フェア・ディスクロージャー**の 3 項目（(b)～(d)）、**ESG 関連**の 2 項目（下記⑤の (a) (b)）および**自主的情報開示**の 1 項目 (e)であった。
 - (a) 「決算短信と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が入手できますか」（平均得点率 80%〔昨年度 71%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：70%台 6 社・80%台 1 社・90%台 2 社）
 - (b) 「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 95%〔昨年度 93%〕）（得点率：90%台 7 社・100%2 社）
 - (c) 「（ウェブサイト等における情報提供について）質疑応答も掲載していますか」（平均得点率 100%〔昨年度同率〕）（得点率：全社満点）

- (d) 「(ウェブサイト等における情報提供について) 英語対応していますか」(平均得点率 100% [昨年度同率])
(得点率: 全社満点)
- (e) 「投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、知財・無形資産、各種災害の影響等)の開示は、迅速かつ十分ですか」(平均得点率 82% [昨年度同率]) (得点率: 50%台 1 社・70%台 1 社・80%台 6 社・90%台 1 社)
- ④ 一方、次の 2 項目(経営陣の IR 姿勢等の中の 1 項目(a)、フェア・ディスクロージャーの中の 1 項目(b))は、平均得点率が 50%台以下となった。なお、「社外取締役との対話」(a)については、投資家との対話の機会を設けた一部の企業は評価されたが、依然として多くの企業が 20%台にとどまっているため、当該企業には改善努力を求めたい。
- (a) 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率 33% [昨年度 31%])
(得点率: 20%台 6 社・30%台 1 社・40%台 1 社・60%台 1 社)
- (b) 「(ウェブサイト等における情報提供について)説明会等のリプレイを実施していますか」(平均得点率 56% [昨年度同率]) (得点率: 0 点 4 社・満点 5 社)
- ⑤ ESG 関連の 5 項目は、次のとおりとなり、ほぼ全ての項目で平均得点率が上昇した。
- (a) 「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 84% [昨年度 82%]) (得点率: 70%台 2 社・80%台 5 社・90%台 2 社)
- (b) 「社会に関する情報・定量目標を設定し、その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していますか」
(平均得点率 83% [昨年度 80%]) (得点率: 70%台 1 社・80%台 7 社・90%台 1 社)
- (c) 「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況を適切に開示していますか」(平均得点率 78% [昨年度 70%]) (得点率: 70%台 4 社・80%台 5 社)
- (d) 「中期経営計画や長期ビジョン(例えば目標とする ROE 等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。また、資本政策(資本コスト・キャピタルアロケーション等)、株主還元策等が十分に説明されていますか」(平均得点率 72% [昨年度 63%]) (得点率: 60%台 5 社・70%台 2 社・80%台 1 社)
- (e) 「社外取締役を含む取締役の選定理由を説明し、取締役会の実効性が示されていますか」(平均得点率 74% [昨年度同率]) (得点率: 60%台 2 社・70%台 5 社・80%台 2 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 ファンケル(ディスクロージャー優良企業 [3 回目]、

総合評価点: 82.9 点 [昨年度比+4.9 点]、昨年度第 2 位)

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等(得点率(以下省略) 78%)、説明会等(93%)が第 1 位、フェア・ディスクロージャー(98%)、自主的情報開示(83%)が同得点第 2 位、ESG 関連が第 4 位(80%)となった。昨年度に比べ、説明会等および ESG 関連の得点率が大きく改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能、基本スタンス」が共に最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップが四半期決算説明にも登壇するなど、経営陣が IR に積極的であるとの声や、定期的に開催される経営陣とのスモールミーティングが有用であるとの声が寄せられ、また、投資家の声を聴く耳を持っており、経営戦略へも反映されているとの声もあった。IR 部門については、経営との一体感があり、十分な取材ができるとの声や、ディスカッションのベースとなるデータの開示が的確であり、質疑応答でも有用な回答が得られるとの声が寄せられた。「社外取締役との対話」(第 2 位)は、昨年度に比べ、得点率が 10 ポイント以上改善した。これに関連して、社外取締役とのミーティングは有益であるとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」(第 1 位)および「説明資料等(短信および補足資料を含む)における開示」(第 1 位)は共に、昨年度に比べ、得点率が大きく改善し、90%以上となった。これらの結果、この分野におけるトップとなった。これらに関連して、決算発表と同時に、補足資料でカテゴ

リー別、チャネル別等の詳細な内容が開示されているとの声や、説明会資料および決算補足資料の計数データは大変有用であるとの声が寄せられた。また、数字を示しての説明に安心感があるとの声もあった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第3位（昨年度同得点第1位））は、トップと僅差であった。また、ウェブサイト等における情報提供として、「説明会等のリプレイの実施」、「質疑応答の掲載」および「英語対応」の全ての項目が満点評価となり、その結果、この分野においてトップと僅差の同得点第2位となった。なお、TOBに関する情報について報道が先行したとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、社外取締役を含む取締役の項目が第2位（昨年度同得点第8位）となり、昨年度に比べ、得点率が10ポイント改善した。これに関連して、社外取締役との建設的な意見交換が出来て有益であるとの声があった。中期経営計画や長期ビジョンに関する項目の得点率も、昨年度に比べ大きく改善し、第3位（昨年度第4位）となった。これに関連して、中期経営計画に収益性、資本効率も取り込み、非財務情報も充実しているとの声や、具体的な方策が開示されていることを評価する声があった。また、環境に関する項目（同得点第4位）、社会に関する項目（同得点第4位）および人的資本に関する項目（第6位）のそれぞれの得点率も、昨年度に比べ改善した。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、知財・無形資産、各種災害の影響等）の開示が迅速かつ十分であること」が、最も高い評価となった。また、「工場見学、事業部説明会、新製品発表会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容が充実していること」も第3位となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 資生堂（総合評価点：79.8点〔昨年度比+7.9点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等が第2位（76%）、フェア・ディスクロージャー（98%）、ESG関連（83%）、自主的情報開示（83%）が同得点第2位、説明会等が第7位（75%）となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「社外取締役との対話」が最も高い評価となり、昨年度に比べ得点率が大幅に改善した。これに関連して、セルサイドも含めた社外取締役との対話の場を設けたことを評価する声があった。「経営陣のIR姿勢」も評価され、第2位（昨年度第3位）となった。これに関連して、経営トップは、資本市場の評価に関心が高く、IR活動に注力しているとの声や、経営トップが、自分の言葉でデータに基づいた説明をしており、議論が深まるとの声が寄せられた。また、定期的に行われるスモールミーティングに経営トップが参加していることを評価する声もあった。なお、投資家の意見を経営活動に活かしているのか、わかりにくいとの声があった。「IR部門の機能、基本スタンス」（第6位）は、平均得点率に達しなかったが、昨年度に比べ、得点率が10ポイント近く改善した。これに関連して、IR部門における情報共有が改善されてきていると評価する声があった。なお、ディスカッションのベースとなる開示内容（頻繁なセグメント変更等）に改善の余地があるとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」（同得点第4位）および「説明資料等（短信および補足資料を含む）における開示」（第8位）は共に平均得点率に達しなかったものの、昨年度に比べ、得点率が大きく改善した。これらに関連して、会社からは投資家に説明を尽くしたいとの熱意を感じるとの声が寄せられた。なお、主要ブランドの売上を決算と同時に開示してほしいとの声や、短信および説明会における定量情報の充実を望む声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第3位（昨年度同得点第6位））は、トップと僅差であった。また、ウェブサイト等における情報提供として、「説明会等のリプレイの実施」、「質疑応答の掲載」および「英語対応」の全ての項目が満点評価となり、その結果、この分野においてトップと僅差の同得点第2位（昨年度同得点第4位）となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、社会に関する項目および社外取締役を含む取締役の項目が、共に最も高い評価となり、環境に関連する項目も、高く評価され第3位となった。また、人的資本に関する項目も評価され、同得点第2位となった。これらに関連して、DE&Iの開示において他社に先行しているとの声があった。中期経営計画や長期ビジョンに関する項目は、昨年度に比べ得点率が改善し、第4位となった。これに関連して、中期経営計

画に具体的な方策が開示されていることを評価する声があった。なお、ROE 目標達成に向けての進捗状況の開示を求める声があった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、事業部説明会、新製品発表会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容が充実していること」が同得点第 1 位となった。これに関連して、各種事業説明会はわかりやすいとの声があった。「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、知財・無形資産、各種災害の影響等）の開示が迅速かつ十分であること」は同得点第 4 位（昨年度同得点第 8 位）となった。

第 3 位 ユニ・チャーム（総合評価点：75.7 点〔昨年度比－1.0 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社は、ESG 関連が第 1 位（84%）、説明会等が第 3 位（80%）、経営陣の IR 姿勢等が同得点第 3 位（65%）、自主的情報開示が第 4 位（77%）、フェア・ディスクロージャーが第 7 位（78%）となった。昨年度に比べ、経営陣の IR 姿勢等の得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」が第 3 位（昨年度同）となり、「経営陣の IR 姿勢」が同得点第 3 位（昨年度第 2 位）となった。これらに関連して、スモールミーティングに経営トップが参加するなどトップミーティングの機会が増えたことを評価する声がある一方で、より双方向でのコミュニケーションができることを求める声もあった。また、投資家とのコミュニケーションを経営に活かすようにしてほしいとの声があった。IR 部門については、詳細な計数情報を集積しており、建設的なディスカッションができるとの声が寄せられた。「社外取締役との対話」（第 5 位（昨年度第 4 位））は、昨年度に比べ、得点率がやや下がった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」（第 3 位）が評価された。これに関連して、IR 部門トップの説明に納得感があるとの声や、いつも有益な議論ができていたとの声が寄せられた。「説明資料等（短信および補足資料を含む）における開示」（同得点第 4 位）は、平均得点率と同程度であったが、昨年度に比べ、得点率が改善した。これに関連して、所在地別・カテゴリー別売上（現地通貨ベース）の開示を評価する声があった。なお、ディスカッションペーパーの提供を評価しつつ、定義の明確化等に改善の余地があるとの声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 3 位）は、90%以上の得点率であった。また、ウェブサイト等における情報提供として、「質疑応答の掲載」および「英語対応」の項目が満点評価となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、人的資本に関する項目および中期経営計画や長期ビジョンに関する項目が、共に最も高い評価となった。これらに関連して、中期経営計画の内容を評価する声や、投資等の進捗状況がわかりやすいとの声があった。環境に関する項目および社会に関する項目も、共に高く評価され、第 2 位となった。これに関連して、使用済み紙おむつのリサイクルの開示に期待したいとの声があった。社外取締役を含む取締役の項目（第 6 位）は、平均得点率と同程度となった。これらの結果、この分野において昨年度に続きトップとなった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、事業部説明会、新製品発表会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容が充実していること」が第 4 位になり、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、知財・無形資産、各種災害の影響等）の開示が迅速かつ十分であること」が同得点第 4 位となった。これらに関連して、新製品説明会のウェブ開催を評価する声があった。

以上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (トイタリー・化粧品)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位			
			評価項目3 (配点 33点)	評価項目2 (配点 20点)	評価項目4 (配点 5点)	評価項目5 (配点 30点)	評価項目2 (配点 12点)				
1	4921 ファンケル	82.9	1	18.5	1	4.9	23.9	4	9.9	2	2
2	4911 資生堂	79.8	2	15.0	7	4.9	24.8	2	9.9	2	4
3	8113 ユニ・チャーム	75.7	3	16.0	3	3.9	25.2	1	9.2	4	3
4	4927 ポーラ・オルビスホールディングス	74.6	3	17.3	2	5.0	22.5	5	8.4	6	1
5	4452 花王	74.5	6	14.7	9	4.8	24.8	2	10.0	1	8
6	4912 ライオン	71.8	5	15.1	5	4.9	22.5	5	9.0	5	5
7	4922 コーセー	67.1	7	15.3	4	3.8	21.0	8	6.9	9	7
8	7956 ビジョン	67.0	9	15.1	5	4.0	22.1	7	8.3	7	9
9	4967 小林製薬	65.6	8	14.8	8	3.8	21.0	8	7.4	8	6
	評価対象企業評価平均点	73.24		15.76		4.45	23.09		8.78		

2024年度評価項目および配点（トイレタリー・化粧品）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（33点）	配点	委員のみ
(1)経営陣のIR姿勢		
・経営陣が、IR活動に注力していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15	
(2)IR部門の機能、基本スタンス		
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10	
(3)社外取締役との対話		
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	8	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点	委員のみ
(1)説明会、インタビューにおける開示		
・決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10	
(2)説明資料等（短信および補足資料を含む）における開示		
・決算短信と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が入手できますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10	
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点	委員のみ
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	2	
(2)ウェブサイト等における情報提供		
①説明会等のリプレイを実施していますか。	1	●
②質疑応答も掲載していますか。	1	●
③英語対応していますか。	1	●
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点	
①環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	5	
②社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	5	
③人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していますか。	5	
④中期経営計画や長期ビジョン（例えば目標とするROE等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。また、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策等が十分に説明されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10	
⑤社外取締役を含む取締役の選定理由を説明し、取締役会の実効性が示されていますか。	5	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（12点）	配点	委員のみ
①工場見学、事業部説明会、新製品発表会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか。〔過去1年間を目安に評価。開催なし 0点〕	7	
②投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、知財・無形資産、各種災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	5	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

トイレットリー・化粧品専門部会委員

部 会 長	佐藤 和佳子	モルガン・スタンレー MUFG 証券
部会長代理	広住 勝朗	大和証券
	大花 裕司	野村証券
	長田 佳三	JP モルガン・アセット・マネジメント
	高口 伸一	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	夏目 宏之	東京海上アセットマネジメント
	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント

評価実施アナリスト（20 名）

赤羽 高	東海東京インテリジェンス・ラボ	竹間 雅子	SOMPO アセットマネジメント
伊藤 健悟	QUICK	仲西 恭子	アセットマネジメント One
大花 裕司	野村証券	夏目 宏之	東京海上アセットマネジメント
長田 佳三	JP モルガン・アセット・マネジメント	広住 勝朗	大和証券
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	福井 悠香	第一生命保険
栗山 乾一	三井住友トラスト・アセットマネジメント	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
桑原 明貴子	JP モルガン証券	宮迫 光子	みずほ証券
高 英詞	野村アセットマネジメント	八並 純子	ニッセイアセットマネジメント
高口 伸一	三井住友トラスト・アセットマネジメント	山中 志真	SMBC 日興証券
佐藤 和佳子	モルガン・スタンレー MUFG 証券	李 想	野村アセットマネジメント

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

医薬品

1. 評価対象企業（20 社）

エムスリー、協和キリン、武田薬品工業、アステラス製薬、住友ファーマ、塩野義製薬、日本新薬、中外製薬、エーザイ、小野薬品工業、参天製薬、テルモ、JCR ファーマ、第一三共、大塚ホールディングス、サワイグループホールディングス、日本光電工業（新規）、シスメックス、オリンパス、朝日インテック

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	8
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	1	15
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2）評価実施アナリストは 32 名（所属先 21 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1）総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新規に企業を加えたほか、フェア・ディスクロージャーおよび ESG 関連を中心に評価項目や配点の見直しを行ったため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 71.9 点（昨年度 73.1 点）、総合評価点の標準偏差は 8.2 点（昨年度同点）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 75%（昨年度同率）、説明会等が 71%（昨年度 73%）、フェア・ディスクロージャーが 85%（昨年度 92%）、ESG 関連が 68%（昨年度 71%）、自主的信息開示が 69%（昨年度 65%）となった。
- ③ 評価項目について見ると、全 11 項目のうち次のフェア・ディスクロージャーの 2 項目の平均得点率が、いずれも 80%以上となり、高水準であった（昨年度は 1 項目（a）のみ。（b）は本年度の新設項目である。）。
 - （a）「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 85%〔昨年度 92%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：70%台 3 社・80%台 11 社・90%台 6 社）
 - （b）「KAM で指摘された重要リスク情報が適切に開示されていますか」（平均得点率 85%）（得点率：70%台 1 社・80%台 15 社・90%台 4 社）

- ④ 一方、ESG 関連の中の3項目(下記⑤の(a)～(c))および、次の自主的情報開示の項目は、60%台にとどまった。なお、自主的情報開示の項目については、平均得点率が改善したものの、評価対象企業間の得点率の差が依然として見られており、下位評価の企業の改善が望まれる。

・「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それは有益ですか」(平均得点率 69% [昨年度 65%]) (得点率：20%台 1 社・50%台 2 社・60%台 5 社・70%台 9 社・80%台 2 社・90%台 1 社)

- ⑤ ESG 関連の4項目は、次のとおりであった。昨年度に比べ、3項目((a)～(c))の平均得点率が下がり、60%台となった。

(a) 「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか」(平均得点率 65% [昨年度 71%]) (得点率：40%台 1 社・50%台 2 社・60%台 13 社・70%台 4 社)

(b) 「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか」(平均得点率 67% [昨年度 70%]) (得点率：30%台 1 社・50%台 5 社・60%台 3 社・70%台 11 社)

(c) 「財務情報と非財務情報(環境や社会、人的資本、知財・無形資産等)を統合し、経営の長期的課題に対する取組みと目標を開示していますか」(平均得点率 69% [昨年度 74%]) (得点率：40%台 1 社・50%台 1 社・60%台 7 社・70%台 11 社)

(d) 「非財務情報に関する定量的な実績の開示がされていますか」(平均得点率 78% [昨年度 68%]) (得点率：50%台 1 社・60%台 2 社・70%台 6 社・80%台 8 社・90%台 3 社)

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 中外製薬 (ディスクロージャー優良企業[初受賞]、総合評価点 80.7 点[昨年度比+0.2 点]、昨年度第4位)

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等(得点率(以下省略) 85%)、自主的情報開示(94%)が第1位、説明会等が第3位(77%)、フェア・ディスクロージャー(88%)、ESG 関連(72%)が同得点第6位となった。昨年度に比べ、経営陣の IR 姿勢等および自主的情報開示の得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」(第2位(昨年度第6位))および「IR 部門の機能、基本スタンス」(第2位(昨年度同得点第3位))が共に順位を上げ、特に「経営陣の IR 姿勢」が高く評価された。これらの結果、この分野におけるトップ(昨年度第5位)となった。これらに関連して、経営陣は IR に積極的であり、IR 部門にも十分な情報が蓄積されているとの声が寄せられ、また、社長とのスモールミーティングや四半期毎の CFO との対話機会の設定を評価する声もあった。
- ③ 説明会等においては、「企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」が同得点第1位となり、「説明会における会社側の説明(質疑応答を含む)が十分であること」が同得点第4位となった。これらの結果、この分野において第3位(昨年度同得点第3位)となった。これらに関連して、決算説明会での説明や資料で市場動向や製品売上、R&D の状況などが詳細に開示されており、企業分析に十分な情報が提供されているとの声が寄せられた。なお、「導出品」の海外販売開発動向や経済条件について一層の説明を求める意見があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が、同得点第1位(昨年度同得点第3位)となった。これに関連して、ウェブサイトでの開示が充実しており、フェア・ディスクロージャーに十分配慮しているとの声が寄せられた。「KAM で指摘された重要リスク情報が適切に開示されていること」(本年度の新設項目)は、同得点第12位となったが、80%以上の得点率であった。
- ⑤ ESG 関連においては、「非財務情報に関する定量的な実績の開示がされていること」が、同得点第1位となり、90%以上の得点率であった。これに関連して、統合報告書をはじめ非財務情報についての開示資料や説明が充実しているとの声が寄せられたほか、サステナビリティ説明会での人的資本、リスクマネジメント等の説明を評価する声もあった。一方、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」は、平均得点率と同程度にとどまった。そのほかの2項目についてはいずれも平均得点率を上回った。なお、取締役の選

任およびその活動についての十分な説明を望む声があった。

- ⑥ **自主的情報開示**の「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それが有益であること」は、昨年度に比べ得点率が 10 ポイント以上改善し、この分野におけるトップ（昨年度第 4 位）となった。これに関連して、投資家の関心が高い製品や開発品の説明会を積極的に開催しているとの声があったほか、中外ライフサイエンスパーク横浜見学会、デジタル戦略説明会を評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 第一三共（総合評価点 80.0 点〔昨年度比－0.4 点〕、昨年度第 5 位）

- ① 同社は、**説明会等**が同得点第 1 位（78%）、**自主的情報開示**が第 2 位（88%）、**ESG 関連**が同得点第 2 位（75%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 5 位（80%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 6 位（88%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」が同得点第 8 位（昨年度同）であったが、「経営陣の IR 姿勢」（第 5 位（昨年度第 7 位））が 80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営陣は IR に積極的であり、マネジメントとの対話機会が多いとの声や、重要な学会発表後のフォローアップ説明会の積極的な開催を評価する声が寄せられた。なお、アストラゼネカと MSD との提携品の進捗に関する情報発信の強化を望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）が十分であること」が評価され、第 2 位（昨年度第 6 位）となり、また、「企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」も第 3 位（昨年度同得点第 6 位）となった。これらの結果、この分野において同得点第 1 位（昨年度第 7 位）となった。これらに関連して、決算説明会など各種説明会での説明や資料等は詳細であり、企業分析に必要な情報が提供されているとの声や、学会発表資料の開示が充実しているとの声が寄せられた。また、ウェブサイトでの開示が充実しているとの声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」（同得点第 7 位）および「KAM で指摘された重要リスク情報が適切に開示されていること」（本年度の新設項目。同得点第 5 位）は共に、85%以上の得点率となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「財務情報と非財務情報（環境や社会、人的資本、知財・無形資産等）を統合し、経営の長期的課題に対する取組みと目標を開示していること」が最も高い評価となり、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」も同得点第 1 位となった。これらに関連して、決算説明会を含む各種説明会や統合報告書などで、中長期ビジョンとその進捗、その背景・基盤となる非財務情報が詳細に説明されているとの声が寄せられた。また、そのほかの 2 項目についても上位の評価となり、これらの結果、この分野において同得点第 2 位（昨年度第 4 位）となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それが有益であること」（第 2 位）は、高い評価となった。これに関連して、R&D や事業説明会、ESG 関連の説明会を積極的に開催しているとの声が寄せられ、また、ASCO（米国臨床腫瘍学会）など学会関連の説明会を評価する声もあった。

第 3 位 アステラス製薬（総合評価点 79.4 点〔昨年度比－5.1 点〕、昨年度第 1 位）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が第 1 位（91%）、**ESG 関連**が同得点第 2 位（75%）、**自主的情報開示**が第 3 位（80%）、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 3 位（83%）、**説明会等**が同得点第 4 位（77%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」（同得点第 3 位）および「経営陣の IR 姿勢」（第 4 位）が共に評価され、この分野において同得点第 3 位（昨年度第 2 位）となった。これらに関連して、経営陣は IR 活動に積極的であり、また、IR 部門へのリソース配分や情報集積も十分であるとの声や、ネガティブ情報も含め投資家が求める情報を開示する姿勢を評価する声が寄せられた。なお、会社予想と実績との乖離について十分な説明を望む声があった。

- ③ **説明会等**においては、「説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）が十分であること」が第3位（昨年度第1位）に、「企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」が同得点第6位（昨年度第1位）となり、後者の得点率は、昨年度に比べ10ポイント以上下がった。これらの結果、この分野において同得点第4位（昨年度第1位）となった。これらに関連して、決算説明会での資料や説明で、市場動向や製品売上、R&Dの状況などが詳細に開示されているとの声がある一方で、経営計画の前提条件の変更に関して、より丁寧な説明を求める声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」（同得点第1位）および「KAMで指摘された重要リスク情報が適切に開示されていること」（本年度の新設項目。第1位）は共に、90%以上の得点率となり、この分野においてトップ（昨年度同得点第1位）となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」が最も高い評価となり、「財務情報と非財務情報（環境や社会、人的資本、知財・無形資産等）を統合し、経営の長期的課題に対する取組みと目標を開示していること」が同得点第2位となった。これらに関連して、統合報告書のほかに、サステナビリティ説明会や社外取締役との意見交換会を開催するなど非財務情報の開示に積極的であるとの声が寄せられた。一方で、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」は、昨年度と比べ得点率を下げ、同得点第8位（昨年度第1位）となった。これに関連して、経営計画策定における前提について、よりの確な説明を求める声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それが有益であること」（第3位）は評価された。これに関連して、R&D説明会、デジタル戦略説明会のほか、サステナビリティ説明会や買収に関する説明会などを評価する声が寄せられた。なお、製品每だけでなく領域横断的なR&D説明会の開催も望むとの声があった。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（医薬品）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会・インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目2 (配点 25点)		評価項目2 (配点 20点)		評価項目2 (配点 8点)		評価項目4 (配点 32点)		評価項目1 (配点 15点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4519 中外製薬	80.7	21.2	1	15.4	3	7.0	6	23.0	6	14.1	1	4
2	4568 第一三共	80.0	20.1	5	15.6	1	7.0	6	24.1	2	13.2	2	5
3	4503 アステラス製薬	79.4	20.7	3	15.3	4	7.3	1	24.1	2	12.0	3	1
4	4507 塩野義製薬	78.4	21.1	2	15.1	6	6.4	18	24.2	1	11.6	6	2
5	7747 朝日インテック	78.1	20.7	3	15.6	1	7.1	2	23.0	6	11.7	5	9
6	6869 シスメックス	76.9	19.8	7	15.3	4	7.1	2	22.8	10	11.9	4	7
7	6849 日本光電工業	75.1	19.6	8	15.1	6	7.0	6	23.3	4	10.1	13	
8	4523 エーザイ	74.7	19.5	9	14.3	14	6.5	15	23.0	6	11.4	7	3
9	4543 テルモ	74.2	19.4	10	14.8	8	7.0	6	23.3	4	9.7	15	11
10	4151 協和キリン	73.4	18.1	16	14.6	10	7.1	2	22.3	12	11.3	8	12
11	7733 オリエンパス	73.1	18.7	12	14.5	11	7.1	2	22.9	9	9.9	14	8
12	4578 大塚ホールディングス	72.9	18.6	14	14.3	14	6.7	12	22.7	11	10.6	11	9
13	4502 武田薬品工業	72.2	19.3	11	14.5	11	6.9	10	20.5	16	11.0	9	6
14	4536 参天製薬	72.0	18.3	15	14.5	11	6.7	12	21.7	14	10.8	10	14
14	4887 サワイグループホールディングス	72.0	20.0	6	14.8	8	6.6	14	22.1	13	8.5	18	16
16	4528 小野薬品工業	70.5	18.7	12	14.2	16	6.5	15	20.6	15	10.5	12	13
17	4506 住友ファーマ	62.9	15.8	17	13.6	17	6.5	15	19.5	17	7.5	19	14
18	4552 JCRファーマ	62.1	15.4	18	12.5	18	6.4	18	18.6	19	9.2	16	18
19	4516 日本新薬	61.0	14.9	19	12.0	19	6.1	20	19.0	18	9.0	17	17
20	2413 エムスリー	46.7	13.4	20	9.1	20	6.9	10	13.8	20	3.5	20	19
	評価対象企業評価平均点	71.85	18.67		14.26		6.80		21.74		10.38		

2024年度の具体的評価項目および配点（医薬品）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。例えば、IR対応組織を整備したり（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等）、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、ビジネスモデルやリスクを説明していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。	18
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。	7
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会における開示	
・説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）は十分ですか。	10
(2)説明資料等における開示	
・企業分析に必要なかつ十分な情報が得られますか。	10
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	
3. フェア・ディスクロージャー（8点）	配点
①経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	5
②KAMで指摘された重要リスク情報が適切に開示されていますか。	3
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	
4. ESGに関連する情報の開示（32点）	配点
①社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。	10
②中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。	10
③財務情報と非財務情報（環境や社会、人的資本、知財・無形資産等）を統合し、経営の長期的課題に対する取組みと目標を開示していますか。	10
④非財務情報に関する定量的な実績の開示がされていますか。	2
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（15点）	配点
・注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それは有益ですか。〔過去1年間を目安に評価〕	15
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	

医薬品専門部会委員

部 会 長	山口 秀丸	シティグループ証券
部会長代理	水野 要	東京海上アセットマネジメント
	酒井 文義	UBS証券
	田中 洋	みずほ証券
	兵庫 真一郎	三菱 UFJ 信託銀行
	若尾 正示	JP モルガン証券

評価実施アナリスト（32名）

大野 剛	丸三証券	徳本 進之介	SMBC 日興証券
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	杜 珮	アセットマネジメント One
久保山 浩之	アセットマネジメント One	中名生 正弘	ジェフリース証券会社 東京支店
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	兵庫 真一郎	三菱 UFJ 信託銀行
栗山 乾一	三井住友トラスト・アセットマネジメント	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
高口 伸一	三井住友トラスト・アセットマネジメント	真下 弘司	QUICK
甲谷 宗也	みずほ証券	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
古西 正幸	第一生命保険	松原 弘幸	野村証券
酒井 文義	UBS証券	水野 要	東京海上アセットマネジメント
澤田 信明	JP モルガン・アセット・マネジメント	牟田 知倫	SOMPO アセットマネジメント
芝野 正紘	シティグループ証券	森 貴宏	野村証券
平 秀昭	三井住友トラスト・アセットマネジメント	八並 純子	ニッセイアセットマネジメント
高橋 豊	極東証券経済研究所	山口 秀丸	シティグループ証券
田中 洋	みずほ証券	横山 雄一	三菱 UFJ 信託銀行
谷林 正行	QUICK	葭原 友子	UBS証券
都築 伸弥	みずほ証券	若尾 正示	JP モルガン証券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

鉄鋼・非鉄金属

1. 評価対象企業（15 社）

【鉄鋼】（6 社）

日本製鉄、神戸製鋼所、JFE ホールディングス、東京製鉄（新規）、丸一鋼管、大同特殊鋼

【非鉄金属】（9 社）

日本軽金属ホールディングス、三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWA ホールディングス、UACJ、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	10
計		13	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 15 名（所属先 14 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新規の企業を加えたほか、**経営陣の IR 姿勢等**および **ESG 関連**を中心に項目内容を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 73.1 点（昨年度 73.9 点）、総合評価点の標準偏差は 7.3 点（昨年度 7.1 点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、鉄鋼（6 社）は 74.4 点（昨年度 78.2 点）となり、非鉄金属（9 社）は 72.3 点（昨年度 71.5 点）となった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 71%（昨年度 72%）、**説明会等**が 79%（昨年度 80%）、**フェア・ディスクロージャー**が 81%（昨年度 86%）、**ESG 関連**が 71%（昨年度同率）、**自主的情報開示**が 68%（昨年度 66%）となった。
- ④ 評価項目について見ると、全 13 項目中、次の 2 項目（**説明会等**の中の 1 項目(a)、**フェア・ディスクロージャー**の中の 1 項目(b)）が平均得点率 80%以上となり、高い水準であった。なお、(a)については、本年度において、項目内容および配点を見直した。

(a) 「四半期ごとに、今後の業績動向に関するアナリストミーティングまたはウェブ会議・電話会議を開催して

- いますか。また、今後の業績予想や投資判断を行う上で必要な情報が十分に開示されていますか」(平均得点率 85% [昨年度 99%]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)): 70%台 4 社・80%台 8 社・90%台 3 社)
- (b) 「決算説明会等の内容を、動画、音声、議事録等を通じて、迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか」(平均得点率 82% [昨年度 85%]) (得点率: 40%台 1 社・50%台 1 社・70%台 2 社・80%台 2 社・90%台 9 社))
- ⑤ **ESG 関連**の 4 項目は、次のとおりとなった。なお、(d)の平均得点率は 10%台で、全 13 項目中で最も低い水準であった。社外取締役との対話の機会確保について、下位評価企業の改善努力を求めたい。
- (a) 「経営トップが企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に統合報告書等の資料、説明会等で的確に伝えていますか」(平均得点率 75% [昨年度 76%]) (得点率: 60%台 6 社・70%台 3 社・80%台 6 社)
- (b) 「脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか」(平均得点率 75% [昨年度同率]) (得点率: 60%台 4 社・70%台 6 社・80%台 5 社)
- (c) 「社会貢献、人的資本、人権リスク、労働安全衛生等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか」(平均得点率 71% [昨年度同率]) (得点率: 50%台 1 社・60%台 5 社・70%台 7 社・80%台 2 社)
- (d) 「社外取締役との対話の機会が確保されていますか」(平均得点率 18% [昨年度 12%]) (得点率: 10%台以下 11 社・20%台 1 社・50%台 1 社・70%台 1 社・80%台 1 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 日本製鉄 (ディスクロージャー優良企業 [4 回目]、

総合評価点 81.8 点 [昨年度比 +0.5 点]、昨年度第 3 位)

- ① 同社は、説明会等が第 1 位 (得点率 (以下省略) 90%)、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位 (82%)、ESG 関連が同得点第 3 位 (78%)、フェア・ディスクロージャーが第 5 位 (86%)、自主的情報開示が第 8 位 (71%) となった。昨年度に比べ、自主的情報開示の得点率が大きく改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となった。これに関連して、IR 部門における人員の充実や情報量の多さなど、十分な資源配分を行っているとの声が寄せられた。また、「経営陣の IR 姿勢」も第 3 位となった。これに関連して、経営トップ自らが積極的に情報発信を行うなどの IR 姿勢を評価する声があった。なお、株主還元や ROE 改善、株主資本コスト低減に関する一層のメッセージを望む声があった。
- ③ 説明会等においては、4 項目全てが最も高い評価 (同得点第 1 位を含む。) となった。これらに関連して、最新の技術動向を含めて、説明会の資料が充実しているとの声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」が同得点第 1 位となった。これに関連して、説明会の質疑応答の内容をウェブサイトに掲載している点を評価する声があった。なお、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第 7 位となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」が最も高い評価となった。また、「経営陣の ESG に対する取組姿勢」もトップと僅差の同得点第 2 位となった。なお、「社外取締役との対話の機会が確保されていること」は同得点第 10 位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」は第 8 位 (昨年度第 10 位) となったが、昨年度に比べ、得点率が 10 ポイント以上改善した。評価できるイベントとして、瀬戸内製鉄所広畑地区見学会を挙げる声が多かったほか、US スチール買収に関する説明会も挙げられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第1位 UACJ（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、

総合評価点 81.8 点〔昨年度比+2.8 点〕、昨年度第4位〕

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第1位（83%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（88%）、説明会等（86%）、ESG 関連（78%）が同得点第3位、自主的情報開示が同得点第4位（76%）となった。昨年度に比べ、5分野全てで順位が上がり、総合順位において第1位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。また、「IR 部門の機能」も同得点第4位となり、これらの結果、この分野において第1位（昨年度第4位）となった。これらに関連して、経営トップが IR に積極的で、建設的な議論ができるとの声や、情報開示や IR 活動に市場の意見を反映しているとの声が寄せられた。また、経営トップのスマールミーティングの開催を評価する声もあった。
- ③ 説明会等においては、「インタビューにおいて、企業分析に有益な対話がなされていること」が同得点第1位となった。また、「決算説明会等における会社側の説明が十分であること」（同得点第2位）および「四半期情報開示」（同得点第4位）は共に 85%以上の得点率であった。「説明会資料等における実績および見通しの開示」は第5位であった。これらに関連して、子会社収益などの開示内容が、より充実してきたとの声が寄せられた一方、収益の増減益要因がわかりにくいとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第1位となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」（同得点第4位）は、90%以上の得点率であった。これらの結果、この分野において同得点第1位（昨年度同得点第3位）となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「経営陣の ESG に対する取組姿勢」が最も高い評価となった。また、「脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」が同得点第2位となった。これらに関連して、ESG 説明会を評価する声があった。なお、「社外取締役との対話の機会が確保されていること」は第5位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」は同得点第4位（昨年度第9位）となり、昨年度に比べ、得点率が 10 ポイント近く改善した。評価できるイベントとして、福井工場見学会および IR・Day を挙げる声が多かった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第3位 神戸製鋼所（総合評価点 80.5 点〔昨年度比-3.3 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、ESG 関連が第1位（81%）、説明会等が同得点第3位（86%）、経営陣の IR 姿勢等が第4位（78%）自主的情報開示が第7位（74%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第7位（83%）となった。昨年度に比べ、ESG 関連を除く4分野において得点率が下がったが、高水準を維持した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が第3位となり、「経営陣の IR 姿勢」は第6位となった。これらに関連して、市場との対話機会を重視する経営陣の IR 姿勢を評価する声があったほか、ROIC 経営を打ち出し、株価を意識した情報発信を強化しているとの声もあった。IR 部門については、人員が充実しているとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会資料等における実績および見通しの開示」が同得点第2位となり、トップと僅差であった。「四半期情報開示」も第3位となり、90%以上の得点率であった。これらに関連して、定量的な開示が広がり、企業への理解度が深まり、先行きの方向性が見えるとの声があった。また、「説明会、インタビューにおける開示」の2項目は、共に 80%以上の得点率となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」が同得点第1位となった。一方、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は第14位となり、昨年度に比べ、得点率が大きく下がった。
- ⑤ ESG 関連においては、「経営陣の ESG に対する取組姿勢」がトップと僅差の同得点第2位となり、また、「ESG に関する情報開示」（3項目）が同得点第1位となった結果、この分野において昨年度に続き第1位となった。これらに関連して、ESG 説明会や社外取締役パネルディスカッションの実施を評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」

は第 7 位となった。評価できるイベントとして、高砂工場見学会、機械事業説明会、コベルコ建機工場説明会などの開催を挙げる声が多かった。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（鉄鋼・非鉄金属）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目2 (配点30点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における 評価項目4 (配点20点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目2 (配点10点)		4. ESGに関連する情報の開示 評価項目4 (配点30点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1 (配点10点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5401 日本製鉄	81.8	24.7	2	17.9	1	8.6	5	23.5	3	7.1	8	3
1	5741 UACJ	81.8	24.8	1	17.1	3	8.8	1	23.5	3	7.6	4	4
3	5406 神戸製鋼所	80.5	23.4	4	17.1	3	8.3	7	24.3	1	7.4	7	1
4	5711 三菱マテリアル	79.6	23.5	3	15.4	9	8.8	1	23.6	2	8.3	1	8
5	5411 JFEホールディングス	78.8	22.8	7	17.5	2	8.4	6	23.1	6	7.0	9	2
6	5706 三井金属鉱業	77.6	22.9	6	16.3	6	8.2	10	22.0	7	8.2	3	6
7	5713 住友金属鉱山	76.0	21.1	8	15.2	11	8.7	4	23.5	3	7.5	6	7
8	5463 丸一銅管	73.9	20.6	10	16.5	5	8.3	7	20.2	9	8.3	1	9
9	5471 大同特殊鋼	71.8	20.3	11	15.5	7	8.3	7	20.1	10	7.6	4	10
10	5801 古河電気工業	71.7	20.8	9	14.5	14	8.8	1	20.8	8	6.8	10	5
11	5803 フジクラ	70.5	23.1	5	15.5	7	6.8	14	18.8	12	6.3	11	11
12	5714 DOWAホールディングス	65.1	18.2	12	15.1	12	8.1	12	18.2	15	5.5	13	12
13	5703 日本軽金属ホールディングス	64.1	17.2	14	14.1	15	8.2	10	18.5	14	6.1	12	14
14	5802 住友電気工業	63.9	18.0	13	14.8	13	7.6	13	18.8	12	4.7	14	13
15	5423 東京製鐵	59.3	16.9	15	15.4	9	5.1	15	18.9	11	3.0	15	
	評価対象企業評価平均点	73.09	21.22		15.86		8.07		21.18		6.76		

2024年度評価項目および配点（鉄鋼・非鉄金属）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス （30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが企業価値向上（成長期待、資本効率、資本コスト）への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
(2)IR部門の機能	
・経営トップがIR部門の重要性を認識し、十分な資源配分を行っていますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 （20点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①決算説明会等における会社側の説明は十分ですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
②インタビューにおいて、企業分析に有益な対話がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(2)説明会資料等における実績および見通しの開示	
・収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されており、かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	5
(3)四半期情報開示	
・四半期ごとに、今後の業績動向に関するアナリストミーティングまたはウェブ会議・電話会議を開催していますか。また、今後の業績予想や投資判断を行う上で必要な情報が十分に開示されていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー （10点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	5
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供	
・決算説明会等の内容を、動画、音声、議事録等を通じて、迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか。	5
4. ESGに関連する情報の開示 （30点）	配点
(1)経営陣のESGに対する取組姿勢	
・経営トップが企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に統合報告書等の資料、説明会等での確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)ESGに関する情報開示	
①脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか。	8
②社会貢献、人的資本、人権リスク、労働安全衛生等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか。	5
③社外取締役との対話の機会が確保されていますか。	2
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 （10点）	配点
・工場見学、事業説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。[過去1年間を目安に評価]【充実していた工場見学や説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	10

鉄鋼・非鉄金属専門部会委員

部 会 長	山口 敦	SMBC 日興証券
部会長代理	五老 晴信	UBS 証券
	井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	尾崎 慎一郎	大和証券
	白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	竹元 宏和	明治安田アセットマネジメント
	松本 裕司	野村證券

評価実施アナリスト(15名)

井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	中村 宏司	QUICK
岩崎 彰	大和アセットマネジメント	西脇 秀敏	三菱 UFJ 信託銀行
荻野 晃	丸三証券	藤岡 哲也	アセットマネジメント One
尾崎 慎一郎	大和証券	松本 裕司	野村證券
五老 晴信	UBS 証券	宮原 秀和	丸三証券
白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券	虫明 直槻	東京海上アセットマネジメント
竹元 宏和	明治安田アセットマネジメント	山口 敦	SMBC 日興証券
竹間 雅子	SOMPO アセットマネジメント		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

機 械

1. 評価対象企業（19 社）

アマダ、ナブテスコ、SMC、小松製作所、住友重機械工業、日立建機、クボタ、荏原製作所、ダイキン工業、栗田工業、ダイフク、日本精工、THK、安川電機、マキタ、ファナック、三菱重工業、川崎重工業、IHI

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	16
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	11
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	5	36
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	11
計		13	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 26 名（所属先 20 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 当業種は、2023 年度の優良企業選定を休止し、本年度再開した。従って、本年度において比較参照する過去の数値は 2022 年度（以下「前回」という。）のものである。

本年度は、評価項目分野のうち、**ESG 関連**を中心に項目数、内容および配点を見直した。このため、前回と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 70.2 点（前回 72.8 点）、総合評価点の標準偏差は 10.1 点（前回 12.8 点）であった。なお、評価対象企業 19 社のうち 14 社の総合評価点が下がった。

② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 70%（前回同率）、**説明会等**が 76%（前回 79%）、**フェア・ディスクロージャー**が 81%（前回 80%）、**ESG 関連**が 66%（前回 71%）、**自主的情報開示**が 67%（前回 59%）となった。

③ 評価項目について見ると、全 13 項目中、次の 2 項目（フェア・ディスクロージャーの中の 2 項目）の平均得点率が 80%以上となり、高い水準となった。

(a) 「[フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢] 経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか（会社にとって都合が悪い情報、メディアへの対応を含む）」（平均得点率 82% [前回 84%]）（得点率（評価点/配点（以下省略））：60%台 1 社・70%台 2 社・80%台 15 社・90%台 1 社）

(b) 「[ウェブサイトにおける情報提供] 決算説明会等での質疑応答の内容がウェブサイトでもわかるようにな

っていますか」(平均得点率 84% [前回 79%]) (得点率: 0%3 社・100%16 社)

④ なお、これまでの報告書において改善を求めてきた、**フェア・ディスクロージャー**の中の「ウェブサイトにおける情報提供」(2 項目)については、改善傾向にあるものの、一部の企業においては、依然として 0%評価となっており、当該企業には早急の改善を求めたい。

⑤ **ESG 関連**の 5 項目については、次のとおりとなった。(d)を除く各項目の内容については、本年度、大幅に見直しを行ったため、前回比は示していない。なお、(a)は、全 13 項目中で、最も低い平均得点率となった。多くの企業が 0%評価であり、当該企業の改善努力を求めたい。

(a) 「ESG 関連の説明会の開催や、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率 29%) (得点率: 0%11 社・60%6 社・100%2 社)

(b) 「環境に関する取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか」(平均得点率 74%) (得点率: 60%台 5 社・70%台 8 社・80%台 6 社)

(c) 「社会貢献、人的資本、人権リスク等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか」(平均得点率 72%) (得点率: 60%台 4 社・70%台 14 社・80%台 1 社)

(d) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、政策保有株式、役員報酬の算定方式等」(平均得点率 74% [前回 76%]) (得点率: 60%台 5 社・70%台 10 社・80%台 4 社)

(e) 「資本政策(資本コスト・キャピタルアロケーション等)、株主還元策が十分に説明されていますか」(平均得点率 69%) (得点率: 50%台 1 社・60%台 8 社・70%台 7 社・80%台 3 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 荏原製作所 (ディスクロージャー優良企業 [初受賞])

総合評価点 85.7 点 [前回比+1.5 点]、前回第 2 位]

① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**(得点率〈以下省略〉95%)、**ESG 関連**(85%)が第 1 位、**経営陣の IR 姿勢等**(83%)、**自主的情報開示**(85%)が第 2 位、**説明会等**が第 3 位(85%)となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、経営トップをはじめ経営陣が IR に積極的に関与しているとの声のほか、決算説明会やスモールミーティングで経営トップの改革に対する熱意が伝わってくるとの声が寄せられた。「IR 部門の機能」は第 6 位となった。投資家のニーズに合わせて他部門との連携ができているとの声がある一方、IR 部門からの情報の質が向上しているとしつつ、さらに的確な情報の提供を望む声もあった。

③ **説明会等**においては、「説明資料等(短信及びその付属資料・説明会資料)における開示」が最も高い評価となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」(同得点第 4 位)も、前回に比べ、得点率が改善した。これらに関連して、投資家が必要とする情報が決算説明会資料に一元化され、わかりやすいとの声が寄せられた。なお、顧客別の動向に関する追加説明や為替感応度の開示を望む声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が最も高い評価となった。また、「ウェブサイトにおける情報提供」の 2 項目も、いずれも満点評価となり、これらの結果、この分野におけるトップ(前回同得点第 2 位)となった。

⑤ **ESG 関連**においては、「ESG 関連の説明会の開催や、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」が満点評価となったほか、「社会に関する項目」および「コーポレート・ガバナンスに関する項目」が共に最も高い評価となった。そのほかの 2 項目も、いずれも 80%以上の得点率となり、これらの結果、この分野におけるトップ(前回同得点第 3 位)となった。これらに関連して、経営トップや社外取締役と投資家とのスモールミーティングを定期的で開催していることを評価する声が寄せられたほか、開示において TCFD シナリオ分析による事業別インパクトが詳細かつ定量的であることを評価する声があった。

⑥ **自主的情報開示**の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」(第 2 位)は高い評価となった。これに関連し、熊本工場や藤沢工場

の見学会は、各製品の強みや生産部門の改善努力を体感できて有意義だったとの声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 小松製作所（総合評価点 84.8点〔前回比－4.1点〕、前回第1位）

- ① 同社は、説明会等が同得点第1位（86%）、ESG 関連が第2位（83%）、経営陣の IR 姿勢等（82%）、自主的情報開示（85%）が第3位、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（94%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」（第2位）および「IR 部門の機能」（第3位）が共に、80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップが IR に積極的に関与し、説明も明快であるとの声や、四半期毎の経営トップのスマールミーティングの開催を評価する声が寄せられた。また、IR 部門については、経営陣と投資家との橋渡しの役割を果たしているとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が最も高い評価となった。「説明資料等（短信及びその付属資料・説明会資料）における開示」（同得点第3位）も評価されたが、前回に比べ、得点率が下がった。これらの結果、この分野において同得点第1位（前回第1位）となった。これらに関連して、説明資料は全体的に優れているとの声や、需要環境が明示されており参考になるとの声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトにおける情報提供」の2項目が共に、満点の評価となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第3位）についても、高い評価となった。これらの結果、この分野において同得点第3位となった。これらに関連して、決算説明会について、質疑応答を含めた動画をウェブサイトに掲載しており、フェア・ディスクロージャーへの配慮がなされているとの声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「ESG 関連の説明会の開催や、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取り組みをしていること」が満点評価となった。これに関連して、社外取締役と投資家とのミーティングは、資本効率や株主還元について考える上で参考になったとの声があった。また、「社会に関する項目」および「コーポレート・ガバナンスに関する項目」が共に第2位になり、他の2項目も80%以上の得点率となった。これらに関連して、会社としての取組みがわかりやすいとの声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」（第3位）は高い評価となった。これに関連し、事業説明会の開催を評価する声があったほか、定期的に行われる工場見学会が評価され、特に、大阪工場見学会が有益だったとの声があった。

第3位 ダイキン工業（総合評価点 79.8点〔前回比－7.3点〕、前回第3位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第1位（84%）、説明会等が同得点第1位（86%）、ESG 関連が第3位（73%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第9位（92%）、自主的情報開示が同得点第11位（70%）となった。前回に比べ、ESG 関連および自主的情報開示の得点率が大きく下がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となった。また、「経営陣の IR 姿勢」（同得点第3位）も評価された結果、この分野における第1位となった。これらに関連して、経営トップが積極的に説明会に関与しており、決算説明会でのメッセージも評価できるとの声が寄せられた。なお、個別やスマールのミーティングを期待する声があった。IR 部門については、情報集積が高く、アクセスも容易であるとの声や、投資家のニーズを踏まえた対応に努めているとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」（第2位）および「説明資料等（短信及びその付属資料・説明会資料）における開示」（第2位）が共に高い評価となり、この分野において同得点第1位となった。これらに関連して、IR 担当者の回答が的確であるとの声や、質疑応答を含めたスクリプトを開示している点を評価する声があった。なお、PFAS（有機フッ素化合物）などの訴訟や規制動向について継続的な開示を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトにおける情報提供」の2項目が共に満点の評価となった。なお、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第11位となった。
- ⑤ ESG 関連においては、環境に関する項目が同得点第1位となった。また、社会に関する項目が第3位となり、

「ESG 関連の説明会の開催や、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」が同得点第 3 位となった。なお、「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていること」は同得点第 9 位、「コーポレート・ガバナンスに関する項目」は同得点第 11 位であった。これらに関連して、サステナビリティ説明会を毎年開催し企業価値向上の取組みを紹介していることを評価する声があった。

- ⑥ 自主的情報開示の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」（同得点第 11 位）は、前回に比べ、得点率が下がった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **アマダ**（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 74.8 点〔前回比+10.5 点、前々回比+3.8 点〕、第 9 位〔前回第 15 位、前々回第 14 位〕）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 5 位（80%）、説明会等が同得点第 7 位（79%）、ESG 関連が第 10 位（66%）、フェア・ディスクロージャーが第 12 位（91%）、自主的情報開示が第 13 位（68%）となった。前回に比べ、ESG 関連および自主的情報開示の得点率が大幅に上昇し、総合評価点で+10.5 点となった。なお、順位は、前回に比べ 6 ランク、前々回に比べ 5 ランク上がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が第 5 位に、「経営陣の IR 姿勢」も同得点第 5 位となった。これらに関連して、会長および社長が自ら四半期毎の説明会に毎回出席していることを評価する声が寄せられた。なお、経営戦略に関して一層のアピールが必要との声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等（短信及びその付属資料・説明会資料）における開示」が第 7 位に、「説明会、インタビューにおける開示」が第 8 位となった。四半期毎の役員による取材対応を評価する声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトにおける情報提供」の 2 項目が共に満点の評価となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていること」が最も高い評価となった。また、そのほかの項目の多くも、得点率が大きく改善した。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」（第 13 位）は、前回と比べ、得点率が大幅に改善した。これに関連して、中期経営計画説明会、ショールーム見学会は、経営方針を理解する上で、有益だったとの声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以 上

2024年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（機械）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目2 (配点 26点)		評価項目2 (配点 16点)		評価項目3 (配点 11点)		評価項目5 (配点 36点)		評価項目1 (配点 11点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6361 荏原製作所	85.7	21.6	2	13.6	3	10.5	1	30.6	1	9.4	2	2
2	6301 小松製作所	84.8	21.4	3	13.8	1	10.3	3	30.0	2	9.3	3	1
3	6367 ダイキン工業	79.8	21.8	1	13.8	1	10.1	9	26.4	3	7.7	11	3
4	6506 安川電機	79.2	20.5	6	13.5	4	10.4	2	26.0	5	8.8	5	5
5	7012 川崎重工業	77.8	19.9	7	12.9	6	10.3	3	25.9	6	8.8	5	10
6	6305 日立建機	76.3	19.0	10	12.7	7	10.3	3	25.4	7	8.9	4	6
7	6370 栗田工業	75.2	18.5	11	12.1	10	10.2	7	26.2	4	8.2	8	4
8	7011 三菱重工業	74.9	19.1	9	11.9	12	10.1	9	24.0	9	9.8	1	8
9	6113 アマダ	74.8	20.8	5	12.7	7	10.0	12	23.8	10	7.5	13	15
10	6326 クボタ	70.6	19.9	7	12.5	9	7.2	14	22.6	12	8.4	7	9
11	6383 ダイフク	69.1	21.2	4	13.1	5	4.0	18	22.7	11	8.1	10	14
12	7013 IHI	66.9	16.7	14	11.3	14	9.8	13	21.4	13	7.7	11	11
13	6471 日本精工	66.7	15.3	17	11.0	15	10.2	7	24.5	8	5.7	14	12
14	6302 住友重機械工業	66.0	15.7	16	10.6	16	10.1	9	21.4	13	8.2	8	13
15	6268 ナブテスコ	62.8	15.9	15	10.6	16	10.3	3	21.4	13	4.6	18	7
16	6273 SMC	62.1	16.8	13	12.0	11	7.1	16	20.7	16	5.5	15	19
17	6586 マキタ	57.6	16.9	12	11.7	13	3.8	19	20.1	17	5.1	16	16
18	6481 THK	54.9	13.4	18	10.2	18	7.2	14	19.4	19	4.7	17	17
19	6954 ファナック	48.3	9.3	19	9.7	19	6.4	17	19.6	18	3.3	19	18
	評価対象企業評価平均点	70.19	18.09		12.09		8.86		23.80		7.35		

2024年度評価項目および配点（機械）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（26点）	配点	委員のみ
(1)経営陣のIR姿勢		
・経営トップが企業価値向上（成長期待、資本効率、資本コスト）への意識を高め、経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	13	
(2)IR部門の機能		
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、アクセスも容易で、担当者と有益なディスカッションができますか。また、投資家のニーズに合わせ、他部門（ESG関連部門など）と連携をとっていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	13	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（16点）	配点	委員のみ
(1)説明会、インタビューにおける開示		
・決算説明会およびインタビューにおける会社側の説明（質疑応答を含む）は十分ですか。	8	
(2)説明資料等（短信およびその付属資料・説明会資料）における開示		
・投資家が求める情報（業界動向、事業別損益、中期の経営戦略、為替等会社計画の前提、会計変更の影響）が十分に開示されていますか。	8	
3. フェア・ディスクロージャー（11点）	配点	委員のみ
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。（会社にとって都合が悪い情報、メディアへの対応を含む）	5	
(2)ウェブサイトにおける情報提供		
①決算説明会等の内容はウェブサイトで動画または音声で視聴できますか。	3	●
②決算説明会等での質疑応答の内容がウェブサイトでも分かるようになっていますか。	3	●
4. ESGに関連する情報の開示（36点）	配点	委員のみ
①ESG関連の説明会の開催や、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5	●
②環境に関する取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか。	8	
③社会貢献、人的資本、人権リスク等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか。	8	
④コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、政策保有株式、役員報酬の算定方式等。	5	
⑤資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていますか。	10	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（11点）	配点	委員のみ
・会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していますか。[過去1年間を目安に評価]	11	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

機械専門部会委員

部 会 長	田 井 宏 介	大和証券
部会長代理	下 森 浩	三菱 UFJ 信託銀行
	井 原 芳 直	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	佐 野 友 彦	JP モルガン証券
	前 川 健 太 郎	野村証券
	宮 崎 孝 志	三井住友トラスト・アセットマネジメント

評価実施アナリスト(26名)

井上 昂洋	シティグループ 証券	下 森 浩	三菱 UFJ 信託銀行
石田 重和	丸三証券	田 井 宏 介	大和証券
伊藤 辰彦	みずほ証券	谷 林 正 行	QUICK
猪股 彩香	大和証券	田 村 真 一	極東証券経済研究所
井原 芳直	モルガン・スタンレー MUFG 証券	野 口 昌 泰	SBI 証券
王 博瓊	野村証券	柊 宏 二	QUICK
大平 光行	東海東京インテリジェンス・ラボ	堀 井 章	ニッセイアセットマネジメント
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	前 川 健 太 郎	野村証券
小野 真奈美	SOMPO アセットマネジメント	グレース マクナルト	シティグループ 証券
児玉 芳明	明治安田アセットマネジメント	道 脇 祐 介	三菱 UFJ 信託銀行
佐野 友彦	JP モルガン証券	宮 崎 孝 志	三井住友トラスト・アセットマネジメント
澤田 智博	三井住友 DS アセットマネジメント	八 木 原 謙 一	第一生命保険
清水 俊宏	アセットマネジメント One	渡 辺 洋 一 郎	水戸証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

電気・精密機器

1. 評価対象企業（23 社）

【産業・民生エレクトロニクス部門】（8 社）

日 立 製 作 所、三 菱 電 機、オ ム ロ ン、日 本 電 気、富 士 通、
ル ネ サ ス エ レ ク ト ロ ニ ク ス、パ ナ ソ ニ ッ ク ホ ー ル デ ィ ン グ ス、
ソ ニ ー グ ル ー プ

【電子部品部門】（6 社） ミネベアミツミ、ニデック、TDK、ローム、京セラ、村田製作所

【精密機器部門】（9 社） 富士フイルムホールディングス、ディスコ、セイコーエプソン、 アドバンテスト、レーザーテック（新規）、HOYA、キャノン、 リ コ ー、東 京 エ レ ク ト ロ ン

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	10
計		13	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 70 名（所属先 31 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新規に企業を加えたほか、ESG 関連を中心に項目数・内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の電気・精密機器全体（以下「全体」）の総合評価平均点は 76.1 点（昨年度 76.7 点）、総合評価点の標準偏差は 6.0 点（昨年度 5.5 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、高得点順に、産業・民生エレクトロニクス部門（8 社）が 78.2 点（昨年度 77.2 点）、精密機器部門（9 社）が 75.3 点（昨年度 78.5 点）、電子部品部門（6 社）が 74.4 点（昨年度 74.0 点）となった。昨年度に比べ、精密機器部門が下がった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 74%（昨年度 77%）、説明会等が 77%（昨年度同率）、フェア・ディスクロージャーが 84%（昨年度 86%）、

ESG 関連が 80%（昨年度 78%）、自主的情報開示が 67%（昨年度同率）となった。

- ④ 評価項目について見ると、全 13 項目のうち、**フェア・ディスクロージャー**の次の項目および **ESG 関連**の中の 1 項目（下記⑥の(d)）が 80%以上の平均得点率となり、高水準であった。

- ・「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率 84%〔昨年度 86%〕）（得点率（評価点/配点<以下省略>）：70%台 4 社・80%台 17 社・90%台 2 社）

- ⑤ 一方、**自主的情報開示**の次の項目は平均得点率が 67%と、昨年度に続き最も低かった。

- ・「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益でしたか」（平均得点率 67%〔昨年度同率〕）（得点率：50%台 5 社・60%台 9 社・70%台 8 社・90%台 1 社）

- ⑥ **ESG 関連**の 4 項目は、次のとおりとなり、いずれも 75%以上の平均得点率となった。なお、(d)については、依然として、上位と下位の評価に大きな差が見られるため、下位評価企業においては、統合報告書の発行、内容の充実を求めたい。

- (a) 「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか」（平均得点率 79%〔昨年度 80%〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 2 社・70%台 7 社・80%台 13 社）
- (b) 「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していますか」（平均得点率 79%〔昨年度 77%〕）（得点率：60%台 2 社・70%台 13 社・80%台 5 社・90%台 3 社）
- (c) 「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていますか」（平均得点率 79%〔昨年度 76%〕）（得点率：60%台 2 社・70%台 9 社・80%台 11 社・90%台 1 社）
- (d) 「(上記(a)～(c)の) ESG 情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していますか」（平均得点率 82%〔昨年度 78%〕）（得点率：30%台 1 社・50%台 1 社・60%台 1 社・70%台 2 社・80%台 11 社・90%台 7 社）

(2) 全体の上位 3 企業の評価概要

第 1 位 日立製作所（ディスクロージャー優良企業〔3 回目〕、

総合評価点 86.0 点〔昨年度比+1.1 点〕、昨年度第 2 位〕

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第 1 位（得点率〈以下省略〉86%）、**説明会等**（84%）、**ESG 関連**（90%）が第 2 位、**自主的情報開示**が同得点第 2 位（77%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 3 位（88%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」が最も高い評価となった。また、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」（第 2 位）も 85%以上の得点率となった。これらに関連して、経営陣は資本市場との対話を通じて積極的に経営にフィードバックしているとの声や、Investor Day で経営トップ自らが企業価値向上へのロードマップを示すなど意識が高いとの声が寄せられた。「IR 部門の機能、基本スタンス」は同得点第 3 位（昨年度同得点第 8 位）となった。これに関連して、IR 担当者の説明力・理解力が高く、有益なディスカッションができるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会資料等における開示」が最も高い評価となった。また、「説明会における開示」（2 項目）および「インタビュー等における開示」も共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、セグメント毎、四半期毎に多様な定量情報がエクセルにまとめられている点を評価する声があった。なお、スモ

ールミーティングで聞かないとわからない数値も補足資料で開示してほしいとの声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、トップと僅差の同得点第 3 位となった。日英両言語でのタイムリーな情報提供を評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、4 項目全てにおいて高い評価となり、いずれも 85%以上の得点率であった。この結果、この分野においてトップと僅差の第 2 位となった。これらに関連して、統合報告書の内容がサステナビリティレポートと連携しており、読みやすいとの声や、ESG に関する説明会の機会が豊富との声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は同得点第 2 位となった。有益なイベントとして、Investor Day を挙げる声が多く寄せられ、そのほか、日立エナジー見学会を評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 富士フイルムホールディングス（総合評価点 84.9 点〔昨年度比+1.2 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社は、ESG 関連（90%）、自主的情報開示（91%）が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 3 位（88%）、経営陣の IR 姿勢等が同得点第 4 位（81%）、説明会等が第 9 位（81%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示の得点率が大きく改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目が共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップが企業価値向上や IR への取組みに真摯であり、決算説明会や事業説明会などに参加し自ら説明しているとの声が寄せられた。また、ESG を重要課題としており、中長期の経営戦略とリンクする形で積極的に開示しているとの声もあった。なお、経営陣との個別ミーティングの機会を一層望む声があった。「IR 部門の機能、基本的スタンス」は同得点第 6 位となった。これに関連して、IR 部門に十分な情報が集積され、決算説明会や取材においても有益な議論ができるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会資料等における開示」が同得点第 3 位となった。これに関連して、決算資料には、定量・定性ともに十分な情報が開示されており、ビジュアルも改善しているとの声があった。なお、情報の詳細について取材が必要な場合があるとの声があった。「インタビュー等における開示」は同得点第 5 位となった。また、「説明会における開示」の 2 項目が共に同得点第 9 位となった。これらに関連して、事業が多岐にわたるが、それぞれについて詳細な説明や事業説明会を開催し、投資家の理解を深めようとしている姿勢を評価する声があった。一方で、会社計画と足元の業況との相違について議論し切れない部分もあるとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、トップと僅差の同得点第 3 位となった。これに関連して、決算説明のほか各種事業説明会の詳細な内容もウェブサイトに掲載されている点を評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、4 項目全てが高い評価となり、いずれも 85%以上の得点率であった。この結果、この分野におけるトップとなった。これらに関連して、統合報告書において、人材戦略、ステークホルダーとの価値共創、サステナビリティ、コーポレートガバナンスの開示が具体的である。また、ESG 説明会での人材戦略の開示も優れているとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は最も高い評価となった。有益なイベントとして、バイオ CDMO 事業説明会を挙げる声が多く、そのほかに ESG 説明会（人材戦略）などの各種説明会が挙げられた。

第3位 オムロン（総合評価点 82.5 点〔昨年度比－4.3 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（90%）、経営陣の IR 姿勢等（82%）、ESG 関連（89%）が第3位、説明会等が第8位（81%）、自主的情報開示が同得点第14位（65%）となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて、得点率が下がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の2項目が共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営陣が積極的に説明会に参加しており、そのほかにも経営トップとの対話の機会を設けていることを評価する声が寄せられた。また、統合報告書や ESG 説明会を通じて、経営陣の ESG 重視の姿勢が伝わるとの声もあった。「IR 部門の機能、基本的スタンス」は同得点第8位となった。これに関連して、IR 部門の説明力や情報提供力が高いとの声があった一方で、重要情報の開示が四半期毎に変わることがあるなど、IR 資料での情報開示に一貫性がないケースが見られるとの声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明会資料等における開示」が第2位となった。これに関連して、説明資料は充実しているとの声のほか、代理店在庫情報の開示を評価する声が寄せられた。なお、重要である制御機器事業の内訳の情報が不十分との声があった。また、「説明会における開示」の2項目も共に 80%以上の得点率となった。なお、「インタビュー等における開示」は同得点第15位となった。これに関連して、受注に関する十分な定量情報を求める声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第1位となった。日英両言語でのタイムリーな情報提供を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、4項目全てにおいて高い評価となり、いずれも 85%以上の得点率であった。これらに関連して、人的資本に関する開示、KPI 設定が優れているとの声があった。なお、Scope3 の目標の設定、開示を望む声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会・社外取締役を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は同得点第14位となった。有益なイベントとして、構造改革プログラム説明会や ESG 説明会などを挙げる声があった。なお、工場見学会の積極的な開催を望む声のほか、社外取締役とのミーティングを望む声もあった。

（参考） 部門別の第1位企業

【産業・民生エレクトロニクス部門】

日立製作所（総合評価点 86.0 点、全体第1位）

【電子部品部門】

ミネベアミツミ（総合評価点 80.1 点、全体第6位）

【精密機器部門】

富士フイルムホールディングス（総合評価点 84.9 点、全体第2位）

以 上

2024年度 ディスクロージャ-評価比較総括表 (電気・精密機器:全体)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャ-		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6501 日立製作所	86.0	30.2	1	16.8	2	4.4	3	26.9	2	7.7	2	2
2	4901 富士フイルムホールディングス	84.9	28.3	4	16.1	9	4.4	3	27.0	1	9.1	1	3
3	6645 オムロン	82.5	28.6	3	16.2	8	4.5	1	26.7	3	6.5	14	1
4	8035 東京エレクトロン	81.6	29.6	2	16.5	6	4.4	3	24.4	10	6.7	11	4
5	6758 ソニーグループ	80.6	27.1	10	15.3	12	4.2	9	26.3	4	7.7	2	6
6	6479 ミネベアミツミ	80.1	28.3	4	16.7	3	4.2	9	24.9	7	6.0	18	7
7	6981 村田製作所	79.8	27.4	6	16.9	1	4.2	9	24.7	8	6.6	13	10
8	7752 リコー	78.9	27.4	6	14.1	18	4.5	1	26.2	5	6.7	11	11
9	6857 アドバンテクト	78.0	27.0	11	15.7	11	4.1	16	23.9	12	7.3	5	5
10	6762 TDK	77.8	26.3	13	16.3	7	4.1	16	24.3	11	6.8	10	16
11	6702 富士通	76.9	26.5	12	14.6	15	3.9	20	24.6	9	7.3	5	20
12	7741 HOYA	76.5	27.4	6	16.7	3	4.4	3	22.9	18	5.1	22	8
13	6723 ルネサス エレクトロニクス	76.2	26.0	15	16.7	3	4.2	9	22.0	20	7.3	5	14
14	6503 三菱電機	75.6	25.3	16	15.2	14	4.2	9	23.7	14	7.2	8	22
15	6594 ニデック	75.0	27.2	9	15.3	12	4.0	18	22.7	19	5.8	19	18
16	6701 日本電気	74.7	26.1	14	14.3	16	3.9	20	23.3	17	7.1	9	19
16	6724 セイコーエプソン	74.7	24.9	17	14.0	21	4.2	9	25.1	6	6.5	14	9
18	6752 パナソニック ホールディングス	72.7	23.1	20	14.1	18	4.2	9	23.8	13	7.5	4	15
19	7751 キヤノン	71.6	23.2	19	14.3	16	4.4	3	23.6	15	6.1	17	17
20	6146 ディスコ	70.0	24.5	18	16.0	10	4.3	8	18.8	22	6.4	16	21
21	6963 ローム	67.6	22.8	21	14.1	18	3.8	22	21.8	21	5.1	22	13
22	6971 京セラ	66.2	20.5	23	13.0	22	4.0	18	23.5	16	5.2	21	24
23	6920 レーザーテック	61.1	21.6	22	12.7	23	3.8	22	17.5	23	5.5	20	
	評価対象企業評価平均点	76.07	26.06		15.30		4.19		23.86		6.66		

2024年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（産業・民生エレクトロニクス部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目3 (配点 35点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目4 (配点 20点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目1 (配点 5点)		4. ESGに関連する情報の開示 評価項目4 (配点 30点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1 (配点 10点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6501 日立製作所	86.0	30.2	1	16.8	1	4.4	2	26.9	1	7.7	1	2
2	6645 オムロン	82.5	28.6	2	16.2	3	4.5	1	26.7	2	6.5	8	1
3	6758 ソニーグループ	80.6	27.1	3	15.3	4	4.2	3	26.3	3	7.7	1	3
4	6702 富士通	76.9	26.5	4	14.6	6	3.9	7	24.6	4	7.3	4	8
5	6723 ルネサスエレクトロニクス	76.2	26.0	6	16.7	2	4.2	3	22.0	8	7.3	4	5
6	6503 三菱電機	75.6	25.3	7	15.2	5	4.2	3	23.7	6	7.2	6	9
7	6701 日本電気	74.7	26.1	5	14.3	7	3.9	7	23.3	7	7.1	7	7
8	6752 パナソニックホールディングス	72.7	23.1	8	14.1	8	4.2	3	23.8	5	7.5	3	6
	評価対象企業評価平均点	78.16	26.62		15.40		4.19		24.66		7.29		

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（電子部品部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目3 (配点 35点)	評価項目4 (配点 20点)	評価項目1 (配点 5点)	評価項目4 (配点 30点)	評価項目1 (配点 10点)	
1	6479 ミネベアミツミ	80.1	評価点 28.3 順位 1	評価点 16.7 順位 2	評価点 4.2 順位 1	評価点 24.9 順位 1	評価点 6.0 順位 3	1
2	6981 村田製作所	79.8	27.4 2	16.9 1	4.2 1	24.7 2	6.6 2	2
3	6762 TDK	77.8	26.3 4	16.3 3	4.1 3	24.3 3	6.8 1	4
4	6594 ニデック	75.0	27.2 3	15.3 4	4.0 4	22.7 5	5.8 4	5
5	6963 ローム	67.6	22.8 5	14.1 5	3.8 6	21.8 6	5.1 6	3
6	6971 京セラ	66.2	20.5 6	13.0 6	4.0 4	23.5 4	5.2 5	7
	評価対象企業評価平均点	74.42	25.42	15.38	4.05	23.65	5.92	

2024年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（精密機器部門）

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位					
			評価項目3 (配点 35点)	評価項目4 (配点 20点)	評価項目1 (配点 5点)	評価項目4 (配点 30点)	評価項目1 (配点 10点)						
			評価点	順位	評価点	順位	評価点		順位	評価点	順位		
1	4901 富士フイルムホールディングス	84.9	28.3	2	16.1	3	4.4	2	27.0	1	9.1	1	1
2	8035 東京エレクトロン	81.6	29.6	1	16.5	2	4.4	2	24.4	4	6.7	3	2
3	7752 リコー	78.9	27.4	3	14.1	7	4.5	1	26.2	2	6.7	3	6
4	6857 アトバンデスト	78.0	27.0	5	15.7	5	4.1	8	23.9	5	7.3	2	3
5	7741 HOYA	76.5	27.4	3	16.7	1	4.4	2	22.9	7	5.1	9	4
6	6724 セイコーエプソン	74.7	24.9	6	14.0	8	4.2	7	25.1	3	6.5	5	5
7	7751 キヤノン	71.6	23.2	8	14.3	6	4.4	2	23.6	6	6.1	7	7
8	6146 ディスコ	70.0	24.5	7	16.0	4	4.3	6	18.8	8	6.4	6	8
9	6920 レーザーテック	61.1	21.6	9	12.7	9	3.8	9	17.5	9	5.5	8	
	評価対象企業評価平均点	75.25	25.99		15.12		4.28		23.26		6.60		

2024年度評価項目および配点（電気・精密機器）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	11
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会における開示	
①決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
②決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していますか。	5
(2)説明会資料等における開示	
・決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料は、必要かつ十分な情報が網羅されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(3)インタビュー等における開示	
・主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明されていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。	5
【フェア・ディスクロージャーに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
①気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか。	8
②ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していますか。	8
③資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていますか。	8
④上記①～③のESG情報を、統合報告書に一括して、詳細に記載していますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・ESG説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M & A説明会・社外取締役を含めたIR活動が実施され、その内容は有益でしたか。（前年7月から本年6月までの間） 【有益な説明会・見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	10

電気・精密機器専門部会委員

部 会 長	佐 渡 拓実	大和証券
部会長代理	江澤 厚太	シティグループ証券
	綾田 純也	JP モルガン証券
	桂 竜輔	SMBC 日興証券
	富井 喜隆	Polymer Capital Japan
	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	和田木 哲哉	モルガン・スタンレー MUFG 証券

評価実施アナリスト（70名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	田中 秀明	モルガン・スタンレー MUFG 証券
綾田 純也	JP モルガン証券	谷林 正行	QUICK
有沢 正一	岩井コスモ証券	竹間 雅子	SOMPO アセットマネジメント
石田 重和	丸三証券	坪井 暁	ニッセイアセットマネジメント
伊藤 健悟	QUICK	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
今津 拓洋	アセットマネジメント One	徳本 進之介	SMBC 日興証券
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	富井 喜隆	Polymer Capital Japan
浦 昌平	アムンティ・シージャパン	富田 展昭	極東証券経済研究所
江澤 厚太	シティグループ証券	中名生 正弘	ジェフリース証券会社 東京支店
大川 淳士	大和証券	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	仁井田 将	りそなアセットマネジメント
大野 剛	丸三証券	西平 孝	岡三証券
大牧 実慶	立花証券	西村 美香	岡三証券
岡崎 優	野村證券	根本 隼	東京海上アセットマネジメント
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	原嶋 悠也	SOMPO アセットマネジメント
小野 まな実	三菱 UFJ 信託銀行	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
片山 智宏	三井住友トラスト・アセットマネジメント	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
桂 竜輔	SMBC 日興証券	藤原 毅郎	シティグループ証券
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	堀 雄介	みずほ証券
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	堀井 章	ニッセイアセットマネジメント
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	前川 健太郎	野村證券
甲谷 宗也	みずほ証券	グレアム マクナルド	シティグループ証券
児玉 芳明	明治安田アセットマネジメント	松浦 勇佑	丸三証券
小西 慶祐	QUICK	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
小林 守伸	ニッセイアセットマネジメント	宮原 秀和	丸三証券
斉田 健一	みずほ証券	八木原 謙一	第一生命保険
佐渡 拓実	大和証券	安田 秀樹	東洋証券
佐藤 俊郎	極東証券経済研究所	山崎 雅也	野村證券
醒井 周太	ニッセイアセットマネジメント	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
芝野 正紘	シティグループ証券	山田 陽子	三菱 UFJ 信託銀行
下森 浩	三菱 UFJ 信託銀行	山本 真以人	ニッセイアセットマネジメント
平 秀昭	三井住友トラスト・アセットマネジメント	横山 雄一	三菱 UFJ 信託銀行
高橋 豊	極東証券経済研究所	和田木 哲哉	モルガン・スタンレー MUFG 証券
立田 裕昌	SOMPO アセットマネジメント	渡辺 洋一郎	水戸証券
田中 健士	みずほ証券	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

自動車・同部品・タイヤ

1. 評価対象企業（21 社）

【自動車メーカー】（10 社）

日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機

【自動車部品メーカー】（7 社）

トヨタ紡織、豊田自動織機、デンソー、アイシン、小糸製作所、豊田合成、ニフコ

【タイヤメーカー】（4 社）

横浜ゴム、TOYO TIRE、ブリヂストン、住友ゴム工業

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	1	10
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	40
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	20
計		8	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 27 名（所属先 21 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、ESG 関連を中心に項目内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 66.1 点（昨年度 64.4 点）、総合評価点の標準偏差は 6.9 点（昨年度 7.3 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較すると、高得点順に、タイヤメーカー（4 社）70.9 点（昨年度 67.8 点）、自動車メーカー（10 社）66.2 点（昨年度 63.4 点）、自動車部品メーカー（7 社）63.2 点（昨年度 63.9 点）となった。タイヤメーカーおよび自動車メーカーが総合評価平均点を伸ばした。個社で見ると、住友ゴム工業（＋9.9 点）、本田技研工業（＋7.8 点）の総合評価点の上昇が目立った。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 69%（昨年度 66%）、説明会等が 72%（昨年度 70%）、フェア・ディスクロージャーが 80%（昨年度 72%）、ESG 関連が 63%（昨年度 62%）、自主的情報開示が 62%（昨年度 60%）となった。
- ④ 評価項目について見ると、80%以上となったものは、次のフェア・ディスクロージャーの項目であった。

- ・「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率 80%〔昨年度 72%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：60%台 1 社・70%台 4 社・80%台 16 社）

⑤ **ESG 関連**の 3 項目は次のとおりとなった。本年度において 3 項目共に項目内容を大幅に見直しているため、昨年度比は示していない。なお、(c)の平均得点率は、全 8 項目中で最も低い水準となった。

- (a)「ESG のうち「環境関連」情報の記述と企業価値関連性への言及は十分ですか」（平均得点率 64%）（得点率：50%台 5 社・60%台 12 社・70%台 4 社）
- (b)「ESG のうち「社会・人的資本関連」情報の記述と企業価値関連性への言及は十分ですか」（平均得点率 68%）（得点率：50%台 1 社・60%台 12 社・70%台 8 社）
- (c)「ESG のうち「コーポレート ガバナンス」情報の記述と企業価値関連性への言及は十分ですか（ガバナンスの有効性や資本コストを意識した経営など）」（平均得点率 58%）（得点率：40%台 2 社・50%台 12 社・60%台 5 社・70%台 2 社）

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 プリヂストン（ディスクロージャー優良企業〔3 回連続 3 回目〕、総合評価点 75.4 点〔昨年度比－3.2 点〕）

- ① 同社は、ESG 関連が第 1 位（得点率（以下省略）76%）、経営陣の IR 姿勢等（78%）、フェア・ディスクロージャー（86%）が同得点第 1 位、説明会等が同得点第 7 位（75%）、自主的情報開示が第 8 位（69%）となった。昨年度に比べ、フェア・ディスクロージャーおよび自主的情報開示を除く 3 分野において、得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、経営トップが IR の場に積極的に参加するなど IR への意識が高いとの声があったほか、四半期決算説明会への経営トップの登壇は、企業の状況を把握する上で有用であるとの声も寄せられた。また、社外取締役ミーティングの開催を評価する声があった。「IR 部門の機能」は同得点第 4 位となった。これらの結果、この分野において同得点第 1 位となった。
- ③ **説明会等**の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示が十分であること、また、企業分析に必要な十分な情報が得られること」は同得点第 7 位（昨年度第 2 位）となった。これに関連して、説明資料に定量情報の開示項目が増えていること、決算説明会の説明が丁寧なことを評価する声がある一方、説明資料の分量が多すぎるとの声や、質疑応答の時間を含め説明会の開催時間が長いとの声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第 1 位となった。これに関連して、日英両言語での説明会動画の配信を評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「「環境関連」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」および「「社会・人的資本関連」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」が共に最も高い評価となった。また、「「コーポレート ガバナンス」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」も第 2 位となった結果、この分野において昨年度に続き第 1 位となった。これらに関連して、ESG 関連の取組みと開示が優れており、内容が充実しているとの声や、人的資本、資本コストへの意識も高いとの声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第 8 位となった。評価できるイベントとして、経営トップを含む経営陣とのディスカッションミーティングや、中期事業計画説明会、工場見学会などが挙げられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 本田技研工業（ディスクロージャーの改善が著しい企業、

総合評価点 74.2 点〔昨年度比+7.8 点、一昨年度比+7.5 点〕、〔昨年度第 9 位、一昨年度第 9 位〕)

- ① 同社は、説明会等が第 1 位（81%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（86%）、ESG 関連が第 3 位（72%）、経営陣の IR 姿勢等が第 4 位（76%）、自主的情報開示が第 6 位（72%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した結果、総合評価の順位において 7 ランクアップとなった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が同得点第 4 位となった。「経営陣の IR 姿勢」は、昨年度に比べ得点率が大きく改善し、第 5 位（昨年度第 15 位）となった。これに関連して、ラウンドテーブルで経営陣とのディスカッションをする機会を設けるなど、改善途上ながらも、IR への積極性が高くなっているとの声や、経営トップが決算説明会で、PBR に関するメッセージを発信していることを評価する声が寄せられた。IR 部門については、少人数ながら対応が迅速であり、充実したディスカッションができるとの声があった。
- ③ 説明会等の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示が十分であること。また、企業分析に必要なかつ十分な情報が得られること」は最も高い評価となった。これに関連して、開示資料は改善しており、一過性要因など定量面、定性面を含めて理解しやすいとの声のほか、説明会の開示内容が日英ともに充実したことを評価する声、株式市場の要望や投資家の意見を積極的に聞こうとしているとの声が寄せられた。なお、増減益分析の内訳、生産台数計画などのデータ部分の開示の充実を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第 1 位となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「「コーポレート ガバナンス」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」が第 3 位となった。また、「「環境関連」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」が第 4 位に、「「社会・人的資本関連」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」が同得点第 5 位となった。これらに関連して、電池への投資を含め、電動化に向けたロードマップや具体的な施策を十分に開示しているとの声や、資本コストに対する意識が高くなってきた印象との声があった。なお、脱エンジンが及ぼす業績への影響など、ESG 情報の記述と企業価値向上との関連性について十分な言及を望む声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第 6 位となった。評価できるイベントとして、ビジネスアップデート説明会、中期的な経営方針に関する説明会、インド HMSI 訪問が挙げられた。なお、開発技術などの説明会や工場見学会をより積極的に開催し、他社への優位性を一層アピールしてほしいとの声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

第3位 トヨタ自動車（総合評価点 74.0 点〔昨年度比+2.3 点〕、昨年度第 4 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が同得点第 1 位（78%）、説明会等が第 2 位（79%）、自主的情報開示が第 3 位（76%）、ESG 関連が第 4 位（68%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 6 位（82%）となった。昨年度に比べ、ESG 関連を除く 4 分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となった。また、「経営陣の IR 姿勢」も同得点第 2 位（昨年度同得点第 9 位）となった結果、この分野において同得点第 1 位となった。これらに関連して、経営トップの説明会等への参加が増えているなど、株式市場との対話を積極化しているとの声や、社外取締役ミーティングの開催を評価する声が寄せられた。なお、経営陣の IR 姿勢は改善していると評価しつつ、他社も積極化しているため、さらなる向上が必要との声があった。
- ③ 説明会等の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示が十分であること。また、企業分析に必要なかつ十分な情報が得られること」は最も高い評価となった。これに関連して、説明会での会社の説明が大きく改善しており、決算や今後の見通しなども理解しやすいとの声があり、また、取材において、投資家の意見を積極的に聞こうとする姿勢があるとの声もあった。なお、定量開示においてスポット的な開示についても、一定期間継続的な開示をすることが分析には有用との声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての

開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第 1 位となった。これに関連して、「型式指定申請」等問題が生じた際の説明会を迅速に開催しているとの声があった。なお、グループガバナンスに関して、会長とのディスカッションの場を設けてほしいとの声があった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「環境関連」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」が第 3 位に、「社会・人的資本関連」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」が第 4 位となった。「コーポレート ガバナンス」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」は同得点第 12 位となった。これらに関連して、環境関連で、各種電動化商品の技術展開やロードマップが具体的に示されている点の評価する声があった。なお、全方位戦略におけるパワートレ別利益貢献度など ESG の業績影響への評価や企業価値向上との関連性について十分な言及を求める声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第 3 位となった。評価できるイベントとして、テクニカルワークショップを挙げる声が多く、また、脱炭素に向けた各種イベントを評価する声もあった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **住友ゴム工業**（ディスクロージャーの改善が著しい企業、

総合評価点 73.6 点〔昨年度比+9.9 点、一昨年度比+12.2 点〕、第 4 位〔昨年度第 13 位、一昨年度第 14 位〕）

- ① 同社は、自主的情報開示が第 1 位（80%）、経営陣の IR 姿勢等が第 3 位（77%）、ESG 関連が第 5 位（67%）、説明会等が同得点第 7 位（75%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 13 位（80%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した結果、総合評価の順位において 9 ランクアップとなった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が同得点第 2 位となり、得点率も昨年度に比べ大きく改善した。これに関連して、決算説明会への登壇、スモールミーティングの開催など経営トップの IR へのコミットが強まったとの声があった。また、四半期決算説明会への経営トップの登壇は、企業の状況を把握する上で有用であるとの声も寄せられた。「IR 部門の機能」も同得点第 2 位となり、これらの結果、この分野において第 3 位（昨年度第 15 位）となった。
- ③ **説明会等**の「説明会、インタビュー、説明資料等における開示が十分であること。また、企業分析に必要なかつ十分な情報が得られること」は同得点第 7 位（昨年度同得点第 10 位）となった。これに関連して、説明会資料に定量情報が追加され、より充実したとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第 13 位となった。これに関連して、北米の構造改革などを含め、地域別の損益の開示を望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレート ガバナンス」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」が第 5 位となったほか、「環境関連」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」および「社会・人的資本関連」情報の記述と企業価値関連性への言及が十分であること」が共に同得点第 5 位となった。これらに関連して、資本コストや株価を意識した経営の実践が、開示資料から読み取れるとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は最も高い評価となった。アクティブトレッド技術に関するイベントを評価する声が多く寄せられた。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以上

2024年度 ディスクロージャーマー評価比較総括表（自動車・同部品・タイヤ）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のI R姿勢、 I R部門の機能、I R の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. E S Gに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目2 (配点 25点)		評価項目1 (配点 10点)		評価項目1 (配点 5点)		評価項目3 (配点 40点)		評価項目1 (配点 20点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5108 プリヂストン	75.4	19.5	1	7.5	7	4.3	1	30.4	1	13.7	8	1
2	7267 本田技研工業	74.2	18.9	4	8.1	1	4.3	1	28.6	3	14.3	6	9
3	7203 トヨタ自動車	74.0	19.5	1	7.9	2	4.1	6	27.3	4	15.2	3	4
4	5110 住友ゴム工業	73.6	19.3	3	7.5	7	4.0	13	26.9	5	15.9	1	13
5	6902 デンソー	72.7	17.7	9	7.6	5	4.1	6	30.0	2	13.3	9	2
6	7270 SUBARU	69.4	18.2	6	7.7	3	4.2	3	26.1	6	13.2	11	5
7	5101 横浜ゴム	68.6	18.8	5	7.7	3	4.1	6	25.5	8	12.5	12	11
8	7272 ヤマハ発動機	67.8	16.8	17	6.7	17	4.2	3	24.7	12	15.4	2	8
9	7201 日産自動車	67.7	17.7	9	6.2	20	4.1	6	25.0	10	14.7	4	7
10	7282 豊田合成	67.0	17.1	15	7.1	14	4.0	13	24.6	14	14.2	7	3
11	7202 いすゞ自動車	66.8	17.6	11	7.5	7	4.2	3	25.5	8	12.0	13	16
12	7211 三菱自動車工業	66.6	18.0	7	7.5	7	4.0	13	22.5	19	14.6	5	14
13	5105 TOYO TIRE	65.8	17.3	12	7.3	13	3.8	18	24.1	15	13.3	9	12
14	3116 トヨタ紡織	65.2	17.2	14	7.4	11	4.1	6	25.0	10	11.5	15	6
15	7259 アイシン	64.6	16.4	18	7.0	15	4.1	6	25.9	7	11.2	16	15
16	7261 マツダ	64.5	17.9	8	7.6	5	4.1	6	23.0	18	11.9	14	10
17	7269 スズキ	62.9	16.9	16	7.4	11	4.0	13	23.7	17	10.9	18	18
18	7276 小糸製作所	61.1	15.3	19	6.4	18	3.5	20	24.7	12	11.2	16	19
19	7988 ニフコ	59.1	17.3	12	6.8	16	3.4	21	24.1	15	7.5	19	17
20	6201 豊田自動織機	52.4	12.8	20	6.4	18	3.9	17	22.2	20	7.1	20	20
21	7205 日野自動車	47.7	12.4	21	5.8	21	3.6	19	19.5	21	6.4	21	21
	評価対象企業評価平均点	66.06	17.27		7.20		4.00		25.21		12.38		

2024年度評価項目および配点（自動車・同部品・タイヤ）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	15
(2)IR部門の機能	
・IR部門への経営資源の配分は充実していますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）	10
【経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンスに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（10点）	配点
・説明会、インタビュー、説明資料等における開示は十分ですか。また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られますか。	10
【説明会、インタビュー、説明資料等における開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。	5
【フェア・ディスクロージャーに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
4. ESGに関連する情報の開示（40点）	配点
①ESGのうち「環境関連」情報の記述と企業価値関連性への言及は十分ですか。	15
②ESGのうち「社会・人的資本関連」情報の記述と企業価値関連性への言及は十分ですか。	10
③ESGのうち「コーポレート ガバナンス」情報の記述と企業価値関連性への言及は十分ですか（ガバナンスの有効性や資本コストを意識した経営など）。	15
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（20点）	配点
・事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。〔過去1年間を目安に評価〕	20
【各業種の状況に即した自主的な情報開示に関し、評価した説明会名および理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	

自動車・同部品・タイヤ専門部会委員

部 会 長	箱守 英治	大和証券
部会長代理	坂口 大陸	みずほ証券
	岩井 徹	SBI 証券
	楮本 将隆	野村証券
	鈴木 衡大朗	ニッセイアセットマネジメント
	根本 隼	東京海上アセットマネジメント
	吉田 有史	シティグループ証券

評価実施アナリスト（27 名）

新井 光樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	高田 悟	ティー・アイ・タワリユ
石本 渉	野村証券	田中 健司	アセットマネジメント One
石山 孝高	みずほ証券	田村 真一	極東証券経済研究所
庵原 浩樹	立花証券	成瀬 伸弥	岡三証券
岩井 徹	SBI 証券	新美 遙	明治安田生命保険
岩崎 彰	大和アセットマネジメント	根本 隼	東京海上アセットマネジメント
江口 由紀	野村アセットマネジメント	箱守 英治	大和証券
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	花井 美穂	SOMPO アセットマネジメント
楮本 将隆	野村証券	馬場 永希也	シティグループ証券
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	広川 孝一	JP モルガン・アセット・マネジメント
小西 慶祐	QUICK	牧 一統	SMBC 日興証券
坂口 大陸	みずほ証券	牟田 知倫	SOMPO アセットマネジメント
坂牧 史郎	大和証券	吉田 有史	シティグループ証券
鈴木 衡大朗	ニッセイアセットマネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

エネルギー

1. 評価対象企業（21 社）

【石油・鉱業部門】（5 社）

I N P E X、石油資源開発、出光興産、E N E O S ホールディングス、
コスモエネルギーホールディングス

【電力・ガス部門】（16 社）

岩谷産業、日本瓦斯、東京電力ホールディングス、中部電力、関西電力、
中国電力、北陸電力、東北電力、四国電力、九州電力、北海道電力、
電源開発、レノバ、東京瓦斯、大阪瓦斯、東邦瓦斯

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	35
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	5
計		12	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 18 名（所属先 17 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、主にフェア・ディスクロージャーおよび ESG 関連の項目内容や配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 67.7 点（昨年度 61.3 点）、総合評価点の標準偏差は 7.3 点（昨年度 8.5 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、石油・鉱業部門（5 社）が 75.1 点（昨年度 70.3 点）、電力・ガス部門（16 社）が 65.3 点（昨年度 58.7 点）となった。さらに業態を細分化して見ると点数の高い順に、石油 77.6 点（昨年度 73.5 点）、鉱業 71.4 点（昨年度 65.5 点）、ガス 68.0 点（昨年度 63.3 点）、電力 64.1 点（昨年度 56.8 点）となった。いずれの業態も、昨年度に比べ、総合評価平均点が大きく上がった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 68%（昨年度 61%）、説明会等が 66%（昨年度 61%）、フェア・ディスクロージャーが 90%（昨年度 84%）、ESG 関連が 65%（昨年度 59%）、自主的情報開示が 66%（昨年度 60%）となり、5 分野全てにおいて、平均

得点率が上がった。

- ④ 評価項目（全 12 項目）について見ると、次のとおり、**フェア・ディスクロージャー**の 2 項目は共に平均得点率が 80%以上となり、高い水準となった。なお、(a)については、本年度において項目内容を見直した。

- (a) 「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM 対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 90%〔昨年度 92%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：80%台 2 社・90%台 19 社）
- (b) 「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか」（平均得点率 87%〔昨年度 82%〕）（得点率：70%台 2 社・80%台 9 社・90%台 9 社・100%1 社）

- ⑤ 一方、次の、**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目は、平均得点率が 50%台となり、全項目の中で最も低かった。昨年度に比べ、日本瓦斯、大阪瓦斯、四国電力、電源開発など一部の評価対象企業が得点率を大きく改善したが、全体としては低水準にとどまっており、下位評価企業には改善努力を強く求めたい。

- ・ 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 55%〔昨年度 32%〕）（得点率：20%台 6 社・30%台 3 社・50%台 1 社・60%台 1 社・70%台 7 社・80%台 3 社）

- ⑥ **ESG 関連**の 4 項目は、次のとおりとなり、いずれも昨年度に比べ、平均得点率が上がった。なお、(a)～(c)は、本年度において項目内容を見直した。

- (a) 「非財務情報（気候変動問題等の環境分野）について、経営戦略にリンクする形で、統合報告書等で株式市場をはじめとする多様なステークホルダーが求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか」（平均得点率 69%〔昨年度 63%〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 11 社・70%台 9 社）
- (b) 「非財務情報（人的資本等の社会分野）について、経営戦略にリンクする形で、統合報告書等で株式市場をはじめとする多様なステークホルダーが求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか」（平均得点率 65%〔昨年度 63%〕）（得点率：40%台 1 社・60%台 16 社・70%台 4 社）
- (c) 「中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか」（平均得点率 65%〔昨年度 56%〕）（得点率：30%台 1 社・40%台 1 社・50%台 4 社・60%台 9 社・70%台 1 社・80%台 4 社・90%台 1 社）
- (d) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報」（平均得点率 60%〔昨年度 53%〕）（得点率：50%台 10 社・60%台 7 社・70%台 4 社）

(2) 全体の上位 3 企業の評価概要

第 1 位 出光興産（ディスクロージャー優良企業（2 回連続 2 回目）、

総合評価点 78.6 点〔昨年度比+4.7 点〕

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第 1 位（得点率〈以下省略〉81%）、**説明会等**が第 2 位（77%）、**ESG 関連**が第 3 位（77%）、**自主的情報開示**が同得点第 4 位（70%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 11 位（90%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価（昨年度第 4 位）となった。これに関連して、説明会以外にも経営トップとのミーティングの機会があることや、株式市場との対話を積極的に行おうとする経営トップの姿勢を評価する声が寄せられ、資本コストや株価を意識した経営など東証の要請への対応が優れているとの声もあった。また、「IR 部門の機能」が同得点第 3 位（昨年度同得点第 8 位）となり、「社外取締役との対話」も同得点第 4 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位（昨年度第 2 位）となった。これらに関連して、IR 部門の積極的な取組姿勢を評価する声があったほか、社外取締役による定期的なスモールミーティングの開催やセミナーの実施を評価する声もあった。

- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第2位（昨年度第4位）となった。また、「説明資料等における開示」も同得点第3位（昨年度第4位）となり、いずれの項目も、昨年度に比べ得点率が改善した結果、この分野において第2位（昨年度第4位）となった。これらに関連して、説明資料の内容は充実しており、取材時の補足説明も的確であるとの声があったほか、増減益要因の説明が明快であるとの声も寄せられた。なお、高機能材や電力・再エネなどはサブセクター毎の水準や動きをもう少し定量的に開示すれば、より良いとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第3位）が90%以上の得点率となった。「多様な情報提供」は同得点第11位となったが、85%以上の得点率であった。これらに関連して、英文資料のタイムリーな開示を評価する声があった。なお、説明会の質疑応答の全スクリプトをウェブサイトに掲載することを望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」が第3位となった。これに関連して、ROE 目標達成に向けた前向きな姿勢を評価する声があった。「コーポレート・ガバナンスに関する開示」および「非財務情報（人的資本等の社会分野）に関する開示」が共に同得点第3位となり、「非財務情報（気候変動問題等の環境分野）に関する開示」は同得点第4位となった。これらに関連して、ESG セミナーの開催を評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は同得点第4位となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 コスモエネルギーホールディングス（総合評価点 78.5 点〔昨年度比+4.9 点〕、昨年度第3位）

- ① 同社は、ESG 関連が第1位（79%）、経営陣の IR 姿勢等が同得点第2位（80%）、説明会等が同得点第3位（76%）、自主的情報開示が同得点第7位（68%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第11位（90%）となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が改善し、トップとは極めて僅差の第2位となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が第2位に、「経営陣の IR 姿勢」が第4位となった。これらに関連して、経営トップが株式市場との対話に積極的であること、経営陣とミーティングの場で率直な意見交換ができることを評価する声が寄せられた。また、IR 部門と経営陣の距離が近いとの声もあった。「社外取締役との対話」は第11位となったが、昨年度に比べ、得点率が改善した。これに関連して、社外取締役との定期的なミーティングの開催を評価する声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第3位となり、「説明資料等における開示」は第5位となった。これに関連して、説明資料の内容が豊富で、取材時の補足説明も定量的で有益であるとの声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第3位）が90%以上の得点率となった。「多様な情報提供」は同得点第11位となったが、85%以上の得点率であった。これらに関連して、英文資料のタイムリーな開示を評価する声があった。なお、説明会の質疑応答の全スクリプトをウェブサイトに掲載することを望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が同得点第1位となった。「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」（第2位）も高い評価となった。これらに関連して、株主還元方針が明確であること、また、ROE 目標達成に向けた前向きな姿勢を評価する声があった。「非財務情報（気候変動問題等の環境分野）に関する開示」は同得点第2位に、「非財務情報（人的資本等の社会分野）に関する開示」は同得点第3位となった。これらに関連して、ESG セミナーの開催を評価する声があった。なお、統合報告書での Scorp3 の記載を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は同得点第7位となった。これに関連して、風力事業の見学会など各種情報提供の機会が充実しているとの声があった。

第3位 日本瓦斯（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、

総合評価点 78.0 点〔昨年度比+4.3 点〕、昨年度第2位〔一昨年度第2位〕）

- ① 同社は、説明会等が第1位（82%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（92%）、ESG 関連が第4位（77%）、自主的情報開示が同得点第4位（70%）、経営陣の IR 姿勢等が第5位（76%）となった。昨年度に比べ、ESG 関連の得点率が大きく改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となった。また、「社外取締役との対話」は同得点第4位となり、昨年度に比べ、得点率が大幅に改善した。これらに関連して、IR 部門のクオリティが高いとの声や、社外取締役とのスモールミーティングの開催を評価する声が寄せられた。「経営陣の IR 姿勢」は第10位（昨年度第2位）となった。これに関連して、経営トップの IR への取組姿勢や、経営方針・戦略、資本政策を明確に示している点を評価する声があった。一方、経営トップとの対話の機会を一層望む声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等における開示」および「説明会、インタビューにおける開示」が共に最も高い評価となり、この分野において、昨年度に続き第1位となった。これらに関連して、説明資料の情報が充実しているとの声や、実績・計画共に詳細な数字が開示されているとの声が寄せられた。なお、業績予想の精度が課題との声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「多様な情報提供」が同得点第2位となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」も同得点第3位となり、いずれも 90%以上の得点率であった。これらに関連して、質疑応答を含めた動画配信を評価する声があった。なお、電話会議、事業説明会の全スクリプトのウェブサイト掲載を望む声もあった。
- ⑤ ESG 関連においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」が最も高い評価となり、昨年度に比べ、得点率が大幅に改善した。「コーポレート・ガバナンスに関する開示」も同得点第3位となった。これらに関連して、明確な株主還元方針や、意欲的な資本効率性目標設定が示されている点を評価する声が寄せられた。また、ROE 向上に向けた戦略も明確であるとの声もあった。「非財務情報（人的資本等の社会分野）に関する開示」は同得点第10位に、「非財務情報（気候変動問題等の環境分野）に関する開示」は同得点第16位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる定量情報（例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等）が十分に開示されていること」は同得点第4位となった。これに関連して、事業説明会など各種情報提供の機会が充実しているとの声のほか、月次数量・件数の詳細な開示を評価する声があった。

同社は、3回連続して第2位または第3位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

（参考）部門別の第1位企業

【石油・鉱業部門】

出光興産（総合評価点 78.6 点、全体第1位）

【電力・ガス部門】

日本瓦斯（総合評価点 78.0 点、全体第3位）

以 上

2024年度 ディスクロージャ－評価比較総括表（エネルギー:全体）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 35点)		評価項目2 (配点 20点)		評価項目2 (配点 5点)		評価項目4 (配点 35点)		評価項目1 (配点 5点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5019 出光興産	78.6	28.4	1	15.3	2	4.5	11	26.9	3	3.5	4	1
2	5021 コスモエネルギーホールディングス	78.5	27.9	2	15.1	3	4.5	11	27.6	1	3.4	7	3
3	8174 日本瓦斯	78.0	26.7	5	16.4	1	4.6	3	26.8	4	3.5	4	2
4	5020 ENEOSホールディングス	75.7	26.4	6	14.6	6	4.3	19	27.0	2	3.4	7	4
5	1605 INPEX	75.4	25.6	8	15.1	3	4.7	2	26.2	5	3.8	1	6
6	9532 大阪瓦斯	74.8	27.5	4	13.8	7	4.6	3	25.6	6	3.3	12	8
7	9508 九州電力	73.1	27.9	2	13.5	8	4.6	3	23.6	7	3.5	4	5
8	9503 関西電力	69.6	26.1	7	13.5	8	4.6	3	22.1	11	3.3	12	7
9	9507 四国電力	67.5	24.7	9	12.7	11	4.6	3	22.6	9	2.9	18	15
10	1662 石油資源開発	67.4	23.4	12	15.0	5	4.5	11	20.9	17	3.6	2	10
11	9513 電源開発	66.7	24.1	10	13.5	8	4.5	11	21.2	16	3.4	7	11
12	9509 北海道電力	65.2	22.8	13	12.5	13	4.6	3	22.0	13	3.3	12	16
13	9504 中国電力	64.8	23.7	11	11.8	18	4.6	3	21.9	15	2.8	19	19
14	9506 東北電力	64.4	21.8	14	12.7	11	4.4	16	22.1	11	3.4	7	18
15	8088 岩谷産業	63.7	21.4	16	12.5	13	4.4	16	22.0	13	3.4	7	12
16	9531 東京瓦斯	62.0	21.5	15	12.2	16	4.6	3	20.5	19	3.2	17	9
17	9505 北陸電力	61.8	20.5	19	11.3	20	4.3	19	22.4	10	3.3	12	21
18	9533 東邦瓦斯	61.7	19.8	20	11.6	19	4.4	16	23.1	8	2.8	19	17
19	9502 中部電力	61.6	21.4	16	12.0	17	4.5	11	20.9	17	2.8	19	13
20	9519 レノバ	57.1	18.8	21	12.5	13	4.9	1	17.3	20	3.6	2	14
21	9501 東京電力ホールディングス	53.2	20.8	18	8.5	21	3.9	21	16.7	21	3.3	12	20
	評価対象企業評価平均点	67.65	23.86		13.14		4.51		22.83		3.31		

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（電力・ガス部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 35点)		評価項目2 (配点 20点)		評価項目2 (配点 5点)		評価項目4 (配点 35点)		評価項目1 (配点 5点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8174 日本瓦斯	78.0	26.7	3	16.4	1	4.6	2	26.8	1	3.5	2	1
2	9532 大阪瓦斯	74.8	27.5	2	13.8	2	4.6	2	25.6	2	3.3	7	4
3	9508 九州電力	73.1	27.9	1	13.5	3	4.6	2	23.6	3	3.5	2	2
4	9503 関西電力	69.6	26.1	4	13.5	3	4.6	2	22.1	7	3.3	7	3
5	9507 四国電力	67.5	24.7	5	12.7	6	4.6	2	22.6	5	2.9	13	10
6	9513 電源開発	66.7	24.1	6	13.5	3	4.5	10	21.2	12	3.4	4	6
7	9509 北海道電力	65.2	22.8	8	12.5	8	4.6	2	22.0	9	3.3	7	11
8	9504 中国電力	64.8	23.7	7	11.8	13	4.6	2	21.9	11	2.8	14	14
9	9506 東北電力	64.4	21.8	9	12.7	6	4.4	12	22.1	7	3.4	4	13
10	8088 岩谷産業	63.7	21.4	11	12.5	8	4.4	12	22.0	9	3.4	4	7
11	9531 東京瓦斯	62.0	21.5	10	12.2	11	4.6	2	20.5	14	3.2	12	5
12	9505 北陸電力	61.8	20.5	14	11.3	15	4.3	15	22.4	6	3.3	7	16
13	9533 東邦瓦斯	61.7	19.8	15	11.6	14	4.4	12	23.1	4	2.8	14	12
14	9502 中部電力	61.6	21.4	11	12.0	12	4.5	10	20.9	13	2.8	14	8
15	9519 レノバ	57.1	18.8	16	12.5	8	4.9	1	17.3	15	3.6	1	9
16	9501 東京電力ホールディングス	53.2	20.8	13	8.5	16	3.9	16	16.7	16	3.3	7	15
	評価対象企業評価平均点	65.34	23.10		12.56		4.51		21.93		3.24		

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (石油・鉱業部門)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位	
			評価項目3 (配点 35点)	評価点	順位	評価項目2 (配点 20点)	評価点	順位	評価項目2 (配点 5点)	評価点	順位	評価項目1 (配点 5点)		評価点
1	5019 出光興産	78.6		28.4	1	15.3	1	4.5	2	26.9	3	3.5	3	1
2	5021 コスモエネルギーホールディングス	78.5		27.9	2	15.1	2	4.5	2	27.6	1	3.4	4	2
3	5020 ENEOSホールディングス	75.7		26.4	3	14.6	5	4.3	5	27.0	2	3.4	4	3
4	1605 INPEX	75.4		25.6	4	15.1	2	4.7	1	26.2	4	3.8	1	4
5	1662 石油資源開発	67.4		23.4	5	15.0	4	4.5	2	20.9	5	3.6	2	5
	評価対象企業評価平均点	75.12		26.34		15.02		4.50		25.72		3.54		

2024年度評価項目および配点（エネルギー）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・ 会社主催の説明会に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策、ESG等について有意義なディスカッションができますか。経営陣が積極的に市場からのエンゲージメントを受け入れる意欲を持っていますか。	20
(2)社外取締役との対話	
・ 社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
(3)IR部門の機能	
・ IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明資料等における開示	
・ 決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。例えば、前提条件、感応度、利益率または利幅、主要費用。	10
(2)説明会、インタビューにおける開示	
・ 説明会やインタビュー等（ESG情報を含む）において、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・ 経営陣およびIR部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	3
(2)多様な情報提供	
・ リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか。	2
4. ESGに関連する情報の開示（35点）	配点
(1)非財務情報（ESG情報等）に関する開示	
①非財務情報（気候変動問題等の環境分野）について、経営戦略にリンクする形で、統合報告書等で株式市場をはじめとする多様なステークホルダーが求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか。	8
②非財務情報（人的資本等の社会分野）について、経営戦略にリンクする形で、統合報告書等で株式市場をはじめとする多様なステークホルダーが求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか。	7
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示	
・ 中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	15
(3)コーポレート・ガバナンスに関する開示	
・ コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・ 事業を理解する上で重要と思われる定量情報が十分に開示されていますか。例えば、国内外の同業他社比較、事業説明会・見学会、月次情報等。	5

エネルギー専門部会委員

部 会 長	新家 法昌	みずほ証券
部会長代理	荻野 零児	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	大畠 彰雄	野村アセットマネジメント
	神近 広二	SMBC 日興証券
	西川 周作	大和証券
	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
	山崎 慎一	野村證券

評価実施アナリスト（18名）

安藤 誠悟	大和アセットマネジメント	下森 浩	三菱 UFJ 信託銀行
井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	新家 法昌	みずほ証券
大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	富田 展昭	極東証券経済研究所
荻野 零児	モルガン・スタンレー MUFG 証券	西川 周作	大和証券
神近 広二	SMBC 日興証券	福元 千佳	JP モルガン証券
神谷 悠介	SOMPO アセットマネジメント	藤岡 哲也	アセットマネジメント One
黒木 文明	ニッセイアセットマネジメント	松浦 勇佑	丸三証券
佐久間 聡	QUICK	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
佐々木 聡	SOMPO アセットマネジメント	山崎 慎一	野村證券

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

運 輸

1. 評価対象企業（15 社）

【陸 運】（10 社）

東 急 、 東 日 本 旅 客 鉄 道 、 西 日 本 旅 客 鉄 道 、 東 海 旅 客 鉄 道 、
西武ホールディングス、 阪急阪神ホールディングス、ヤマトホールディングス、
九州旅客鉄道、SG ホールディングス、NIPPON EXPRESS ホールディングス

【海 運】（3 社）

日本郵船、商船三井、川崎汽船

【空 運】（2 社）

日本航空、ANA ホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	34
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	19
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	8
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	7
計		14	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 25 名（所属先 21 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価分野のうち**経営陣の IR 姿勢等**および**フェア・ディスクロージャー**を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 67.9 点（昨年度 69.0 点）、総合評価点の標準偏差は 6.7 点（昨年度 4.3 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較して見ると、高得点順に、海運（3 社）74.6 点（昨年度 71.7 点）、空運（2 社）72.4 点（昨年度 74.0 点）、陸運（10 社）65.0 点（昨年度 67.2 点）となった。昨年度に比べ、海運 3 社がいずれも総合評価点を上げた一方、空運 2 社が共に下げたため、海運が業態別のトップとなった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 65%（昨年度 66%）、**説明会等**が 70%（昨年度同率）、**フェア・ディスクロージャー**が 84%（昨年度 88%）、**ESG 関連**が 65%（昨年度 64%）、**自主的情報開示**が 71%（昨年度 76%）となった。
- ④ 評価項目（全 14 項目）を見ると、平均得点率が 80%以上と高水準のものは、次の 3 項目（**フェア・ディス**

クロージャーの2項目((a)(b))、自主的情報開示の1項目(c))であった。なお、(a)については、本年度において項目内容を見直している。

- (a) 「経営陣およびIR部門が投資家にとって重要と判断される事項(不祥事対応、危機管理対応、KAM対応等)の情報開示(メディア対応を含む)に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」(平均得点率81%〔昨年度88%〕)(得点率(評価点/配点(以下省略)):70%台5社・80%台10社)
 - (b) 「ウェブサイトで有用な情報提供(過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等)を日英両言語でタイムリーに行っていますか」(平均得点率88%〔昨年度89%〕)(得点率:80%台9社・90%台6社)
 - (c) 「ウェブサイト、TDnet等で有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか」(平均得点率88%〔昨年度83%〕)(得点率:50%台2社・60%台1社・90%台9社・100%3社)
- ⑤ ESG関連の4項目は、次のとおりとなった。なお、(d)については平均得点率が60%となり、昨年度に続き、全14項目中で最も低い水準であった。

- (a) 「経営の重要課題(マテリアリティ)の特定プロセスを示したうえで、企業の経営理念やパーパスと整合した経営戦略に基づく事業活動を通じて、マテリアリティの解決に取り組むことで、将来の企業価値につながるといった価値創造プロセスを魅力的なストーリーとして投資家に示していますか」(平均得点率67%〔昨年度66%〕)(得点率:50%台3社・60%台5社・70%台7社)
- (b) 「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標や目標達成の実効性が確認できるロードマップおよび具体的なアクションプランなど、定性・定量両面で十分に開示していますか」(平均得点率70%〔昨年度68%〕)(得点率:60%台7社・70%台8社)
- (c) 「ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか」(平均得点率64%〔昨年度62%〕)(得点率:50%台2社・60%台10社・70%台3社)
- (d) 「ガバナンスの実効性を確認するうえで重要な情報開示(例えば、サクセッションプランのプロセスおよび内容、役員報酬制度のインセンティブ設計としての適切性、取締役会の実効性評価やスキルマトリックス活用によるガバナンス改善活動状況等)が十分にされていますか」(平均得点率60%〔昨年度同率〕)(得点率:40%台1社・50%台4社・60%台10社)

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 川崎汽船(ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、

総合評価点77.2点〔昨年度比+4.7点〕、昨年度第4位〕

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等(得点率(以下省略)79%)、説明会等(79%)、フェア・ディスクロージャー(90%)が第1位、ESG関連が同得点第3位(71%)、自主的情報開示が同得点第4位(79%)となった。昨年度に比べ、フェア・ディスクロージャー(昨年度同率)を除く4分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣のIR姿勢」の2項目が共に最も高い評価となった。これらに関連して、説明会やスモールミーティングで経営トップ自ら積極的にメッセージを発信しているとの声が寄せられた。また、株式市場との対話により情報ギャップを可能な限り減らそうとする姿勢や、ESG対応の高さを企業価値向上につなげようとする意識を評価する声もあった。「IR部門の機能」も同得点第1位(昨年度第3位)となった。これに関連して、IR部門の情報集積は十分であるとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会における開示」が最も高い評価(昨年度同得点第5位)となった。これに関連して、株主還元やキャッシュフロー配分について適宜アップデートしてくれる点を評価する声があった。「説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示」(2項目)のうち、「会社側が採用している情報開示のセグメント別・事業別の区分けは適切であること」は同得点第3位となった。これに関連して、エネルギー事業の詳細な開示を期待する声があった。また、「収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていること」が同得点第4位となった。なお、ONEに関する情報開示の充実を望む声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が最も高い評価（昨年度同得点第 8 位）となった。また、「ウェブサイトにおける情報提供」も同得点第 1 位となり、90%以上の得点率であった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、気候変動問題に関連する項目が第 3 位となった。これに関連して、カーボンニュートラルに向けた取組みが随時アップデートされていることを評価する声があった。ガバナンスの実効性に関連する項目は、同得点第 3 位（昨年度同得点第 7 位）となった。また、経営の重要課題（マテリアリティ）に関連する項目およびダイバーシティなどの人的資本に関連する項目が共に、同得点第 4 位となった。これら 4 項目はいずれも、昨年度に比べ、得点率が改善した。ESG への取組強化を企業価値向上につなげようとする意志が感じられるとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「ESG 説明会・施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容が充実していること」が最も高い評価となった。充実していたイベントとしては、事業説明会、JMU 現場見学会などが挙げられた。「ウェブサイト、TDnet 等で有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」は第 13 位となったが、昨年度に比べ得点率が改善した。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 九州旅客鉄道（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、

総合評価点 75.0 点〔昨年度比+1.1 点〕、昨年度第 2 位〔一昨年度第 2 位〕〕

- ① 同社は、説明会等（79%）、自主的情報開示（83%）が第 2 位、経営陣の IR 姿勢等が第 3 位（73%）、ESG 関連が第 5 位（71%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 7 位（84%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が同得点第 1 位（昨年度第 4 位）となった。これに関連して、IR 部門への情報集積は十分であり、CFO 以下 IR チームまで高いレベルで情報共有がされているとの声や、ESG 部門と連携をとった対応をしているとの声が寄せられた。「経営トップや社外取締役等が企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」は第 4 位となった。これに関連して、経営陣は、市場の関心事を把握し、自ら積極的に情報発信している姿勢を評価する声が寄せられた。また、経営方針等をわかりやすく伝えているとの声もあった。「経営トップや社外取締役等が企業価値向上の手段としての ESG や資本コスト、資本市場の評価等の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」は同得点第 4 位となった。なお、資本コストや株価を意識した経営に関する開示の充実を期待する声があった。
- ③ **説明会等**においては、「収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていること」が最も高い評価となった。「会社側が採用している情報開示のセグメント別・事業別の区分けは適切であること」も同得点第 1 位となった。また、「説明会における開示」（同得点第 3 位）は、昨年度に比べ得点率が改善した。これらに関連して、新鉄道運賃制度と対応策について可能な限りスピード感をもって説明されたとの声や、質問に対して社長や CFO が率直に回答しているとの声もあった。なお、成長ドライバーである不動産事業においても資本効率を意識した KPI の設定を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「ウェブサイトにおける情報提供」（共に同得点第 7 位）が、80%以上の得点率となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、ガバナンスの実効性に関連する項目が最も高い評価となり、ダイバーシティなどの人的資本に関連する項目が第 3 位となった。これらに関連して、人的資本でのエンゲージメント調査については結果数値だけでなく、その結果を人づくりの施策に反映させていることが伝わり評価できるとの声があった。なお、社外取締役の取締役会での役割が具体的に分かる情報を期待する声もあった。経営の重要課題（マテリアリティ）に関連する項目および気候変動問題に関連する項目は、共に同得点第 4 位となった。これらに関連して、マテリアリティは経営方針、中計と整合するように見直し、考え方を明確に示し、KPI の設定も適切であるとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「ESG 説明会・施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容が充実していること」が第 3 位となった。また、「ウェブサイト、TDnet 等で有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」も同得点第 4 位となった。充実していたイベントとして、福岡、熊本事業見学会が多く挙げられたほか、ESG 見学会や不動産開発見学会を上げる声もあった。

同社は、3 回連続して第 2 位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

第 3 位 日本郵船（総合評価点 73.6 点〔昨年度比+2.5 点〕、昨年度第 7 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（75%）、ESG 関連（71%）が第 2 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位（88%）、説明会等が第 7 位（72%）、自主的情報開示が同得点第 11 位（64%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」（2 項目）が共に第 2 位となった。これらに関連して、経営トップ自らが説明会やスモールミーティングで積極的にメッセージを発信しているとの声や、経営陣は投資家との対話を重視し、その期待と懸念を理解しているとの声が寄せられた。また、ESG 対応の高さを企業価値向上につなげようとする意識を評価する声もあった。一方、「IR 部門の機能」は第 6 位にとどまった。
- ③ 説明会等においては、「説明会における開示」が第 2 位となった。「説明会資料等（短信及びその付属資料を含む）における開示」の 2 項目は共に同得点第 12 位となった。これらに関連して、経営陣の質疑応答などでの回答は的確で参考になるとの声があったほか、投資家の関心のある事項について詳細に説明しているとの声もあった。なお、ONE に関する情報開示の充実を望む声や、サブセグメントの定量情報（フリー船エクスポージャーや増減益内訳）の一層の充実を期待する声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 2 位）および「ウェブサイトにおける情報提供」（同得点第 3 位）が、いずれも 85%以上の得点率となった。
- ⑤ ESG 関連においては、経営の重要課題（マテリアリティ）に関連する項目および気候変動問題に関連する項目が、共に同得点第 1 位となった。これらに関連して、カーボンニュートラルに向けた取組みが随時アップデートされていることを評価する声があった。また、ESG ストーリーを毎年更新し、ESG を物差しとした中長期視点での企業価値向上の道筋を示しているとの声も寄せられた。ガバナンスの実効性に関連する項目は同得点第 5 位となり、ダイバーシティなどの人的資本に関連する項目は第 6 位となった。これらに関連して、エンゲージメントサーベイの結果の開示や、ダイバーシティの目標（単体ベース）との乖離を埋めていく具体的な取組みの開示を望む声があった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「ESG 説明会・施設見学会・事業説明会・IR 部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容が充実していること」が同得点第 5 位となった。充実していたイベントとして、コンテナ船・自動車船需給に関する説明会を挙げる声が多かったほか、スモールミーティングや ESG 説明会も挙げられた。「ウェブサイト、TDnet 等で有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」は第 15 位となった。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（運輸）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 34点)	評価点	評価項目3 (配点 19点)	評価点	評価項目2 (配点 8点)	評価点	評価項目4 (配点 32点)	評価点	評価項目2 (配点 7点)	順位	
1	9107 川崎汽船	77.2	1	26.7	1	15.1	1	7.2	3	22.7	5.5	4	4
2	9142 九州旅客鉄道	75.0	3	24.9	2	15.0	7	6.7	5	22.6	5.8	2	2
3	9101 日本郵船	73.6	2	25.6	7	13.7	2	7.0	2	22.8	4.5	11	7
4	9104 商船三井	72.9	4	24.5	5	14.1	2	7.0	1	23.0	4.3	14	6
5	9202 ANAホールディングス	72.6	7	23.1	4	14.2	2	7.0	3	22.7	5.6	3	3
6	9021 西日本旅客鉄道	72.1	5	23.8	5	14.1	6	6.8	6	22.3	5.1	7	9
6	9201 日本航空	72.1	5	23.8	8	13.6	2	7.0	7	21.8	5.9	1	1
8	9005 東急	68.4	8	22.0	3	14.4	7	6.7	9	20.5	4.8	8	8
9	9020 東日本旅客鉄道	67.7	10	21.6	9	13.3	7	6.7	8	20.6	5.5	4	11
10	9042 阪急阪神ホールディングス	66.8	9	21.8	10	13.2	15	6.2	10	20.2	5.4	6	5
11	9147 NIPPON EXPRESSホールディングス	64.3	12	20.5	12	12.4	7	6.7	11	20.1	4.6	9	10
12	9024 西武ホールディングス	62.8	11	20.6	12	12.4	14	6.3	13	18.9	4.6	9	15
13	9022 東海旅客鉄道	59.5	14	17.3	10	13.2	11	6.4	15	18.1	4.5	11	14
14	9064 ヤマトホールディングス	58.2	13	18.0	15	10.1	11	6.4	12	19.2	4.5	11	13
15	9143 SGホールディングス	54.9	15	15.6	14	11.0	11	6.4	14	18.2	3.7	15	12
	評価対象企業評価平均点	67.87		21.99		13.31		6.70		20.92	4.95		

2024年度評価項目および配点（運輸）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（34点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営トップや社外取締役等が企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
②経営トップや社外取締役等が企業価値向上の手段としてのESGや資本コスト、資本市場の評価等の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、かつアナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、担当者と有益なディスカッションができますか。また、投資家のニーズに合わせ、ESG関連部門などと連携をとっていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（19点）	配点
(1)説明会における開示	
・決算説明会等における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
①収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	4
②会社側が採用している情報開示のセグメント別・事業別の区分けは適切ですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
3. フェア・ディスクロージャー（8点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトで有用な情報提供（過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等）を日英両言語でタイムリーに行っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	3
4. ESGに関連する情報の開示（32点）	配点
①経営の重要課題（マテリアリティ）の特定プロセスを示したうえで、企業の経営理念やパーパスと整合した経営戦略に基づく事業活動を通じて、マテリアリティの解決に取り組むことで、将来の企業価値につながるといった価値創造プロセスを魅力的なストーリーとして投資家に示していますか。	8
②気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標や目標達成の実効性が確認できるロードマップおよび具体的なアクションプランなど、定性・定量両面で十分に開示していますか。	8
③ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。	8
④ガバナンスの実効性を確認するうえで重要な情報開示（例えば、サクセッションプランのプロセスおよび内容、役員報酬制度のインセンティブ設計としての適切性、取締役会の実効性評価やスキルマトリックス活用によるガバナンス改善活動状況等）が十分にされていますか。	8
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（7点）	配点
①ウェブサイト、TDnet等で有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。	2
②ESG説明会・施設見学会・事業説明会・IR部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容は充実していますか。【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	5

運輸専門部会委員

部 会 長	姫野 良太	JP モルガン証券
部会長代理	安藤 誠悟	大和アセットマネジメント
	尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	鈴木 克彦	みずほ証券
	土谷 康仁	東海東京インテリジェンス・ラボ
	手塚 裕一	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	松崎 亘	JP モルガン・アセット・マネジメント

評価実施アナリスト（25名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	手塚 裕一	三井住友トラスト・アセットマネジメント
浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	富田 展昭	極東証券経済研究所
安藤 誠悟	大和アセットマネジメント	野田 健介	ニッセイアセットマネジメント
井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	原嶋 悠也	SOMPO アセットマネジメント
今泉 達矢	アセットマネジメント One	姫野 良太	JP モルガン証券
大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	広兼 賢治	野村證券
尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券	松崎 亘	JP モルガン・アセット・マネジメント
唐木 健至	QUICK	村上 秀樹	丸三証券
川嶋 宏樹	SMBC 日興証券	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
三箇 和樹	三井住友 DS アセットマネジメント	百田 史哉	三井住友トラスト・アセットマネジメント
鈴木 克彦	みずほ証券	安田 秀樹	東洋証券
田畑 剛	野村アセットマネジメント	米澤 正祥	大和証券
土谷 康仁	東海東京インテリジェンス・ラボ		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

通信・インターネット

1. 評価対象企業（10 社）

【通 信】（5 社）

インターネットイニシアティブ、日本電信電話、K D D I 、ソフトバンク、ソフトバンクグループ

【インターネット】（5 社）

カカコム、メルカリ（注）、LINE ヤフー、サイバーエージェント、楽天グループ

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）昨年度、トライアル評価を実施した（次年度の評価を見据えた予備的な評価で、評価結果は非公表）。

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	28
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	5
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 31 名（所属先 22 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新規の企業を追加したほか、ESG 関連を中心に項目内容・配点を見直すなどの変更があり、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 69.4 点（昨年度 68.9 点）、総合評価点の標準偏差は 7.7 点（昨年度 10.4 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、通信（5 社）は 74.6 点（昨年度 76.9 点）、インターネット（5 社）は 64.2 点（昨年度 63.1 点）となった。インターネットが改善した一方、通信が下げたため、その差はやや縮小した。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 73%（昨年度 72%）、説明会等が 72%（昨年度 70%）、フェア・ディスクロージャーが 78%（昨年度 85%）、ESG 関連が 65%（昨年度同率）、自主的情報開示が 54%（昨年度 52%）となった。昨年度に比べ、フェア・ディスクロージャーが下がった。なお、自主的情報開示はやや改善したものの依然として低水準であ

った。

- ④ 評価項目について見ると、平均得点率が80%以上の高水準となったものは、次の3項目（**経営陣のIR姿勢等**の中の2項目（a）（b））および**フェア・ディスクロージャー**の中の1項目（c））であった。

- (a)「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していますか〔4回以上出席：満点、2回以下：0点〕」（平均得点率80%〔昨年度84%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：0%2社・100%8社）
- (b)「IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか」（平均得点率81%〔昨年度77%〕）（得点率：60%台1社・70%台3社・80%台6社）
- (c)「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」（平均得点率97%〔昨年度93%〕）（得点率：70%1社・100%9社）

- ⑤ 一方、次の項目（**自主的情報開示**）は、昨年度に続き平均得点率が50%台にとどまり、低水準となった。下位評価企業においては、改善努力を強く求めたい。

- ・「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか」（平均得点率54%〔昨年度52%〕）（得点率：30%台2社・40%台3社・50%台2社・70%台3社）

- ⑥ **ESG関連**の4項目は、次のとおりとなった。昨年度に続き、4項目全てが60%台にとどまっており、下位評価企業においては、今後の改善努力を求めたい。

- (a)「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか」（平均得点率69%〔昨年度同率〕）（得点率：50%台1社・60%台4社・70%台2社・80%台3社）
- (b)「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）や株主還元策（配当・自社株買い・自社株消却等）の具体的な目標が明示され、合理的かつ十分に説明されていますか」（平均得点率63%〔昨年度62%〕）（得点率：40%台2社・50%台3社・60%台1社・70%台3社・80%台1社）
- (c)「目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」（平均得点率62%〔昨年度67%〕）（得点率：40%台1社・50%台4社・60%台2社・70%台3社）
- (d)「E（環境）・S（社会（人的資本を含む））に関する情報を統合報告書などで開示し、経営戦略の中で方向性を示し、投資家との対話を積み重ねていますか」（平均得点率67%〔昨年度64%〕）（得点率：40%台1社・60%台6社・70%台1社・80%台2社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 ソフトバンク（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、

総合評価点79.6点〔昨年度比－0.4点〕、昨年度第2位〕

- ① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉82%）、**説明会等**（79%）、**ESG関連**（78%）が第2位、**自主的情報開示**が第3位（74%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第3位（80%）となった。昨年度に比べ、4分野において順位が上がった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」の2項目である「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していること」（満点）および「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」が共に最も高い評価となった。また、「IR部門の機能」（同得点第2位）も高く評価された。これらに関連して、経営トップとの定期的な対話が有益であるとの声が多く寄せられた。「IRの基本スタンス」は第3位となった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「キャッシュフロー計算書の実績および見通しが、分かりやすく説明されていること」が共に最も高い評価となった。これに関連して、キャッシュフローを事業目標としており、その見通しをわかりやすく説明しているとの声があった。「アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しを十分に開示していること、また、情報開示の後退がないこと」が第3位となり、「会計基準の変更・セグメント見直し・KPIの定義変更等

があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていること」は同得点第5位となった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」が満点となった。「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」は同得点第3位となった。これらに関連して、議事録の開示、新料金説明会を評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」および「目標とする経営指標等の開示」が共に同得点第1位となった。また、「資本政策、株主還元策の開示」が第2位に、「E（環境）・S（社会（人的資本を含む））に関する取組み」が第3位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第3位となり、昨年度に比べ、得点率が改善した。有益なイベントとして、データセンター見学会を挙げる声が多く寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 KDDI（総合評価点 77.7 点〔昨年度比+0.3 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、**ESG 関連**が第1位（81%）、**自主的情報開示**が同得点第1位（76%）、**フェア・ディスクロージャー**が第2位（82%）、**経営陣のIR姿勢等**（78%）、**説明会等**（74%）が第5位となった。昨年度に比べ、4分野で順位が上がり、総合順位において第2位となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していること」が最も高い評価（満点）となった。また、「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」が同得点第3位となった。「**IR部門の機能**」（同得点第4位）は80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップとの定期的な対話は有益であるとの声が寄せられた。なお、会社計画のうちID数について連続性のある見通しの説明を望む声があった。「**IRの基本スタンス**」は第6位となった。
- ③ **説明会等**においては、「キャッシュフロー計算書の実績および見通しが、分かりやすく説明されていること」が評価され、同得点第2位となった。これに関連して、新中期経営戦略のキャッシュフローに関する解説を評価する声があった。「説明会、インタビューにおける開示」は第4位となった。「会計基準の変更・セグメント見直し・KPIの定義変更等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていること」は第10位となり、平均得点率に達しなかった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」が満点となった。また、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」は第2位となった。これらに関連して、議事録の開示を評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策の開示」が最も高い評価となり、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」および「目標とする経営指標等の開示」も共に同得点第1位となった。また、「E（環境）・S（社会（人的資本を含む））に関する取組み」も第2位となり、これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、統合報告書で詳細に情報が開示され、会社の取組みが説明されていること、ESGに関する個別対話が行われていることを評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は同得点第1位となった。有益なイベントとして、金融事業説明会を挙げる声が多かった。

第3位 日本電信電話（総合評価点 76.4 点〔昨年度比－4.5 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、自主的情報開示が同得点第1位（76%）、ESG 関連が第3位（76%）、経営陣の IR 姿勢等（79%）、説明会等（74%）が第4位、フェア・ディスクロージャーが同得点第6位（76%）となった。昨年度に比べ、順位や得点率が下がった分野が散見された。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していること」が最も高い評価（満点）となった。また、「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」が第2位となった。「IR 部門の機能」（第6位）は 80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営陣は詳細部分まで丁寧に説明し、理解が深まるとの声が寄せられた一方、経営陣とのコミュニケーションを一層望むとの声もあった。「IR の基本スタンス」は第5位となった。これに関連して、NTT 東西、NTT ドコモの増減益分解などについて、より丁寧な説明を望む声があった。
- ③ 説明会等においては、「キャッシュフロー計算書の実績および見通しが、分かりやすく説明されていること」が評価され、同得点第2位となった。また、「アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しを十分に開示していること、また、情報開示の後退がないこと」および「会計基準の変更・セグメント見直し・KPI の定義変更等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていること」が共に第4位となった。これらに関連して、説明資料、IR プレゼンテーション、データ集などの開示資料が充実しているとの声があった。データセンターに関する開示の強化を評価する声もあった。「説明会、インタビューにおける開示」は第6位となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」が満点となった。「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」は同得点第6位となった。これらに関連して、議事録の開示を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「E（環境）・S（社会（人的資本を含む））に関する取組み」が最も高い評価となり、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」も同得点第1位となった。これらに関連して、ESG に関する個別対話が行われていることを評価する声があった。また、「資本政策、株主還元策の開示」が同得点第3位に、「目標とする経営指標等の開示」が同得点第4位となり、共に昨年度に比べ得点率が下がった。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は同得点第1位となった。充実していたイベントとして、IR DAY を挙げる声が多く寄せられたほか、R&D 見学会を評価する声もあった。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (通信・インターネット)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目4 (配点 30点)	評価項目4 (配点 28点)	評価項目2 (配点 5点)	評価項目4 (配点 32点)	評価項目1 (配点 5点)	
1	9434 ソフトバンク	79.6	24.6	22.2	4.0	25.1	3.7	3
2	9433 KDDI	77.7	23.4	20.6	4.1	25.8	3.8	1
3	9432 日本電信電話	76.4	23.7	20.8	3.8	24.3	3.8	1
4	3774 インターネットイニシアティブ	74.8	25.0	22.7	4.0	20.3	2.8	4
5	2371 カカココム	71.5	24.1	21.9	4.2	19.5	1.8	9
6	4755 楽天グループ	67.9	21.8	19.7	3.8	20.2	2.4	6
7	9984 ソフトバンクグループ	64.3	19.4	19.4	3.8	18.9	2.8	7
8	4751 サイバーエージェント	62.3	21.3	16.4	3.8	18.5	2.3	7
9	4689 LINEヤフー	62.2	18.6	18.9	4.0	18.7	2.0	8
10	4385 メルカリ	57.0	16.2	18.3	3.3	17.4	1.8	9
	評価対象企業評価平均点	69.37	21.81	20.09	3.88	20.87	2.72	

2024年度評価項目および配点（通信・インターネット）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点	委員のみ
(1)経営陣のIR姿勢		
①会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していますか。 [4回以上：2点 3回：1点 2回以下：0点]	2	●
②会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10	
(2)IR部門の機能		
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者とは有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8	
(3)IRの基本スタンス		
・会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても情報開示を後退させることなく、積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	10	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（28点）	配点	委員のみ
(1)説明会、インタビューにおける開示		
・決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10	
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示		
①アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しは、十分に開示されていますか。また、情報開示の後退はありませんか。	10	
②キャッシュフロー計算書の実績および見通しは、分かりやすく説明されていますか。	3	
③会計基準の変更・セグメント見直し・KPIの定義変更等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていますか。	5	
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点	委員のみ
①経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	1	
②投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	4	
4. ESGに関連する情報の開示（32点）	配点	委員のみ
(1)コーポレート・ガバナンスに関する開示		
・社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を統合報告書などで十分に説明していますか。	6	
(2)資本政策、株主還元策の開示		
・資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）や株主還元策（配当・自社株買い・自社株消却等）の具体的な目標が明示され、合理的かつ十分に説明されていますか。	11	
(3)目標とする経営指標等の開示		
・目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	4	
(4)E（環境）・S（社会(人的資本を含む)）に関する取組み		
・E（環境）・S（社会(人的資本を含む)）に関する情報を統合報告書などで開示し、経営戦略の中で方向性を示し、投資家との対話を積み重ねていますか。	11	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点	委員のみ
・会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか。 [過去1年間を目安に評価] 【充実していたサービスないし施設・設備名をコメント欄に記入して下さい】	5	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

通信・インターネット専門部会委員

部 会 長	増野 大作	野村證券
部会長代理	大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント
	奥村 裕介	岡三証券
	醒井 周太	ニッセイアセットマネジメント
	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
	森 はるか	JP モルガン証券

評価実施アナリスト（31名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	得永 一樹	大和証券
五十嵐 竣	大和証券	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	納 博司	いちよし経済研究所
伊藤 彰洋	三井住友 DS アセットマネジメント	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
岩渕 啓介	岡三証券	久田 有貴	三井住友トラスト・アセットマネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	福井 悠香	第一生命保険
大場 剛平	野村アセットマネジメント	堀 雄介	みずほ証券
奥村 裕介	岡三証券	前田 栄二	SMBC 日興証券
小野 まな実	三菱 UFJ 信託銀行	増野 大作	野村證券
巖 智用	野村證券	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
菊池 悟	SMBC 日興証券	村上 秀樹	丸三証券
岸本 晃知	みずほ証券	森 はるか	JP モルガン証券
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	安田 秀樹	東洋証券
佐藤 啓吾	ニッセイアセットマネジメント	山村 淳子	シティグループ 証券
醒井 周太	ニッセイアセットマネジメント	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント
山藤 秀明	QUICK		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

商 社

1. 評価対象企業（7 社）

双日、伊藤忠商事、丸紅、豊田通商、三井物産、住友商事、三菱商事

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	15
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	40
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	10
計		10	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 17 名（所属先 17 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価項目分野のうち、**経営陣の IR 姿勢等**、**フェア・ディスクロージャー**および**自主的情報開示**の評価項目の内容や配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 80.0 点（昨年度 77.8 点）、総合評価点の標準偏差は 5.9 点（昨年度 5.5 点）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 84%（昨年度 81%）、**説明会等**が 80%（昨年度 79%）、**フェア・ディスクロージャー**が 82%（昨年度 84%）、**ESG 関連**が 78%（昨年度 74%）、**自主的情報開示**が 76%（昨年度 72%）となり、**フェア・ディスクロージャー**を除く 4 分野において、昨年度を上回った。
- ③ 評価項目（全 10 項目）について見ると、本年度で最も高い平均得点率となったのは、次の 2 項目（**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目（a）および**説明会等**の中の 1 項目（b））であった。
 - (a) 「IR 部門に十分な情報がタイムリーに集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができますか」（平均得点率 85%〔昨年度 81%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：70%台 1 社・80%台 5 社・90%台 1 社）
 - (b) 「説明会やインタビューでの質疑応答は十分に満足できるものですか」（平均得点率 85%〔昨年度 80%〕）（得点率：70%台 1 社・80%台 4 社・90%台 2 社）
- ④ **ESG 関連**の 4 項目は、次のとおりとなった。(a) を除く 3 項目の平均得点率は、いずれも昨年度に比べ大幅

(10 ポイント) に改善した。

- (a) 「重視する経営指標、ESG 課題（例えば、ROE、資本コスト、キャピタルアロケーション等）とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策および進捗状況が十分に説明されていますか。また、ROE の改善に向けた資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていますか」（平均得点率 76% [昨年度 79%]）（得点率：60%台 1 社・70%台 5 社・80%台 1 社）
- (b) 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 76% [昨年度 66%]）（得点率：60%台 2 社・70%台 3 社・80%台 2 社）
- (c) 「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。例えば、温室効果ガス削減の具体的な計画を開示していますか。また、その成果を提示していますか」（平均得点率 82% [昨年度 72%]）（得点率：70%台 2 社・80%台 5 社）
- (d) 「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。例えば、ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。また、その成果を提示していますか」（平均得点率 83% [昨年度 73%]）（得点率：70%台 3 社・80%台 3 社・90%台 1 社）

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 三井物産（ディスクロージャー優良企業 [8 回連続 9 回目]、総合評価点 88.3 点 [昨年度比 +4.7 点]）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率〈以下省略〉93%）、説明会等（87%）、フェア・ディスクロージャー（91%）、ESG 関連（86%）、自主的情報開示（88%）の 5 分野全てにおいて第 1 位となった。特に、自主的情報開示の得点率は、昨年度に比べ大きく改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」の 2 項目が、共に最も高い評価となった。特に、「IR 部門の機能」の得点率は、昨年度に比べ 10 ポイント近く改善した。これらに関連して、経営トップは、投資家との対話に積極的であるとの声や、株式市場の要望に可能な限り応えようとする姿勢は高く評価できるとの声が寄せられた。なお、マネジメントグループミーティングの開催を評価しつつ、さらなる個別対話姿勢を望む声もあった。IR 部門については、担当者間で情報共有が十分なされているとの声や、投資家に対して能動的に情報発信し、対話の機会を得ようとしているとの声が寄せられ、また、マネジメントとの距離が近い点を評価する声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等における開示」の 2 項目が、共に最も高い評価（同得点第 1 位を含む。）となった。これらに関連して、ウォーターフォールチャートによる増減分析が有益であるとの声や、キャッシュフローをベースに投融資の規模感、株主還元余力を明示している点を評価する声が寄せられた。また、ROI 計画の開示について評価する声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていること」は、最も高い評価となった。これに関連して、ベトナムガス田開発の最終投資決断に関する適時開示などの説明会開催を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、4 項目のうち、社会に関する項目を除く 3 項目がいずれも最も高い評価となった。社会に関する項目についても、トップとは僅差の第 2 位であった。これらに関連して、ROE 維持向上の姿勢とそのための資本政策の考え方が明確に示されているとの声や、株主還元策についての説明や今後の方向性がわかりやすいとの声が寄せられたほか、過去分析の観点から開示内容の一貫性を評価する声もあった。なお、「2050 年の Net-zero emissions に向けた道筋」の開示がわかりにくいとの声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は、最も高い評価（昨年度第 4 位）となり、得点率も昨年度に比べ 10 ポイント以上改善した。これに関連して、インバスターデイ 2023、西豪州（鉄鉱石、ガス、塩田）サイトツアーなどを評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 伊藤忠商事（総合評価点 84.0 点〔昨年度比+2.0 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（88%）、フェア・ディスクロージャー（85%）、自主的情報開示（83%）が第2位、説明会等（84%）、ESG 関連（81%）が第3位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」が共に第2位となり、いずれも 85%以上の得点率であった。これらに関連して、経営トップが投資家との対話に積極的であるとの声や、投資家からの意見を経営に反映する姿勢があるとの声が寄せられた。また、トップマネジメントとのスモールミーティングを評価する声もあった。IR 部門については、マネジメントとの距離が近い点や、IR に対する意識が高く、率直な意見交換ができる点を評価する声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第2位（昨年度第1位）となり、「説明資料等における開示」は第3位（昨年度同得点第2位）となった。これらに関連して、開示は充実しており、資料はわかりやすいとの声のほか、投資額の定量目標の開示を評価する声が寄せられた。一方で、投融資の金額およびリターンの開示改善を望む声もあった。なお、中期経営計画の策定を止めたことについては一定の理解ができるものの、中期的な姿がイメージしにくいとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていること」は第2位となり、85%以上の得点率となった。これに関連して、大規模投資に関する説明会の開催を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、社会に関する項目が、昨年度に続き最も高い評価となった。これに関連して、人的資本関連の開示は充実しており、説明もわかりやすいとの声が寄せられた。社外取締役に関する項目は、第2位（昨年度第5位）となり、昨年度に比べ得点率が大幅に改善した。これに関連して、社外取締役とのスモールミーティングを評価する声が多く寄せられた。環境に関する項目は同得点第3位となった。なお、TCFDに基づく開示において Scope3 に係る内容の充実を望む声があった。「重視する経営指標、ESG 課題（例えば、ROE、資本コスト、キャピタルアロケーション等）とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策および進捗状況が十分に説明されていること。また、ROE の改善に向けた資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていること」は、平均得点率と同程度にとどまった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は、第2位となった。充実していたイベントとして、合同案件説明会、統合レポート説明会を挙げる声があった。

第3位 双日（総合評価点 81.9 点〔昨年度比+3.7 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、説明会等が第2位（85%）、経営陣の IR 姿勢等（87%）、フェア・ディスクロージャー（83%）が第3位、ESG 関連（80%）、自主的情報開示（73%）が第4位となった。昨年度に比べ、経営陣の IR 姿勢等、説明会等および ESG 関連の得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」（第3位）および「IR 部門の機能」（同得点第3位）は共に、昨年度と比べ得点率が改善し、85%以上となった。これらの結果、この分野において第3位（昨年度第5位）となった。これらに関連して、経営陣の IR に対する姿勢を評価する声とともに、新しい経営トップになり、IR が強化されてきた印象との声が寄せられた。IR 部門については、新体制のもとで、より改善されたとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等における開示」が、同得点第1位（昨年度第4位）となり、「説明会、インタビューにおける開示」（同得点第3位（昨年度同得点第5位））は、85%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第2位（昨年度同得点第4位）となった。これらに関連して、投資の収益貢献、時期、商品の前提・感応度の開示を評価する声が寄せられた。一方で、セグメント変更に関して、情報の継続性を含め十分な開示を求める声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていること」は、同得点第3位となり、80%以上の得点率であった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「重視する経営指標、ESG 課題（例えば、ROE、資本コスト、キャピタルアロケーション等）とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策および進捗状況が十分に説明されていること。また、ROE の改善に向けた資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていること」が第 3 位となった。これに関連して、新中期経営計画の開示内容が充実しているとの声や、投資の積極化に関連して ROI 計画を中期経営計画の策定毎に開示していることを評価する声があった。社外取締役に関する項目および社会に関する項目は共に同得点第 3 位となった。環境に関する項目は第 5 位であったが、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第 4 位となった。充実していたイベントとして、統合報告書の説明会を挙げる声があった。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (商社)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目2 (配点 25点)	評価点	評価項目2 (配点 15点)	評価点	評価項目1 (配点 10点)	評価点	評価項目4 (配点 40点)	評価点	評価項目1 (配点 10点)	評価点	
1	8031 三井物産	88.3	23.2	1	13.0	1	9.1	1	34.2	1	8.8	1	1
2	8001 伊藤忠商事	84.0	22.1	2	12.6	3	8.5	2	32.5	3	8.3	2	2
3	2768 双日	81.9	21.7	3	12.7	2	8.3	3	31.9	4	7.3	4	4
4	8058 三菱商事	81.2	21.4	4	11.8	5	8.2	5	32.6	2	7.2	5	3
5	8053 住友商事	77.8	20.4	5	11.5	6	7.6	6	30.6	5	7.7	3	6
6	8002 丸紅	77.5	20.1	6	12.1	4	8.3	3	30.0	6	7.0	6	5
7	8015 豊田通商	69.5	17.3	7	10.4	7	7.6	6	27.6	7	6.6	7	7
	評価対象企業評価平均点	80.03	20.88		12.02		8.23		31.34		7.56		

2024年度評価項目および配点（商社）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどのように評価しますか。例えば、IR対応組織を強化したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。また、経営陣はIR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報がタイムリーに集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（15点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・説明会やインタビューでの質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
(2)説明資料等における開示	
・説明会資料等において投資家が求める情報（通期計画の段階損益、一過性の要因、投融資の金額およびリターン、価格・数量の前提および感応度等）が十分に開示されていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
・投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていますか。	10
4. ESGに関連する情報の開示（40点）	配点
①重視する経営指標、ESG課題（例えば、ROE、資本コスト、キャピタルアロケーション等）とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策および進捗状況が十分に説明されていますか。また、ROEの改善に向けた資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
②社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取り組みをしていますか。	10
③環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取り組みを適切に開示していますか。例えば、温室効果ガス削減の具体的な計画を開示していますか。また、その成果を提示していますか。	10
④社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取り組みを適切に開示していますか。例えば、ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。また、その成果を提示していますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。〔過去1年間を目安に評価〕 【充実していた会合等名をコメント欄に記入して下さい】	10

商社専門部会委員

部 会 長	成田 康浩	野村證券
部会長代理	森本 晃	SMBC 日興証券
	永野 雅幸	大和証券
	堀内 敏成	QUICK
	水野 加奈子	みずほ証券

評価実施アナリスト（17名）

大畠 彰雄	野村アセットマネジメント	広川 孝一	JP モルガン・アセット・マネジメント
神谷 悠介	SOMPO アセットマネジメント	福元 千佳	JP モルガン証券
五老 晴信	UBS 証券	藤岡 哲也	アセットマネジメント One
醒井 周太	ニッセイアセットマネジメント	堀内 敏成	QUICK
下森 浩	三菱 UFJ 信託銀行	水野 加奈子	みずほ証券
竹川 克彦	三井住友トラスト・アセットマネジメント	宮原 秀和	丸三証券
戸田 浩司	りそなアセットマネジメント	虫明 直樹	東京海上アセットマネジメント
永野 雅幸	大和証券	森本 晃	SMBC 日興証券
成田 康浩	野村証券		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

小売業

1. 評価対象企業（22 社）

【百貨店】（4 社）

J.フロント リテイリング、三越伊勢丹ホールディングス、高 島 屋、
丸 井 グ ル ー プ

【総合小売・コンビニエンスストア】（3 社）

セ ブ ン & ア イ ・ ホ ー ル デ ィ ン グ ス 、
パ ン ・ パ シ フ ィ ッ ク ・ イ ン タ ー ナ シ ョ ナ ル ホ ー ル デ ィ ン グ ス 、 イ オ ン

【ネット通販】（3 社）

ア ス ク ル 、 M o n o t a R O 、 Z O Z O

【専門店】（12 社）

エービーシー・マート、マツキヨココカラ&カンパニー、ウエルシアホールディングス、
ツルハホールディングス、良品計画、スギホールディングス、しまむら、
ケーズホールディングス、ヤマダホールディングス、ニトリホールディングス、
ファーストリテイリング、サンドラッグ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の 基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	29
②説明会、インタビュー、説明資料等にお ける開示	説明会等	4	19
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	14
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	8
計		16	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 36 名（所属先 26 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、ESG 関連および自主的な情報開示を中心に項目数や内容および配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 69.0 点（昨年度 70.9 点）、総合評価点の標準偏差は 10.6 点（昨年度 10.2 点）であった。昨年度に比べ、22 社中 14 社の総合評価点が下がった。
- ② 業態別の総合評価平均点は、高得点順に、百貨店（4 社）：78.1 点（昨年度 79.5 点）、総合小売・コンビニ

エンスストア（3社）：75.3点（昨年度74.1点）、ネット通販（3社）：70.1点（昨年度72.9点）、専門店（12社）：64.1点（昨年度66.5点）となった。総合小売・コンビニエンスストアが3社共に上昇したが、その中でも、イオン（+5.3点）が大きく改善した。なお、各企業の総合評価点の差は依然として大きいと、下位評価企業においては改善努力を強く求めたい。

- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が69%（昨年度73%）、**説明会等**が78%（昨年度同率）、**フェア・ディスクロージャー**が83%（昨年度82%）、**ESG関連**が62%（昨年度65%）、**自主的情報開示**が50%（昨年度48%）となった。

- ④ 評価項目について見ると、平均得点率80%以上の評価項目は5項目となり、そのうち85%以上は次の4項目（**説明会等**の中の2項目（(a)(b)）および**フェア・ディスクロージャー**の中の2項目（(c)(d)））であった。

- (a) 「月次の売上状況は、十分に開示されていますか」（平均得点率89%〔昨年度85%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：10%未満1社・80%台2社・90%台17社・100%2社）
- (b) 「各四半期決算（本決算・中間決算を含む）発表後、電話会議や補足資料などを通じて速やかに業績動向が把握できるようにしていますか。また、説明会の日程等に十分配慮していますか」（平均得点率85%〔昨年度87%〕）（得点率：50%台1社・60%台1社・70%台3社・80%台6社・90%台11社）
- (c) 「経営陣がメディアを含む総合的な情報開示や取材対応等につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか」（平均得点率91%〔昨年度89%〕）（得点率：70%台1社・80%台3社・90%台18社）
- (d) 「リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていますか」（平均得点率88%〔昨年度90%〕）（得点率：20%台1社・80%台2社・90%台18社・100%1社）

- ⑤ 一方、平均得点率が50%台以下の評価項目は、次の2項目（**ESG関連**の中の1項目（a）、**自主的情報開示**の項目（b））となった。なお、(b)の平均得点率は、昨年度に比べやや改善したものの、全16項目の中で、最も低い水準であった。

- (a) 「中期経営戦略や長期ビジョンを公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・リターン）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか」（平均得点率59%〔昨年度同率〕）（得点率：20%台1社・30%台2社・40%台1社・50%台6社・60%台7社・70%台4社・80%台1社）
- (b) 「決算説明会、ESG説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、かつその内容が充実していますか」（平均得点率50%〔昨年度48%〕）（得点率：20%台5社・30%台4社・40%台1社・50%台5社・60%台1社・70%台5社・80%台1社）

- ⑥ **ESG関連**の4項目は、次のとおりとなり、いずれの項目も企業間の得点率の差が大きい状況が見られる。なお、(a)～(c)は、本年度において項目内容を見直した。

- (a) 「ESGに関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていますか。また、企業価値関連性への言及は十分ですか」（平均得点率68%〔昨年度同率〕）（得点率：30%台1社・50%台3社・60%台8社・70%台6社・80%台4社）
- (b) 「ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るよう努めていますか。また、企業価値関連性への言及は十分ですか」（平均得点率62%〔昨年度68%〕）（得点率：20%台1社・40%台1社・50%台10社・60%台3社・70%台4社・80%台3社）
- (c) 「人的資本に関する課題、サプライチェーンの環境・人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。その進捗状況や経営戦略との関係性、企業価値関連性を適切に説明していますか」（平均得点率62%〔昨年度67%〕）（得点率：30%台1社・40%台2社・50%台8社・60%台4社・70%台4社・80%台3社）
- (d) 「中期経営戦略や長期ビジョンを公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・リターン）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか」（平均得点率59%〔昨年度同率〕）（得点率：20%台1社・30%台2社・40%台1社・50%台6社・60%台7社・70%台4社・80%台1社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 三越伊勢丹ホールディングス（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、

総合評価点 84.4 点〔昨年度比+3.9 点〕、昨年度第4位〕

- ① 同社は、説明会等が第1位（得点率〈以下省略〉88%）、経営陣のIR姿勢等（86%）、ESG関連（78%）が第2位、自主的情報開示が第3位（76%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（94%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く4分野において得点率が改善し、総合順位において初の第1位となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣のIR姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、経営トップがIRに注力しており、IRにおける経営戦略や施策の狙いがわかりやすいとの声や、投資家の声を経営に反映しているとの声が寄せられた。また、半年毎の社長スモールミーティングを評価する声もあった。「IR部門の機能」および「IRの基本スタンス」は共に第2位となった。これらに関連して、IR部門の情報集積、対話の質・量が優れているとの声や、アナリスト・投資家のニーズ・意見を把握し、IR活動に活かしているとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（2項目計）が共に最も高い評価となった。「決算情報開示」も同得点第3位となり、トップと僅差であった。これらの結果、この分野において第1位（昨年度同得点第7位）となった。これらに関連して、説明が明瞭でわかりやすいとの声や、質問の意図を理解した回答が得られるとの声が寄せられた。なお、第1・第3四半期の情報開示の一層の充実を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「外国人投資家向け情報提供」が満点となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」（2項目計）が同得点第2位に、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第4位となり、いずれもトップとは僅差であった。
- ⑤ ESG関連においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」が、昨年度に比べ得点率を大きく改善し、最も高い評価となった。「ESGに関する取組み」（3項目計）は第7位となった。これらに関連して、経営戦略、中長期ビジョン、財務政策の開示が優れているとの声があったほか、中長期目標KPIなどを適宜アップデートし、考え方の詳細などを説明していることを評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「決算説明会、ESG説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」は第3位となった。充実していたイベントとして、複数の事業戦略説明会を挙げる声が多かった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 アスクル（総合評価点 83.3 点〔昨年度比-1.5 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等が第1位（87%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（95%）、説明会等が第2位（86%）、自主的情報開示が第5位（71%）、ESG関連が第6位（75%）となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「IR部門の機能」および「IRの基本スタンス」が共に最も高い評価となった。これらに関連して、投資家との対話を重視するIRスタンスは評価できるとの声があった。「経営陣のIR姿勢」（第2位）も90%以上の得点率となった。これに関連して、経営陣はIR活動に熱心であり、市場参加者の声に耳を傾けようとする姿勢があるとの声が寄せられた。これらの結果、この分野において、昨年度に続き第1位となった。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（2項目計）が、トップと僅差の同得点第2位となった。これに関連して、決算説明資料等を通じた定量情報の開示は、質・量共に十分で参考になるとの声が寄せられた。また、「説明会、インタビューにおける開示」が同得点第2位になり、「決算情報開示」も、トップと僅差の同得点第3位となった。これらに関連して、質疑応答の時間を十分にとっているとの声や、決算説明後に経営トップが投資家との直接対話を積極的に実施している点を評価する声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「外国人投資家向け情報提供」が満点となり、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第1位となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」（2項目計）も同得点第2位となり、トップとは僅差であった。

- ⑤ ESG 関連においては、「ESG に関する取組み」（3 項目計）が第 3 位となった。「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」は第 6 位であった。
- ⑥ 自主的情報開示の「決算説明会、ESG 説明会以外の IR イベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」は第 5 位となった。充実していたイベントとして、ASKUL 東京 DC の施設見学会を挙げる声が多く、ロジスティクスでの優位性が当社の競争力の源泉であるため、このようなイベントを今後も望むとの声があった。

第 3 位 J. フロント リテイリング（総合評価点 81.0 点〔昨年度比－1.0 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（79%）、ESG 関連（77%）が第 3 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 3 位（94%）、説明会等（84%）、自主的情報開示（73%）が第 4 位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 3 位となった。これに関連して、主要子会社を含め、社長以下経営陣で半期毎の投資家ミーティングに臨むなど、市場の声を聴こうとする積極的な IR 姿勢があるとの声が寄せられた。また、「IR の基本スタンス」が第 4 位に、「IR 部門の機能」が同得点第 9 位となった。
- ③ 説明会等においては、「決算情報開示」が同得点第 1 位となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」が第 5 位となった。「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（2 項目計）は同得点第 9 位となった。これらに関連して、四半期決算の遡及修正がわかりにくいとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「外国人投資家向け情報提供」が満点となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」（2 項目計）が同得点第 2 位に、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 4 位となり、いずれもトップとは僅差であった。
- ⑤ ESG 関連においては、「ESG に関する取組み」（3 項目計）および「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」が共に第 4 位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「決算説明会、ESG 説明会以外の IR イベントを積極的に実施し、その内容が充実していること」は第 4 位（昨年度同得点第 6 位）となり、昨年度に比べ得点率が改善した。IR イベントとして、事業戦略説明会を挙げる声が多かった。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（小売業）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点 29点)		評価項目4 (配点 19点)		評価項目4 (配点 14点)		評価項目4 (配点 30点)		評価項目1 (配点 8点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	3099 三越伊勢丹ホールディングス	84.4	24.9	2	16.7	1	13.2	3	23.5	2	6.1	3	4
2	2678 アスクル	83.3	25.3	1	16.4	2	13.3	1	22.6	6	5.7	5	2
3	3086 J. フロントリテイリング	81.0	22.9	3	15.9	4	13.2	3	23.2	3	5.8	4	3
4	8252 丸井グループ	80.1	21.7	8	15.4	7	13.2	3	24.2	1	5.6	6	1
5	3382 セブン&アイ・ホールディングス	79.5	22.5	6	15.7	6	12.3	10	22.8	5	6.2	2	6
6	9983 ファーストリテイリング	78.9	22.7	4	15.1	11	13.0	6	23.0	4	5.1	7	5
7	7532 パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス	74.7	22.6	5	15.4	7	12.4	9	20.1	8	4.2	12	9
8	7453 良品計画	74.4	20.4	10	14.8	14	13.3	1	19.5	9	6.4	1	10
9	8227 しまむら	72.0	21.8	7	16.1	3	11.8	12	17.8	12	4.5	9	8
10	8267 イオン	71.5	19.4	13	14.3	16	12.9	7	20.6	7	4.3	11	16
11	3391 ツルハホールディングス	68.7	20.2	12	15.4	7	11.5	13	18.5	10	3.1	14	11
12	8282 ケーズホールディングス	67.7	20.8	9	15.8	5	11.4	15	17.2	15	2.5	15	12
13	3092 ZOZO	67.4	20.3	11	12.6	20	12.8	8	17.1	16	4.6	8	13
14	3141 ウエルシアホールディングス	67.0	19.2	17	15.4	7	11.5	13	16.5	17	4.4	10	15
15	8233 高島屋	66.8	19.4	13	14.3	16	12.0	11	17.4	13	3.7	13	18
16	3088 マツキヨココカラ&カンパニー	64.1	18.3	18	13.8	18	11.0	17	18.5	10	2.5	15	20
17	9989 サンドラッグ	63.9	19.4	13	14.5	15	10.5	19	17.3	14	2.2	21	17
18	7649 スギホールディングス	63.8	19.3	16	14.9	13	10.8	18	16.5	17	2.3	18	14
19	3064 MonotaRO	59.6	17.3	19	15.0	12	11.2	16	13.7	21	2.4	17	19
20	9831 ヤマダホールディングス	55.6	16.0	20	12.0	21	9.8	20	15.5	19	2.3	18	21
21	9843 ニトリホールディングス	48.9	12.4	22	11.5	22	7.7	21	15.0	20	2.3	18	22
22	2670 エービーシー・マート	44.5	13.8	21	13.0	19	7.5	22	8.0	22	2.2	21	23
	評価対象企業評価平均点	69.00	20.03		14.73		11.65		18.57		4.02		

2024年度評価項目および配点（小売業）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（29点）	配点	委員のみ
(1)経営陣のIR姿勢		
・経営トップがIR活動に理解を示し、注力していますか。また、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	9	
(2)IR部門の機能		
・IR部門にグループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、IR部門が経営陣の代弁者として有益なディスカッションができますか。	9	
(3)IRの基本スタンス		
・当該企業のディスクロージャー・IR全体を通じて、企業理念・中期ビジョン・事業リスクを含め、アナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、適切なレベルの情報開示を維持または改善していますか。	11	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（19点）	配点	委員のみ
(1)説明会、インタビューにおける開示		
・決算説明会等における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	6	
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示〔以下①②については、持株会社の場合、主要事業会社についての記載を評価する〕		
①実績および次期事業計画について、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が開示されていますか。また、セグメント分類をはじめ会計方針等の変更が生じた場合、過去の数値と比較ができるような情報の開示が十分に行われていますか。	8	
②月次の売上状況は、十分に開示されていますか。	2	
(3)決算情報開示		
・各四半期決算（本決算・中間決算を含む）発表後、電話会議や補足資料などを通じて速やかに業績動向が把握できるようにしていますか。また、説明会の日程等に十分配慮していますか。	3	
3. フェア・ディスクロージャー（14点）	配点	委員のみ
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
・経営陣がメディアを含む総合的な情報開示や取材対応等につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか。	3	
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供		
①決算説明会等の内容（質疑応答を含む）を迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか。	5	
②リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていますか。	2	
(3)外国人投資家向け情報提供		
・英文による情報提供は充実していますか。（0～4点の整数で評価）	4	●
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点	委員のみ
(1)ESGに関する取組み		
①ESGに関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていますか。また、企業価値関連性への言及は十分ですか。	6	
②ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るよう努めていますか。また、企業価値関連性への言及は十分ですか。	6	
③人的資本に関する課題、サプライチェーンの環境・人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。その進捗状況や経営戦略との関係性、企業価値関連性を適切に説明していますか。	6	
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示		
・中期経営戦略や長期ビジョンを公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・リターン）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	12	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	配点	委員のみ
・決算説明会、ESG説明会以外のIRイベント等を積極的に実施し、かつその内容が充実していますか。〔過去1年間を目安に評価〕【充実していたIRイベント等名をコメント欄に記入して下さい】	8	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

小売業専門部会委員

部 会 長	小場 啓司	モルガン・スタンレー MUFG 証券
部会長代理	高橋 俊雄	みずほ証券
	風早 隆弘	UBS 証券
	金森 都	SMBC 日興証券
	仲西 恭子	アセットマネジメント One
	西村 俊一	三井住友 DS アセットマネジメント
	村田 大郎	JP モルガン証券

評価実施アナリスト（36 名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	高橋 俊雄	みずほ証券
飯塚 恭平	第一生命保険	高柳 満	シティグループ 証券
五十崎 義将	東京海上アセットマネジメント	ダグラス 奈津子	マコーリーキャピタル証券会社
伊藤 彰洋	三井住友 DS アセットマネジメント	田村 真一	極東証券経済研究所
井上 昂洋	シティグループ 証券	津田 和徳	大和証券
江上 誠	三井住友トラスト・アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
大場 剛平	野村アセットマネジメント	永田 和子	QUICK
風早 隆弘	UBS 証券	仲西 恭子	アセットマネジメント One
金森 都	SMBC 日興証券	納 博司	いちよし経済研究所
金森 淳一	岡三証券	仁井田 将	りそなアセットマネジメント
川原 潤	大和証券	西村 俊一	三井住友 DS アセットマネジメント
菊間 太郎	SOMPO アセットマネジメント	花井 美穂	SOMPO アセットマネジメント
岸本 晃知	みずほ証券	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
高 英詞	野村アセットマネジメント	堀井 章	ニッセイアセットマネジメント
小場 啓司	モルガン・スタンレー MUFG 証券	松尾 賢弥	SMBC 日興証券
重岡 絵美里	大和証券	村田 大郎	JP モルガン証券
篠崎 真紀	モルガン・スタンレー MUFG 証券	山岡 久紘	野村証券
高田 訓弘	三菱 UFJ アセットマネジメント	横山 雄一	三菱 UFJ 信託銀行

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

銀行

1. 評価対象企業（12 社）

【主要銀行】（5 社）

三菱 UFJ フィナンシャル・グループ、りそなホールディングス、三井住友トラストグループ（注）、三井住友フィナンシャルグループ、みずほフィナンシャルグループ

【地方銀行】（5 社）

しずおかフィナンシャルグループ、めぶきフィナンシャルグループ、コンコルディア・フィナンシャルグループ、千葉銀行、ふくおかフィナンシャルグループ

【専門銀行】（2 社）

ゆうちょ銀行、セブン銀行

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）三井住友トラスト・ホールディングスが商号を変更した（2024 年 10 月）。

2. 評価方法等

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	5	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	7	33
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	12
計		19	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2）評価実施アナリストは 21 名（所属先 20 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1）総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、各評価分野の項目数、内容、配点を全般的に見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 77.8 点（昨年度同点）、総合評価点の標準偏差は、4.0 点（昨年度 4.8 点）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 78%（昨年度 77%）、説明会等が 79%（昨年度 81%）、フェア・ディスクロージャーが 85%（昨年度同率）、ESG 関連が 76%（昨年度同率）、自主的情報開示が 75%（昨年度 72%）となった。

③ 評価項目（全 19 項目）について見ると、次の 7 項目（経営陣の IR 姿勢等の中の 1 項目 (a)、説明会等の中の 2 項目 ((b) (c))、フェア・ディスクロージャーの 2 項目 ((d) (e))、ESG 関連の中の 2 項目（下記④の(e) (f)）が、平均得点率で 80%以上となり、高水準であった。なお、(b)は、本年度の新設項目である。

- (a) 「IR 部門への経営資源の配分は充実していますか。また、IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか」(平均得点率 80% [昨年度同率]) (得点率 (評価点/配点<以下省略>) : 70%台 5 社・80%台 7 社)
- (b) 「投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていますか」(平均得点率 81%) (得点率 : 70%台 4 社・80%台 7 社・90%台 1 社)
- (c) 「事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていますか」(平均得点率 84% [昨年度 78%]) (得点率 : 全社 80%台)
- (d) 「経営陣および IR 部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか」(平均得点率 84% [昨年度 87%]) (得点率 : 70%台 1 社・80%台 10 社・90%台 1 社)
- (e) 「英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか」(平均得点率 87% [昨年度 84%]) (得点率 : 70%台 2 社・80%台 5 社・90%台 5 社)

④ ESG 関連の 7 項目は、次のとおりとなった。なお、人的資本に関する項目 (g) は、平均得点率が 70%となり、全 19 項目の中で最も低かった（本年度、項目内容を見直した。）。

- (a) 「資本政策（資本コスト、資本配賦、規制対応等を含む）、株主還元策が十分に説明されていますか」(平均得点率 76% [昨年度 77%]) (得点率 : 60%台 2 社・70%台 8 社・80%台 2 社)
- (b) 「中・長期経営計画（市場目線に即した ROE など目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」(平均得点率 76% [昨年度同率]) (得点率 : 60%台 3 社・70%台 5 社・80%台 4 社)
- (c) 「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか」(平均得点率 78% [昨年度 82%]) (得点率 : 70%台 7 社・80%台 5 社)
- (d) 「社外取締役の関与について、実効性評価も含め、十分な開示と説明がなされていますか」(平均得点率 76% [昨年度 71%]) (得点率 : 50%台 1 社・60%台 1 社・70%台 4 社・80%台 6 社)
- (e) 「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 80% [昨年度 82%]) (得点率 : 60%台 1 社・70%台 4 社・80%台 4 社・90%台 3 社)
- (f) 「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 81% [昨年度 80%]) (得点率 : 70%台 3 社・80%台 9 社)
- (g) 「人的資本に関する情報開示は、経営戦略とリンクする形で十分になされていますか。また、人的資本に関する投資の成果について開示がされていますか」(平均得点率 70% [昨年度 76%]) (得点率 : 60%台 3 社・70%台 9 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 三井住友フィナンシャルグループ（ディスクロージャー優良企業（5 回目）、

総合評価点 85.4 点 [昨年度比 +2.0 点]、昨年度第 2 位)

① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率（以下省略）86%）、説明会等（84%）、ESG 関連（85%）、自主的情報開示（87%）が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（88%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて順位を上げた。

② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能・姿勢」が共に最も高い評価となり、「IR の基本スタンス」も第 2 位となった。これらに関連して、CEO 就任後、早期に市場との対話の機会を持ち、投資家の問題意識を把握しようとする IR 姿勢を評価する声のほか、企業価値向上に対する経営トップの積極性や、中長期的な利益目線による目標設定などを評価する声が寄せられた。IR 部門については、情報蓄積が十分な上、投資家の期待や懸念を経営陣と共有し、対応しようとする姿勢があるとの声があった。

- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示（連・短の両決算）」の4項目のうち、「投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていること」および「事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていること」が共に最も高い評価となった。他の2項目もいずれも80%以上の得点率となった。また、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」も評価され、同得点第2位となった。これらに関連して、決算説明会資料等は業界の中でも優れており、説明も十分かつ簡潔明瞭であるとの声があったほか、計数の羅列ではなく、部門毎のビジネス状況や、伸びが把握しやすいよう工夫されていること、インタビュー編がわかりやすいことを評価する声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「英文による情報提供」が同得点第1位となり、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第6位）は、昨年度に比べ得点率が改善した。これらに関連して、英文開示が充実していること、ウェブサイトでの決算説明会の動画・音声配信に主な質疑応答まで含まれており、透明性・公平性が高いこと、スクリプト付資料の開示があることを評価する声が寄せられた。
- ⑤ **ESG 関連**においては、7項目全てで、最も高い評価（同得点第1位を含む。）となった。特に、「コーポレート・ガバナンス」の社外取締役の関与に関する項目については、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。これに関連して、社外取締役によるパネルディスカッションにおいて、当社の課題に対する説明が率直であったことを評価する声があった。そのほかに、サステナビリティ説明会が充実しているとの声や、社会的課題解決を従業員全員参加型で取り組んでいることを開示しており共感できるとの声も寄せられた。なお、人的資本と経営戦略との関連や、人的投資の効果に関して、さらなる開示を期待する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等」について、積極的に実施していること。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示していること」が最も高い評価となり、「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」もトップと僅差の第2位となった。充実していたイベントとして、IR Day、新 CEO による投資家説明会を挙げる声が多く、また、統合報告書の内容を評価する声も多かった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 コンコルディア・フィナンシャルグループ（総合評価点 81.5 点〔昨年度比+1.1 点〕、昨年度第5位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（88%）、経営陣の IR 姿勢等（84%）、説明会等（81%）が第2位、ESG 関連が同得点第2位（80%）、自主的情報開示が第5位（78%）となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて順位が上がった結果、総合順位で昨年度比3ランク、一昨年度比6ランクのアップとなった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR の基本スタンス」が最も高い評価となり、「経営陣の IR 姿勢」（第2位）も高く評価された。「IR 部門の機能・姿勢」（同得点第4位）も80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップの企業価値向上へのコミットメントが高く、また、財務担当取締役や IR 担当者も課題などについて率直に説明するなど中長期投資をする上での信頼感があるとの声や、最近の開示の改善後も、高水準の説明を維持しようとする姿勢は評価できるとの声が寄せられた。IR 部門については、人員の質・量ともに充実しており、IR 担当者と十分な議論ができるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が最も高い評価となり、「投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていること」も同得点第2位となった。そのほかの3項目も、それぞれ昨年に比べ順位を上げ、これらの結果、この分野において第2位（昨年度第3位）となった。これらに関連して、説明会や決算説明資料等はいずれも優れており、継続的に丁寧な説明がされているとの声が寄せられた。また、企業価値向上の説明など業界をリードする面も多いが、他行の開示向上も著しいので、成長戦略の説明などを今まで以上に積極的に行ってほしいとの声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、ウェブサイト上で資料や質疑応答を詳細に開示しており公平性が高いとの声が寄せられた。「英文による情報提供」（同得点第6位）も85%以上の得点率となり、これらの結果、この分野において同得点第1位（昨年度同得点第3位）となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレート・ガバナンス」の中の、社外取締役の関与に関する項目が同得点第1位となった。これに関連して、IR Day での社外取締役の質疑応答を評価する声があった。また、「人的資本に関

する情報開示」(同得点第3位)は、トップと僅差であった。これに関連して、人的資本投資のKPIの開示を評価する声があった。そのほかの5項目についても、いずれも80%以上の得点率であり、これらの結果、この分野において同得点第2位(昨年度第5位)となった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、2項目共に、昨年度に比べ得点率が5ポイント以上改善した。充実していたイベントとして、IR Dayが挙げられ、その中でも市場部門説明会を評価する声が多かった。また、統合報告書におけるCEOメッセージ、企業価値向上や長期的課題の説明内容を評価する声もあった。

第3位 三菱UFJフィナンシャル・グループ (総合評価点81.0点〔昨年度比-3.9点、昨年度第1位〕)

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第2位(86%)、**ESG関連**が同得点第2位(80%)、**経営陣のIR姿勢等**が第3位(80%)、**説明会等**が同得点第3位(81%)、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第9位(82%)となった。昨年度に比べ、**自主的情報開示**を除く4分野において、得点率が下がった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」および「IR部門の機能・姿勢」が、昨年度に比べ得点率を下げ、共に第3位となった。これらに関連して、経営トップには、ROE向上やカルチャー改革に対する強い意志が感じられ、そのIR姿勢は評価できるとの声があった。一方で、投資家のニーズや期待に十分に当たっていないとの声もあった。IR部門については、人員、情報蓄積とも十分であり、投資家ときめ細かな対話ができるとの声があった。「IRの基本スタンス」(第12位(昨年度同得点第1位))は、得点率が大きく下がった。これに関連して、テーマ別のミーティングによる情報提供を評価する声が寄せられたが、不祥事に関する対応や説明が十分ではないとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況が十分に説明されていること(合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む)」が最も高い評価となり、「事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていること」も同得点第1位となった。「投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていること」は、同得点第2位となった。一方、「事業セグメント別・項目別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていること」は、同得点第10位であった。これらに関連して、説明会や決算説明資料等の開示内容は十分で、丁寧な説明がされているとの声があった一方、事業セグメント別データの継続性の向上を求める声もあった。なお、一過性特殊要因について、より丁寧な開示を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「英文による情報提供」が同得点第1位となった。一方、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(第12位)は、昨年度に比べ、得点率が下がった。これに関連して、買収関連の事前報道や行政処分関連に関する情報開示には課題があるとの声があった。
- ⑤ **ESG関連**においては、「環境・社会に関する情報開示」の2項目のうち、環境に関する項目が同得点第1位となり、社会に関する項目も同得点第3位となった。これらに関連して、気候変動の取組みの開示は充実しているとの声が寄せられた。一方、「資本政策、株主還元策の開示」(第9位)および「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」(同得点第4位)はいずれも、昨年度に比べ得点率を大きく下げた。これらに関連して、株主還元方針やその運用について十分な説明を求める声や、不祥事を受けてのコーポレート・ガバナンスの実効性に関する開示が不十分であるとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、2項目共に高い評価となった。充実していたイベントとして、Investors Dayを挙げる声が多く、その中でも各事業の説明を評価する声があった。そのほか、社外取締役とのスモールミーティングを挙げる声もあった。統合報告書については、その内容を評価する声が多く、CEO・CFOメッセージや、環境・社会課題の解決、カルチャー改革・人材戦略の内容が充実しているとの声が寄せられた。

(注) なお、第3位の企業より、今後の「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」の評価に際して、本年度の評価を勘案することについて、辞退する申し出があった。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（銀行）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス 評価項目3 (配点 25点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における 評価項目5 (配点 25点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目2 (配点 5点)		4. ESGに関連する情報の開示 評価項目7 (配点 33点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2 (配点 12点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8316 三井住友フィナンシャルグループ	85.4	21.5	1	21.0	1	4.4	1	28.1	1	10.4	1	2
2	7186 コンコルディア・フィナンシャルグループ	81.5	21.1	2	20.3	2	4.4	1	26.4	2	9.3	5	5
3	8306 三菱UFJフィナンシャル・グループ	81.0	20.0	3	20.2	3	4.1	9	26.4	2	10.3	2	1
4	8309 三井住友トラストグループ	79.5	19.5	7	20.0	5	4.4	1	26.1	5	9.5	4	3
5	8411 みずほフィナンシャルグループ	79.3	19.4	8	19.4	8	4.3	4	26.4	2	9.8	3	4
6	8331 千葉銀行	78.7	19.6	6	20.2	3	4.3	4	25.7	6	8.9	6	6
7	8308 りそなホールディングス	76.3	18.9	10	19.4	8	4.1	9	25.2	7	8.7	8	7
8	5831 しずおかフィナンシャルグループ	75.8	19.3	9	19.2	11	4.2	8	24.9	8	8.2	9	8
9	7182 ゆうちょ銀行	75.4	19.9	4	19.3	10	4.3	4	23.0	11	8.9	6	11
10	7167 めざきフィナンシャルグループ	75.1	18.9	10	19.5	7	4.1	9	24.4	9	8.2	9	12
11	8410 セブン銀行	74.9	19.7	5	19.7	6	4.3	4	23.4	10	7.8	11	10
12	8354 ふくおかフィナンシャルグループ	70.2	17.4	12	19.2	11	3.9	12	22.5	12	7.2	12	13
	評価対象企業評価平均点	77.80	19.60		19.80		4.24		25.22		8.94		

2024年度評価項目および配点（銀行）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが決算説明会、統合報告書等において経営方針等を十分に説明していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
(2)IR部門の機能・姿勢	
・IR部門への経営資源の配分は充実していますか。また、IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(3)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（25点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示(連・単の両決算)	
①投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていますか。	5
②事業セグメント別・項目別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていますか。	5
③事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	5
④主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	5
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	5
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか。	3
(2)英文による情報提供	
・英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか。	2
4. ESGに関連する情報の開示（33点）	配点
(1)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策（資本コスト、資本配賦、規制対応等を含む）、株主還元策が十分に説明されていますか。	7
(2)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（市場目線に即したROEなど目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	6
(3)コーポレート・ガバナンス	
①コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	4
②社外取締役の関与について、実効性評価も含め、十分な開示と説明がなされていますか。	4
(4)環境・社会に関する情報開示	
①環境に関する情報、定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	4
②社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	4
(5)人的資本に関する情報開示	
・人的資本に関する情報開示は、経営戦略とリンクする形で十分になされていますか。また、人的資本に関する投資の成果について開示がされていますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（12点）	配点
①決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、投資家の関心を踏まえて実施していますか。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。[過去1年間を目安に評価]【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	6
②統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか。【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	6

銀行専門部会委員

部 会 長	高宮 健	野村證券
部会長代理	鮫島 豊喜	SBI 証券
	長坂 美亜	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
	松野 真央樹	みずほ証券
	簀谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント

評価実施アナリスト（21名）

幾代 孝四郎	大和アセットマネジメント	長坂 美亜	モルガン・スタンレー MUFG 証券
今井 雅	アセットマネジメント One	丹羽 孝一	シティグループ 証券
大野 剛	丸三証券	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
坂本 昂平	大和証券	柊 宏二	QUICK
佐藤 雅彦	SMBC 日興証券	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
佐野 滉介	第一生命保険	松田 健	大和証券
鮫島 豊喜	SBI 証券	松野 真央樹	みずほ証券
高宮 健	野村證券	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
田村 晋一	岡三証券	矢野 貴裕	JP モルガン証券
勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント	簀谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント
戸田 浩司	りそなアセットマネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

保険・証券・その他金融

1. 評価対象企業（9 社）

- 【損保】（3 社） SOMPO ホールディングス、MS&AD インシュアランスグループホールディングス、東京海上ホールディングス
- 【生保】（3 社） かんぽ生命保険、第一生命ホールディングス、T&D ホールディングス
- 【証券】（2 社） 大和証券グループ本社、野村ホールディングス
- 【その他金融】（1 社） オリックス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	26
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	7
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	34
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	7
計		17	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 19 名（所属先 19 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、各評価分野の項目内容や配点を全般的に見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 71.4 点（昨年度 72.7 点）、総合評価点の標準偏差は、6.8 点（昨年度 6.2 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、損保（3 社）が 76.5 点（昨年度 78.2 点）、生保（3 社）が 68.9 点（昨年度 68.8 点）、証券（2 社）が 66.7 点（昨年度 70.7 点）、その他金融（1 社）は 72.8 点（昨年度 72.0 点）となった。昨年度に比べ、証券が大きく下がった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 70%（昨年度 72%）、**説明会等**が 73%（昨年度 76%）、**フェア・ディスクロージャー**が 79%（昨年度 80%）、**ESG 関連**が 72%（昨年度 71%）、**自主的な情報開示**が 59%（昨年度 61%）となった。
- ④ 評価項目について見ると、全 17 項目中、次の項目（フェア・ディスクロージャーの中の 1 項目）が 80% 以上の平均得点率となり、高い水準となった。

- ・「ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会等の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を日英両言語で行っていますか」（平均得点率 85%〔昨年度 80%〕）（得

点率（評価点／配点（以下省略））：70%台 1 社・80%台 7 社・90%台 1 社）

- ⑤ 一方、次の項目（**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目）は、昨年度に続き平均得点率が最も低くなり、40% 台となった。評価対象企業の多くが得点率を下げており、今後の改善を求めたい。

・「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 48%〔昨年度 55%〕）（得点率：20%台 1 社・30%台 2 社・40%台 2 社・50%台 1 社・60%台 3 社）

- ⑥ **ESG 関連**の 4 項目は、次のとおりとなった。なお、(a) (b) (d)は、本年度において項目内容を見直している。

(a)「実効性のあるコーポレートガバナンスを確保するための取組みを公表し、市場関係者の理解を得るよう に努めていますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報、社外取締役の選定プロセス、腐敗防止への取組み」（平均得点率 70%〔昨年度同率〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 2 社・70% 台 6 社）

(b)「中長期経営計画、資本政策（ROE、資本コスト、キャピタルアロケーション等）、株主還元方針を公表 し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分説明されていますか」（平均得点率 74%〔昨年度 同率〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 1 社・70%台 5 社・80%台 2 社）

(c)「**E**（環境）に関する適切な目標設定、PDCA サイクルの実践、アップデートがなされていますか」（平 均得点率 74%〔昨年度同率〕）（得点率：60%台 2 社・70%台 5 社・80%台 2 社）

(d)「**S**（人的資本を含む社会）に関する経営戦略にリンクした目標設定、PDCA サイクルの実践、アップデ ートがなされていますか」（平均得点率 72%〔昨年度 65%〕）（得点率：60%台 2 社・70%台 7 社）

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 東京海上ホールディングス（ディスクロージャー優良企業（6 回目）、

総合評価点 81.7 点〔昨年度比－0.7 点〕、昨年度第 1 位〕

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率（以下省略）83%）、**説明会等**（81%）、**フェア・ディスクロージャー**（90%）、**ESG 関連**（81%）が第 1 位、**自主的情報開示**が第 2 位（74%）となった。なお、**経営陣の IR 姿勢等** の中の「（IR の基本スタンス）会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極 的に開示する姿勢が見られること」に関しては、得点率、順位共に昨年度に比べ下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「**経営陣の IR 姿勢**」および「**IR 部門の機能**」が共に最も高い評価となり、 90%以上の得点率であった。「**IR の基本スタンス**」は第 3 位となった。これらに関連して、経営陣、IR 部門共 に積極的な情報開示、発信の姿勢が見られるとの声が寄せられた。また、構造改革の取組みを経営トップが示 そうとしていることや、四半期決算後の電話会議にも経営トップが参加していることを評価する声もあった。 なお、経営トップと投資家とが直接対話できる機会を増やしてほしいとの声があった。**IR 部門**については、体 制が充実し、担当者の説明能力も高いとの声が寄せられた。「**社外取締役との対話**」は第 2 位となった。
- ③ **説明会等**においては、6 項目のうち 4 項目が最も高い評価となった。特に、「**決算資料・統合報告書等**におけ る開示」は、90%以上の得点率となった。これらに関連して、説明会や資料の内容が充実しているとの声が寄 せられ、テーマ別説明会は有益との声もあった。なお、海外を含めたセグメントのデータ開示を評価しつつ、 海外事業の見通しに関する情報の充実を求める声があった。「**事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、 社内リスク管理上のリスク量等（自主的情報開示を含む）**」開示が十分になされていること」（第 2 位（昨年度第 1 位））は、昨年度に比べ、得点率が 8 ポイント下がった。「**決算発表日**」は同得点第 6 位となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「**フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢**」および「**リモートツ ールによる情報提供**」の 2 項目が共に第 1 位となった。なお、最近の不祥事発生の経緯に関する適時開示は投 資家の要望に対して遅れた印象であり、さらなる詳細な説明が必要との声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「**目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示**」に関連して、政策株削減加速に 伴い資本政策がクリアになったとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「**決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明**

会等を積極的に実施していること」は第2位となった。充実していたイベントとして、海外事業の説明会を挙げる声が多く寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 MS&AD インシュアランスグループホールディングス

(総合評価点 76.6 点 [昨年度比-0.5 点]、昨年度第2位)

- ① 同社は、自主的情報開示が第1位(80%)、フェア・ディスクロージャー(83%)、ESG 関連(79%)が第2位、経営陣の IR 姿勢等が第3位(74%)、説明会等が第5位(74%)となった。なお、経営陣の IR 姿勢等の中の「(IR の基本スタンス) 会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られること」に関しては、得点率、順位共に昨年度に比べ大きく下がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「社外取締役との対話」が最も高い評価となった。これに関連して、社外取締役セッション(ESG 説明会)を評価する声があった。「経営陣の IR 姿勢」(第2位)および「IR 部門の機能」(同得点第3位)は、昨年度に比べ、得点率が改善した。これらに関連して、経営陣および IR 部門には積極的な情報開示や発信をする姿勢が見られるとの声が寄せられ、資本効率の改善に関して経営陣の IR 姿勢が前向きであるとの声もあった。なお、経営トップと投資家との対話の機会をさらに増やしてほしいとの声があった。IR 部門については、体制が整備されているとの声があった。「IR の基本スタンス」(第7位)は、昨年度に比べ、得点率が大幅に下がった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」(4項目計)が同得点第3位となった。また、「決算資料・統合報告書等における開示」も第3位となった。これらに関連して、説明会や資料の内容が充実しているとの声が寄せられたほか、MS Amlin の開示などに工夫が見られるとの声もあった。なお、開示基準の変更がある場合には、過去の四半期実績も開示してほしいとの声があった。「決算発表日」は第8位となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が第2位に、「リモートツールによる情報提供」が同得点第2位となった。なお、最近の不祥事発生の経緯に関する適時開示は投資家の要望に対して遅れた印象であり、さらなる詳細な説明が必要との声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「コーポレートガバナンス」および「E(環境)・S(人的資本を含む社会)に関する情報開示」(2項目)の中の E に関する項目が、共に最も高い評価となった。また、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示」が第2位となった。これらに関連して、政策株削減加速に伴い資本政策がクリアになったとの声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は最も高い評価となった(昨年度第2位)。充実していたイベントとして、ESG 説明会や MS Amlin 事業説明会を挙げる声が多く寄せられた。

第3位 第一生命ホールディングス (総合評価点 74.8 点 [昨年度比+1.1 点]、昨年度第4位)

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第2位(76%)、説明会等(76%)、フェア・ディスクロージャー(81%)が同得点第3位、ESG 関連が第4位(74%)、自主的情報開示が同得点第4位(63%)となった。昨年度に比べ、フェア・ディスクロージャーおよび自主的情報開示の得点率が大きく改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR の基本スタンス」が第2位に、「社外取締役との対話」が第3位となった。これらに関連して、新中期経営計画の説明会などが決算発表前に開催されたことを評価し、また、社外取締役のセッションが有用であったとの声が寄せられた。「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」は共に同得点第3位となった。これらに関連して、経営陣、IR 部門共に積極的な情報開示、発信の姿勢が見られるとの声があったほか、資本コストの概念を早くから分析・開示しており中期的に目指す姿が明確であるとの声もあった。なお、長期的展望を示していることを評価しつつ、それを裏付ける定量定性的な情報開示の充実を望む声があった。
- ③ 説明会等においては、「決算資料・統合報告書等における開示」が第2位となり「説明会、インタビューにおける開示」(4項目計)が同得点第3位となった。これらに関連して、説明会や資料の内容が充実しているとの

声のほか、エクセルによる子会社財務データの開示を評価する声があった。なお、新経済価値規制（J-ICS）準拠を理由に EV 開示が後退したとの声があった。「決算発表日」は同得点第 4 位であった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」が同得点第 2 位（昨年度第 8 位）となり、85%以上の得点率となった。「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第 3 位（昨年度同得点第 6 位）となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示」が同得点第 3 位となった。また、「コーポレートガバナンス」の得点率が、昨年度に比べ改善し、同得点第 4 位（昨年度第 8 位）となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は同得点第 4 位となった。充実していたイベントとして、経営説明会や新経済価値規制に向けた対応に関する説明会を挙げる声が多く寄せられた。

（注）金融業界では、ガバナンス不全に基づく不祥事が続出している。一部の評価対象企業が金融庁から業務改善命令を受け、真因究明を踏まえた抜本的な対応に取り組もうとしている。当専門部会は、本年度の評価が、このような状況を踏まえて評価項目を一部見直した上で採点された結果であると考えており、それを尊重し、優良企業を選定した。当専門部会としては、適切なタイミングでのディスクロージャー、コミュニケーションがとられ、企業価値向上に資することを望む。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (保険・証券・その他金融)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	3. フェア・ディスクローチャー	4. ESGに関連する情報の開示	5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	前回順位
			評価項目4 (配点26点)	評価項目6 (配点26点)	評価項目2 (配点7点)	評価項目4 (配点34点)	評価項目1 (配点7点)	
			評価点	評価点	評価点	評価点	評価点	
1	8766 東京海上ホールディングス	81.7	21.6	21.1	6.3	27.5	5.2	1
2	8725 MS&ADインシュアランスグループホールディングス	76.6	19.3	19.2	5.8	26.7	5.6	2
3	8750 第一生命ホールディングス	74.8	19.7	19.8	5.7	25.2	4.4	4
4	8795 T&Dホールディングス	73.2	18.8	19.1	5.6	25.0	4.7	5
5	8591 オリックス	72.8	18.9	20.6	5.7	24.8	2.8	7
6	8630 SOMPOホールディングス	71.2	17.8	18.4	5.6	25.5	3.9	3
7	8601 大和証券グループ本社	68.9	16.8	19.8	5.1	24.3	2.9	6
8	8604 野村ホールディングス	64.5	15.2	17.8	5.3	21.8	4.4	8
9	7181 かんぽ生命保険	58.6	15.3	15.6	4.7	19.9	3.1	9
	評価対象企業評価平均点	71.36	18.15	19.04	5.54	24.52	4.11	

(単位:点)

2024年度評価項目および配点（証券・保険・その他金融）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（26点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションをとる意欲を持っていますか。	10
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	5
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。IR部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていますか。	5
(4)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られますか。例えば、不祥事、パンデミック、気候変動、サイバー攻撃など。	6
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（26点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①部門別・地域別等、財務分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。	5
②事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）開示が十分になされていますか。	5
③主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	4
④決算説明会における会社側の説明（質疑応答含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていますか。	5
(2)決算資料・統合報告書等における開示	
・業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	5
(3)決算発表日	
・決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか。	2
3. フェア・ディスクロージャー（7点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものですか。短期、中長期での業績見通し上有益な情報（月次開示を含む）、ガイダンスをプレスリリース、ウェブサイト上などで広く開示していますか。	4
(2)リモートツールによる情報提供	
・ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を日英両言語で行っていますか。	3
4. ESGに関連する情報の開示（34点）	配点
(1)コーポレートガバナンス	
・実効性のあるコーポレートガバナンスを確保するための取組みを公表し、市場関係者の理解を得るよう努めていますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報、社外取締役の選定プロセス、腐敗防止への取組み。	12
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示	
・中長期経営計画、資本政策（ROE、資本コスト、キャピタルアロケーション等）、株主還元方針を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分説明されていますか。	12
(3)E（環境）・S（人的資本を含む社会）に関する情報開示	
①E（環境）に関する適切な目標設定、PDCAサイクルの実践、アップデートがなされていますか。	5
②S（人的資本を含む社会）に関する経営戦略にリンクした目標設定、PDCAサイクルの実践、アップデートがなされていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（7点）	配点
・決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG関連説明会等を積極的に実施していますか。[過去1年間を目安に評価] 【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	7

保険・証券・その他金融専門部会委員

部 会 長	村木 正雄	SMBC 日興証券
部会長代理	丹羽 孝一	シティグループ証券
	斎藤 佳奈	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント
	佐藤 耕喜	JP モルガン証券
	峯嶋 利隆	ニッセイ アセット マネジメント
	渡辺 和樹	大和証券

評価実施アナリスト（19名）

幾代 孝四郎	大和アセットマネジメント	戸田 浩司	りそなアセットマネジメント
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	長坂 美亜	モルガン・スタンレー MUFG 証券
今井 雅	アセットマネジメント One	丹羽 孝一	シティグループ証券
荻野 晃	丸三証券	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
斎藤 佳奈	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	摩嶋 竜生	東海東京インテリジェンス・ラボ
坂巻 成彦	みずほ証券	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
佐々木 太	野村証券	村木 正雄	SMBC 日興証券
佐藤 耕喜	JP モルガン証券	簀谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント
佐野 滉介	第一生命保険	渡辺 和樹	大和証券
勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

I Tサービス・ソフトウェア

1. 評価対象企業（11 社）

日鉄ソリューションズ、TIS、野村総合研究所、オービック、トレンドマイクロ、オービックビジネスコンサルタント、大塚商会、ネットワンシステムズ、BIPROGY、NTT データグループ、SCSK

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	15
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	5
計		10	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 22 名（所属先 20 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価分野のうち主に **ESG 関連**の項目の内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、**70.2 点**（昨年度 69.8 点）であった。なお、総合評価点の標準偏差は 14.1 点（昨年度 12.8 点）となった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 68%（昨年度 69%）、**説明会等**が 72%（昨年度 75%）、**フェア・ディスクロージャー**が 77%（昨年度 79%）、**ESG 関連**が 66%（昨年度 62%）、**自主的情報開示**が 75%（昨年度 74%）となった。
- ③ 評価項目について見ると、全 10 項目のうち平均得点率が 80%以上のものはなく、**6 項目**が 70%台となった。そのうち、最も高い平均得点率は、次の**フェア・ディスクロージャー**の項目であった。

- ・ 「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認ができますか 【終了後同日中にできる：15 点 後日できる：7 点 できない：0 点】（平均得点率 77%〔昨年度 79%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：0%2 社・40%台 1 社・100%8 社）

④ 一方、経営陣の IR 姿勢等の中の次の 1 項目は、昨年度に続き 50% 台となり、最も低い水準となった。下位評価の企業の経営陣には、IR 活動への積極的な取組みなどの改善努力を強く求めたい。

- ・ 「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか」(平均得点率 55% [昨年度同率]) (得点率: 10% 台 1 社・30% 台 2 社・40% 台 3 社・60% 台 1 社・70% 台 2 社・80% 台 2 社)

⑤ ESG 関連の 3 項目は、いずれも 60% 台にとどまった。なお、下位評価の企業の一部に改善が見られるが、さらなる改善努力を求めたい。

- (a) 「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE、資本コスト等）が、十分に説明されていますか」(平均得点率 64% [昨年度 62%]) (得点率: 20% 台 1 社・30% 台 1 社・40% 台 1 社・50% 台 2 社・70% 台 3 社・80% 台 1 社・90% 台 2 社)
- (b) 「資本政策（キャッシュポジション、金庫株等）、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていますか」(平均得点率 65% [昨年度 63%]) (得点率: 30% 台 2 社・50% 台 3 社・60% 台 1 社・70% 台 3 社・90% 台 2 社)
- (c) 「非財務情報（人的資本などの ESG 情報）を統合報告書、ESG 説明会などで開示し、経営の長期的課題に対する取組みと目標値（KPI）、およびその進捗状況を投資家にわかりやすく伝えていますか」(平均得点率 68% [昨年度 61%]) (得点率: 40% 台 1 社・50% 台 3 社・60% 台 2 社・70% 台 2 社・80% 台 3 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 野村総合研究所（ディスクロージャー優良企業 [8 回連続 16 回目]、

総合評価点 89.0 点 [昨年度比 +1.9 点]

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率〈以下省略〉88%）、ESG 関連（90%）が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（100%）、説明会等（82%）、自主的情報開示（82%）が同得点第 2 位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」（2 項目）の全ての項目が最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップが IR の重要性をよく理解し、IR 担当者との連携も優れているとの声のほか、海外事業に関する説明が詳細で、国内外の事業環境を確認する上で有益であるとの声が寄せられた。IR 部門については、非常に高いクオリティを有しているとの声や、経営トップも参加するスモールミーティングを定期的 to 開催し、その内容をウェブサイトで公開していることを評価する声があった。また、充実していたイベントとして、北米事業や産業 IT 事業などの事業説明会を挙げる声が多かった。
- ③ 説明会等においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」（第 2 位）および「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」（同得点第 2 位）は、トップと僅差であった。なお、地域別利益実績の定量的な開示を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、昨年度に続き満点評価となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「ESG に関する情報の開示」が最も高い評価となり、「資本政策、株主還元策の開示」も同得点第 1 位となった。「目標とする経営指標等」は第 2 位となり、トップと僅差であった。これらに関連して、開示内容は他社のお手本となるとの声が寄せられたほか、サステナビリティ説明会の開催や ESG データブックの内容を評価する声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」（同得点第 2 位）は、昨年度に比べ得点率が改善し、トップと僅差であった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 T I S （総合評価点 86.3 点〔昨年度比+3.3 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、説明会等が第1位（83%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（100%）、経営陣の IR 姿勢等（83%）、ESG 関連（86%）が第2位、自主的情報開示が同得点第2位（82%）となった。5分野全てにおいて得点率が改善した（連続満点評価を含む。）。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」が第2位（昨年度第4位）となった。これに関連して、ペイメント事業説明会の開催を評価する声が多かった。「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」（第3位）および「経営陣の IR 姿勢」（第4位）は、共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営トップが自ら説明することが多いとの声や、決算内容や中期経営計画の進捗状況などの説明が一貫しており、情報開示の継続性が高いとの声が寄せられた。なお、新たな成長戦略の説明を期待する声があった。IR 部門については、非常に高いクオリティを有しているとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」が最も高い評価となった。また、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」（同得点第2位）も、トップと僅差であった。これらの結果、この分野において第1位（昨年度同得点第1位）となった。なお、オフアリングサービスの事業環境や内訳について十分な開示を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、昨年度に続き満点評価となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「目標とする経営指標等」が最も高い評価となった。「資本政策、株主還元策の開示」も同得点第1位となり、90%以上の得点率であった。「ESG に関する情報の開示」は第3位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は同得点第2位となり、トップと僅差であった。

第3位 S C S K （総合評価点 81.6 点〔昨年度比+1.8 点〕、昨年度第3位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（100%）、説明会等（82%）、自主的情報開示（82%）が同得点第2位、ESG 関連が第3位（82%）、経営陣の IR 姿勢等が第5位（72%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」が第2位となり、「経営陣の IR 姿勢」が同得点第2位となった。これらに関連して、経営トップが説明会に出席し、自らの言葉で経営戦略等を説明しているとの声が寄せられた。「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」（第6位）は、昨年度に比べ得点率が大きく下がった。
- ③ 説明会等においては、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」が最も高い評価となった。「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」（第3位）は、昨年度に比べ得点率が改善した。なお、車載ソフトウェアの事業環境に関する開示や、注力領域の売上高などの重要 KPI の四半期毎の開示を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了

後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、昨年度に続き満点評価となった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「ESG に関する情報の開示」が第 2 位（昨年度第 4 位）となり、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。これに関連して、サステナビリティ説明会の開催を評価する声があった。また、「目標とする経営指標等」（第 3 位）および「資本政策、株主還元策の開示」（第 3 位）も、それぞれ昨年度に比べ得点率が改善した。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は同得点第 2 位となり、トップと僅差であった。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (ITサービス・ソフトウェア)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ローチャー	4. ESGに関連する 情報の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回順位			
			評価項目3 (配点 30点)	評価項目2 (配点 20点)	評価項目1 (配点 15点)	評価項目3 (配点 30点)	評価項目1 (配点 5点)				
	評価対象企業		評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位			
1	4307 野村総合研究所	89.0	26.5	1	16.4	2	15.0	1	4.1	2	1
2	3626 TIS	86.3	24.8	2	16.6	1	15.0	1	4.1	2	2
3	9719 SCSK	81.6	21.5	5	16.4	2	15.0	1	4.1	2	3
4	7518 ネットワンシステムズ	79.4	23.5	3	15.6	4	15.0	1	22.1	4	6
5	9613 NTTデータグループ	73.7	20.8	6	12.4	11	15.0	1	21.7	5	5
6	8056 BIPROGY	70.7	18.4	8	13.9	6	15.0	1	19.5	6	7
7	4704 トrendマイクロ	70.2	22.2	4	13.0	9	15.0	1	16.7	8	9
8	2327 日鉄ソリューションズ	64.7	16.7	10	13.6	7	15.0	1	15.9	9	8
9	4733 オービックビジネスコンサルティング	59.4	19.0	7	15.2	5	7.0	9	14.0	10	10
10	4768 大塚商会	52.9	17.7	9	13.3	8	0.0	10	18.2	7	11
11	4684 オービック	43.7	14.7	11	12.9	10	0.0	10	12.9	11	12
	評価対象企業評価平均点	70.15	20.53		14.48		11.55		19.85		3.74

2024年度評価項目および配点（ITサービス・ソフトウェア）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点	委員のみ
(1)経営陣のIR姿勢		
・決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10	
(2)IR部門の機能		
①IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	10	
②有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	10	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点	委員のみ
①売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていますか。セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか。	10	
②顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画は十分に記載されていますか。また変動要因について十分に説明されていますか。	10	
3. フェア・ディスクロージャー（15点）	配点	委員のみ
・四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認ができますか。 [終了後同日中にできる：15点 後日できる：7点 できない：0点]	15	●
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点	委員のみ
(1)目標とする経営指標等		
・中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE、資本コスト等）が、十分に説明されていますか。	7	
(2)資本政策、株主還元策の開示		
・資本政策(キャッシュポジション、金庫株等)、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていますか。	7	
(3)ESGに関する情報の開示		
・非財務情報（人的資本などのESG情報）を統合報告書、ESG説明会などで開示し、経営の長期的課題に対する取組みと目標値（KPI）、およびその進捗状況を投資家にわかりやすく伝えていますか。	16	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点	委員のみ
・事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていますか。	5	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

IT サービス・ソフトウェア専門部会委員

部 会 長	上野 真	大和証券
部会長代理	菊池 悟	SMBC 日興証券
	黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント
	桜井 雄太	野村アセットマネジメント
	田中 誓	ゴールドマン・サックス証券
	田中 秀明	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	堀 雄介	みずほ証券

評価実施アナリスト（22 名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	山藤 秀明	QUICK
新井 光樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	平 秀昭	三井住友トラスト・アセットマネジメント
岩渕 啓介	岡三証券	田中 誓	ゴールドマン・サックス証券
上野 真	大和証券	田中 秀明	モルガン・スタンレー MUFG 証券
大浦 裕太	第一生命保険	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	平岡 直樹	野村証券
河内 亮	丸三証券	堀 雄介	みずほ証券
菊池 悟	SMBC 日興証券	村上 秀樹	丸三証券
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
黒木 文明	ニッセイアセットマネジメント	山田 陽子	三菱 UFJ 信託銀行
桜井 雄太	野村アセットマネジメント	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

広告・メディア・エンタテインメント

1. 評価対象企業（19 社）

【広告・メディア】（9 社）

博報堂 DY ホールディングス、電通グループ、フジ・メディア・ホールディングス、リクルートホールディングス、TBS ホールディングス、日本テレビホールディングス、テレビ朝日ホールディングス、KADOKAWA、東宝

【エンタテインメント】（10 社）

コーエーテクモホールディングス、ネクソン、オリエントランド、セガサミーホールディングス、バンダイナムコホールディングス、任天堂、エイチ・アイ・エス、スクウェア・エニックス・ホールディングス、カプコン、コナミグループ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	8
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	1	12
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 36 名（所属先 27 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価分野のうち主に **ESG 関連**の項目内容・配点を見直しているため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 65.9 点（昨年度 62.9 点）、総合評価点の標準偏差は 8.9 点（昨年度 11.4 点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、広告・メディア（9 社）が 64.1 点（昨年度 60.6 点）、エンタテインメント（10 社）が 67.6 点（昨年度 65.2 点）となり、両業態共に上昇した。なお、個社で見ると、東宝（+13.1 点）および KADOKAWA（+10.4 点）の上昇が目立った。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢**

等が 68%（昨年度 65%）、説明会等が 68%（昨年度 67%）、フェア・ディスクロージャーが 74%（昨年度同率）、ESG 関連が 67%（昨年度 61%）、自主的情報開示が 50%（昨年度 46%）となった。自主的情報開示は、昨年度に比べ改善したものの、依然として低水準にとどまった。

- ④ 評価項目（全 11 項目）について見ると、平均得点率が 80%以上となった項目はなかった。一方、次の自主的情報開示の項目は、引き続き最も低い水準となった。下位評価企業には、改善努力を求めたい。

- ・ 「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか」（平均得点率 50%〔昨年度 46%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：30%台 6 社・40%台 7 社・50%台 1 社・70%台 3 社・80%台 1 社・90%台 1 社）

- ⑤ ESG 関連の 4 項目は、次のとおりとなり、いずれも 60%台であった。なお、本年度において、各項目の内容を大幅に見直したため、昨年度との比較は示していない。

- (a) 「統合報告書等を通じ、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。その中で、価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか」（平均得点率 69%）（得点率：50%台 4 社・60%台 5 社・70%台 7 社・80%台 3 社）
- (b) 「環境保全（E）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか」（平均得点率 69%）（得点率：50%台 2 社・60%台 8 社・70%台 6 社・80%台 3 社）
- (c) 「社会（S）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか（例えば、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関する事項の積極的な開示）」（平均得点率 69%）（得点率：50%台 4 社・60%台 7 社・70%台 6 社・80%台 1 社・90%台 1 社）
- (d) 「ガバナンス（G）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策等が説明されていますか。これらの課題に関して、投資家の理解が深まるように、積極的に対話を進めていますか」（平均得点率 60%）（得点率：40%台 3 社・50%台 7 社・60%台 4 社・70%台 4 社・80%台 1 社）

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 オリエンタルランド（ディスクロージャー優良企業〔5 回目〕、

総合評価点 80.5 点〔昨年度比+5.3 点〕、昨年度第 3 位〕

- ① 同社は、自主的情報開示が第 1 位（得点率〈以下省略〉90%）、説明会等が同得点第 1 位（80%）、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位（83%）、フェア・ディスクロージャーが第 3 位（83%）、ESG 関連が第 6 位（74%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」が第 2 位となった。「経営陣の IR 姿勢」も同得点第 2 位となった。これらに関連して、トップマネジメントによる説明会や個別ミーティングの開催など、経営陣が投資家と積極的に意見交換を行う姿勢があるとの声が寄せられた。また、投資家・アナリスト向けイベントの開催頻度が高く、理解が深まるとの声もあった。IR 部門については、必要な情報が集約され、フェアな開示もなされているとの声のほか、定性・定量の両面において十分なディスカッションができるとの声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が最も高い評価（昨年度第 6 位）となった。これに関連して、IR 各担当者の説明力が高いとの声や、説明会は十分な時間を確保し開催しているとの声が寄せられた。また、「説明資料等（短信およびその附属資料を含む）における開示」も第 4 位（昨年度同得点第 10 位）となった。これに関連して、決算説明資料では詳細数字や予想前提等の開示が充実しているとの声のほか、新エリア開業による収益インパクトの説明を評価する声があった。なお、四半期毎の入園者数などのデータ開示を求める声や、親会社との関係について中長期的な見通しの説明を望む声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 1 位とな

った。これに関連して、説明会の音声配信や質疑応答の開示を評価する声や、IR 担当者間で情報開示のラインが共有されており、公平さを意識した対応となっているとの声があった。「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第 4 位となった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「社会（S）に関する項目」が同得点第 3 位となった。「環境保全（E）に関する項目」は第 4 位に、「統合報告書等に関する項目」は同得点第 5 位となった。これらに関連して、統合報告書がわかりやすいとの声や、ESG 取組みの軸を「従業員」に向けたことを評価する声があった。なお、社会関連はマテリアリティが抽象的であり開示も不十分との声があった。「ガバナンス（G）に関する項目」は同得点第 7 位となった。これに関連して、社外取締役の独立性の対応方針について十分な開示を求める声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は最も高い評価となった。充実していたイベントとして、ファンタジースプリングス見学会を挙げる声が多く寄せられ、施設見学会や説明会の開催によりエリア開発の状況がアップデートできるとの声も寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 セガサミーホールディングス（総合評価点 77.7 点〔昨年度比+1.2 点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 1 位（85%）、説明会等（80%）、フェア・ディスクロージャー（84%）が同得点第 1 位、ESG 関連が第 2 位（79%）、自主的情報開示が同得点第 7 位（49%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能、基本スタンス」が共に最も高い評価となり、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、経営トップは市場との対話に積極的に取り組んでおり、投資家やアナリストの意見を経営に反映させようという姿勢があるとの声が寄せられた。また、マネジメントミーティングの開催を評価する声もあった。IR 部門については、専門性が高く、ディスカッションで得られる情報の信頼度が高いとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が同得点第 1 位となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」も第 2 位となった。これらに関連して、ゲームソフトの新作・旧作の売上高を含めゲーム関係の開示が豊富で、状況把握がしやすいとの声が寄せられ、また、資本政策の説明を評価する声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 1 位となり、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」も第 3 位となった。これらに関連して、説明会の動画配信、質疑応答の開示、個人投資家向けサイトを評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「ガバナンス（G）に関する項目」が第 2 位となり、「統合報告書等に関する項目」および「環境保全（E）に関する項目」は共に同得点第 2 位となった。これらに関連して、統合報告書の内容が充実しており、ESG 情報の開示に意欲的に取り組んでいるなどの声が寄せられた。また、「社会（S）に関する項目」も評価され、同得点第 3 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は同得点第 7 位となり、平均得点率と同程度であった。充実していたイベントとして、遊技機工場見学会などを挙げる声があった。

第 3 位 KADOKAWA（ディスクロージャーの改善が著しい企業、

総合評価点 76.4 点〔昨年度比+10.4 点、一昨年度比+9.2 点〕、〔昨年度第 10 位、一昨年度第 9 位〕）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点 1 位（84%）、説明会等（79%）、自主的情報開示（73%）が第 3 位、経営陣の IR 姿勢等が第 4 位（80%）、ESG 関連が第 7 位（71%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善し、その結果、総合順位で 7 ランクアップとなった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が同得点第 2 位（昨年度第 9 位）となり、昨年度に比べ、得点率が大きく改善した。これに関連して、経営トップによる情報発信の機会が増えており、投資家との対話にも積極的に取り組んでいる、また、投資家の意見を聞こうとする姿勢があるとの声が寄せられた。そのほか、経営トップによるスモールミーティング、COO との面談の実施等を評価する声があった。「IR 部門の機

能、基本スタンス」は第7位となった。IR部門については、情報集約や説明力は十分であり、マネジメントとの距離も近いとの声があった。

- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が共に第3位となり、この分野において第3位（昨年度第10位）となった。これらに関連して、説明会資料の内容は質・量共に年々改善しているとの声のほか、セグメントの細かな内訳の開示も増え、分析がしやすいとの声が寄せられた。また、フォローアップミーティングの開催を評価する声もあった。なお、IP別の開示が充実に向かっているとしつつ、アニメやゲーム、IP力の説明力を上げることを望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第1位となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第4位）が、85%以上の得点率となり、この分野において同得点第1位（昨年度第12位）となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「ガバナンス（G）に関する項目」が第6位となり、「社会（S）に関する項目」が第7位となった。「統合報告書等に関する項目」および「環境保全（E）に関する項目」は共に同得点第8位となった。これらに関連して、統合報告書を通じて ESG 情報の開示を推し進めている点を評価し、中期的なキャピタルアロケーションの方針説明を充実させるとより良くなるとの声があった。なお、システム障害の影響に関する迅速かつ継続的な情報開示を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第3位となり、昨年度に比べ、得点率が大きく改善した。評価できるイベントとして、教育事業説明会を挙げる声が多く、また、ところざわサクラタウンの施設見学会を評価する声もあった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以 上

2024年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (広告・メディア・エンタテインメント)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価項目2 (配点 30点)	評価点	順位	評価項目2 (配点 20点)	評価点	順位	評価項目1 (配点 12点)	順位	
1	4661 オリエンタルランド	80.5	25.0	2	16.0	1	6.6	3	22.1	6	10.8	1	3
2	6460 セガサミーホールディングス	77.7	25.4	1	16.0	1	6.7	1	23.7	2	5.9	7	2
3	9468 KADOKAWA	76.4	24.0	4	15.7	3	6.7	1	21.3	7	8.7	3	10
4	6098 リクルートホールディングス	76.0	20.9	10	14.0	8	5.6	13	25.8	1	9.7	2	1
5	9697 カブコン	74.6	24.6	3	15.6	4	6.5	4	22.7	4	5.2	9	5
6	7832 バンダイナムコホールディングス	73.8	21.7	8	14.1	5	6.2	8	23.2	3	8.6	4	6
7	4324 電通グループ	69.7	22.0	5	14.1	5	5.9	10	22.6	5	5.1	10	8
8	9401 TBSホールディングス	69.3	21.9	7	13.3	12	5.4	14	20.3	8	8.4	5	7
9	7974 任天堂	68.1	22.0	5	14.1	5	6.5	4	19.6	10	5.9	7	11
10	3635 コーエーテックモホールディングス	63.4	20.3	12	12.4	15	6.0	9	20.1	9	4.6	14	9
11	3659 ネクソン	63.3	21.7	8	14.0	8	6.3	7	16.5	17	4.8	12	13
12	9602 東宝	61.8	18.5	14	13.7	10	6.5	4	19.3	12	3.8	16	19
13	9766 コナミグループ	61.5	20.5	11	12.9	14	5.8	11	17.3	15	5.0	11	12
14	2433 博報堂DYホールディングス	61.1	18.6	13	13.5	11	5.2	17	19.5	11	4.3	15	4
15	9603 エイチ・アイ・エス	58.3	16.0	18	13.2	13	5.8	11	17.3	15	6.0	6	16
16	9404 日本テレビホールディングス	55.7	16.3	16	11.5	17	5.3	15	17.8	14	4.8	12	14
17	4676 フジ・メディア・ホールディングス	55.2	16.2	17	12.3	16	5.2	17	17.9	13	3.6	19	15
18	9684 スクウェア・エニックス・ホールディングス	54.4	18.3	15	10.8	19	5.3	15	16.2	18	3.8	16	18
19	9409 テレビ朝日ホールディングス	51.8	15.1	19	11.5	17	5.2	17	16.2	18	3.8	16	17
	評価対象企業評価平均点	65.91	20.47		13.61		5.93		19.96		5.94		

2024年度評価項目および配点（広告・メディア・エンタテインメント）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。例えば、IR対応組織を整備したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・説明資料等（決算説明資料を含む）で、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目（各事業のKPI等）の実績および見通しは、ウェブ等を活用し、十分かつ継続性を持って開示されていますか。また、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な情報（経営環境、事業戦略、資本政策等）が、分かりやすくかつ十分に記載されていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（8点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	4
(2)タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項（例えば、月次売上高および重要指標の月次動向、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、自然災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	4
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
①統合報告書等を通じ、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。その中で、価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか。	10
②環境保全（E）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか。	6
③社会（S）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか（例えば、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関する事項の積極的な開示）。	6
④ガバナンス（G）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策等が説明されていますか。 これらの課題に関して、投資家の理解が深まるように、積極的に対話を進めていますか。	8
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください（新たな追加項目で企業も関心が高い項目なので、積極的にコメントしてください）】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（12点）	配点
・会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか。 【過去1年間を目安に評価】 【充実していたサービスないし施設・設備・事業名をコメント欄に記入して下さい】	12

広告・メディア・エンタテインメント専門部会委員

部 会 長	前田 栄二	SMBC 日興証券
部会長代理	城戸 謙治	アセットマネジメント One
	大場 剛平	野村アセットマネジメント
	岸本 晃知	みずほ証券
	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	山村 淳子	シティグループ証券

評価実施アナリスト（36名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	関根 哲	大和証券
安部 将行	大和証券	永田 和子	QUICK
石橋 剛	三井住友 DS アセットマネジメント	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	久田 有貴	三井住友トラスト・アセットマネジメント
大場 剛平	野村アセットマネジメント	福井 悠香	第一生命保険
尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券	福田 聡一郎	東海東京インテリジェンス・ラボ
小野 まな実	三菱 UFJ 信託銀行	宝水 裕圭里	SBI 証券
巖 智用	野村証券	前田 栄二	SMBC 日興証券
河内 亮	丸三証券	三木 成人	野村証券
岸本 晃知	みずほ証券	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
城戸 謙治	アセットマネジメント One	村上 秀樹	丸三証券
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	森田 正司	岡三証券
高 英詞	野村アセットマネジメント	安田 秀樹	東洋証券
阪口 和輝	大和証券	山科 拓	マツコリー・キャピタル証券会社
佐藤 啓吾	ニッセイアセットマネジメント	山村 淳子	シティグループ証券
鮫島 誠一郎	いちよし経済研究所	余吾 智	大和アセットマネジメント
山藤 秀明	QUICK	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

新興市場銘柄

1. 評価対象企業（30 社）

ベースフード（新規）、サンクゼール（新規）、ティーケーピー、GMOフィナンシャルゲート、ENECHANGE、スパイダープラス、エクサウィザーズ、コアコンセプト・テクノロジー、グローバルセキュリティエキスパート（新規）、スマレジ、カオナビ、HENNGE（再評価）、BASE、フリー、JTOWER、eWELL（新規）、オープンワーク（新規）、カバー（新規）、Arent（新規）、弁護士ドットコム、アドベンチャー（新規）、オキサイド、Macbee Planet（注）、ウェルスナビ、アイドマ・ホールディングス、BuySell Technologies（再評価）、スカイマーク（新規）、パリュエンスホールディングス（再評価）、INFORICH（新規）、INTLOOP（新規）

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）グロースからプライムへ市場変更した（2024 年 7 月）。

2. 対象企業の選定方法および評価方法

（1）対象企業の選定方法

本年度における新興市場銘柄の評価対象企業は、グロース、ネクスト、Q-Board およびアンビシャスの 4 つの市場に上場している企業（注 1）の中で、時価総額が上位（注 2）であって、かつ、その企業を調査対象としているアナリストの数（注 3）が一定数以上の 30 社（昨年度同数）とした。なお、30 社のうち、継続評価企業が 16 社、新規評価企業が 11 社、再評価企業（2 年以上前に評価対象としたことがある企業）が 3 社となっている。

（注 1） 本年 3 月末時点で、上場後 1 年未満の企業は除外した。

（注 2） 昨年 11 月末時点の時価総額を基準とした。

（注 3） 本年 1 月に当協会が証券会社等に対して、新興市場銘柄をカバーするアナリスト数を照会して得られた数。

（2） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	15
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	5
計		13	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（3） 評価実施アナリストは 40 名（所属先 23 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 本年度は、新規評価（11 社）および再評価（3 社）の企業もあるため、昨年度と同列には比較できないが、本

- 年度の総合評価平均点は 64.4 点（昨年度 68.8 点）、総合評価点の標準偏差は 8.2 点（昨年度 5.9 点）であった。
- ② 総合評価点については、70 点台が 6 社（昨年度 14 社）、60 点台が 17 社（昨年度 14 社）、50 点台が 5 社（昨年度 2 社）、40 点台が 2 社（昨年度なし）となり、昨年度に続き 80 点台以上はなかった。
- ③ 5 つの評価分野の平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 69%（昨年度 74%）、**説明会等**が 65%（昨年度 69%）、**フェア・ディスクロージャー**が 64%（昨年度 73%）、**ESG 関連**が 58%（昨年度 59%）、**自主的情報開示**が 57%（昨年度同率）となった。
- ④ 全 13 項目の平均得点率を見ると、最高で 74%（1 項目）、最低で 56%となった。最低となった項目（ESG 関連の中の 1 項目）は次のとおりであった。

- ・ 「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか」（平均得点率 56%）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：30%台 2 社・40%台 3 社・50%台 13 社・60%台 10 社・70%台 2 社）

- ⑤ **ESG 関連**の 3 項目の平均得点率を見ると、2 項目（上記④および（a））が 50%台、（b）が 60%台前半となり、いずれの項目も低水準であった。

- （a）「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか」（平均得点率 59%）（得点率：30%台 2 社・40%台 4 社・50%台 8 社・60%台 12 社・70%台 4 社）
- （b）「非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいますか」（平均得点率 62%）（得点率：40%台 4 社・50%台 6 社・60%台 12 社・70%台 7 社・80%台 1 社）

（2）優良企業（上位 3 企業）の評価概要

第 1 位 スパイダープラス（ディスクロージャー優良企業（2 回連続 2 回目）、

総合評価点 76.4 点〔昨年度比－3.1 点〕〕

- ① 同社（事業内容：建設業者向け建築図面・現場管理アプリ「SPIDERPLUS」の開発・販売。市場：グロース（2021 年 3 月マザーズ上場）、継続評価企業）は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉83%）、**ESG 関連**（71%）が第 1 位、**説明会等**が第 2 位（77%）、**自主的情報開示**が同得点第 3 位（66%）、**フェア・ディスクロージャー**が第 7 位（71%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が、IR 活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していること」が最も高い評価となった。これに関連して、CEO もしくは CFO が四半期説明会に必ず登壇し、経営・事業戦略を説明している点を評価する声があった。また、「IR 部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していること」および「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」は、同得点第 1 位となった。これらに関連して、開示資料の充実などを常に図っている点を評価する声が寄せられた。これらの結果、この分野において第 1 位となった。
- ③ **説明会等**においては、「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること、また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」および「収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていること」が共に第 2 位となった。これらに関連して、潜在的な市場規模を明示しているとの声があった。「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」は第 4 位となった。これらの結果、この分野において第 2 位となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていること。また、英文による情報提供を行っていること」は、80%以上の得点率となった。これに関連して、開示の内容がフェア・ディスクロージャーに配慮して、説明会の動画や書き起こし、セル・サイドとの取材内容を開示している点を評価する声があった。「投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」は、同得点第 10 位となり、この分野において第 7 位となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とす

る経営指標等について十分に説明していること」が同得点第1位となった。また、「非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいること」は第2位となった。「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明していること」は第5位となった。これらの結果、この分野において第1位となった。

- ⑥ **自主的情報開示**の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は、同得点第3位となった。

第2位 スマレジ（ディスクロージャー優良企業〔2回目〕、

総合評価点 76.1 点〔昨年度比+0.4 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社（事業内容：販売データの収集と活用を行う「販売データプラットフォーム運営事業」を展開。市場：グロース（2019年2月マザーズ上場）、継続評価企業）は、**説明会等**（82%）、**フェア・ディスクロージャー**（81%）が第1位、**経営陣のIR姿勢等**が同得点第3位（77%）、**ESG 関連**が第5位（67%）、**自主的情報開示**が同得点第10位（60%）となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していること」が同得点第1位となった。これに関連して、IRへの質問に対しては必要に応じて経営陣へ確認するなど丁寧な対応で、経営陣とIRの距離が近いことを評価する声が寄せられた。また、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」は、同得点第2位となった。これに関連して、計画未達な項目もしっかりと開示している点の評価する声があった。「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」は同得点第3位となった。これに関連して、投資家に対してフェア・ディスクロージャーに関する考え方をメールで共有するなど意識は相対的に高いとの声が寄せられた。これらの結果、この分野において第3位となった。
- ③ **説明会等**においては、3項目全てが第1位となり、この分野におけるトップとなった。これら関連して、市場規模やシェアを基に長期見通しを出しており、中長期での目標について具体的な数値で開示している点や説明資料が四半期ごとにアップデートされていて、データも充実している点（**声**）があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が最も高い評価となった。これに関連して、フェア・ディスクロージャーに対する意識は高い印象との声が寄せられた。「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていること。また、英文による情報提供を行っていること」は、第2位となった。これに関連して、月次の配信や説明会の動画配信などが充実しているとの声があった。これらの結果、この分野において第1位となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいること」が同得点第3位となった。また、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」は同得点第5位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は同得点第10位となった。

第3位 GMO フィナンシャルゲート（ディスクロージャー優良企業（2回連続2回目）、

総合評価点 72.7 点〔昨年度比-4.6 点〕 昨年度第2位）

- ① 同社（事業内容：店舗のキャッシュレス決済端末の提供や決済処理サービスを展開。市場：グロース（2020年7月マザーズ上場）、継続評価企業）は、**経営陣のIR姿勢等**が第2位（78%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第2位（73%）、**説明会等**が第4位（74%）、**ESG 関連**が第6位（66%）、**自主的情報開示**が同得点第18位（56%）となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していること」が第2位となった。これに関連して、決済の差別化戦略についてきちん

と説明がなされていることを評価する声が寄せられた。また、「IR 部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していること」は同得点第 4 位となった。これに関連して、経営陣が何を考えているかなども適宜共有ができるとの声があった。一方、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」は、同得点第 20 位にとどまった。

- ③ **説明会等**においては、「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」が第 3 位となった。これに関連して、少しずつ説明の解像度が上がっているとの声がある一方で、長期の成長戦略の話がほしいとの声もあった。また、「収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていること」は同得点第 9 位となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていること。また、英文による情報提供を行っていること」が最も高い評価となった。これに関連して、データシートと質疑応答の開示ができているとの声が寄せられた。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいること」が、最も高い評価となった。これに関連して、ESG に関する取組みが進んでいることが伝わるとの声があった。「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」は同得点第 7 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」（同得点第 18 位）は、平均得点率と同程度であった。

上記の**スパイダープラス**、**スマレジ**、**GMO フィナンシャルゲート**の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら 3 社を本年度の新興市場銘柄における優良企業として選定した。

以 上

2024年度 ディスクロージャ―評価比較総括表（新興市場銘柄）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のI R姿勢、 I R部門の機能、I R の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. E S Gに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目4 (配点 35点)		評価項目3 (配点 25点)		評価項目2 (配点 15点)		評価項目3 (配点 20点)		評価項目1 (配点 5点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4192 スパイダーブラス	76.4	29.0	1	19.3	2	10.6	7	14.2	1	3.3	3	1
2	4431 スマレジ	76.1	27.1	3	20.6	1	12.1	1	13.3	5	3.0	10	4
3	4051 GMOフィナンシャルグループ	72.7	27.2	2	18.5	4	11.0	2	13.2	6	2.8	18	2
4	9338 INFORICH	70.9	27.1	3	18.0	8	10.0	16	12.8	9	3.0	10	
5	4477 BASE	70.8	25.1	14	18.0	8	10.7	6	14.0	2	3.0	10	19
6	4475 HENNGE	70.0	26.2	7	18.8	3	10.2	13	12.8	9	2.0	29	
7	5038 eWeLL	69.7	26.6	5	18.3	5	10.0	16	11.9	16	2.9	15	
8	7095 Macbee Planet	69.4	25.7	10	16.6	17	10.2	13	13.9	3	3.0	10	3
9	4259 エクサウィザーズ	69.2	25.7	10	16.5	18	10.3	12	13.4	4	3.3	3	27
9	6027 弁護士ドットコム	69.2	25.0	15	18.1	7	10.4	9	12.8	9	2.9	15	16
11	3479 ティーケービー	68.6	26.0	8	17.3	10	11.0	2	11.4	19	2.9	15	5
12	6521 オキサイド	68.5	25.9	9	17.1	11	10.5	8	11.5	18	3.5	1	13
13	4435 カオナビ	68.4	25.3	13	18.2	6	10.4	9	12.2	14	2.3	26	15
14	7685 BuySell Technologies	68.2	26.4	6	17.1	11	10.8	5	11.1	20	2.8	18	
15	4485 JTOWER	67.9	25.0	15	17.0	13	9.7	19	13.1	7	3.1	9	6
16	5254 Arent	67.3	24.7	18	16.4	19	10.0	16	12.8	9	3.4	2	
17	5253 カバー	66.8	25.6	12	17.0	13	11.0	2	10.7	21	2.5	22	
18	4417 グローバルセキュリティエクスパート	66.0	24.2	19	17.0	13	9.6	20	12.0	15	3.2	6	
19	9204 スカイマーク	64.5	22.6	24	15.9	20	10.4	9	12.3	13	3.3	3	
20	4478 フリー	63.1	20.7	26	16.8	16	10.1	15	13.0	8	2.5	22	20
21	7373 アイドマ・ホールディングス	62.4	24.8	17	15.6	21	9.2	21	10.6	22	2.2	27	24
22	7342 ウェルスナビ	60.4	23.2	21	14.6	24	8.6	24	11.8	17	2.2	27	21
23	9270 バリュエンスホールディングス	60.1	22.8	23	15.2	22	8.4	25	10.5	23	3.2	6	
24	4371 コアコンセプト・テクノロジー	59.1	22.9	22	15.2	22	8.8	23	9.8	26	2.4	25	23
25	2936 ベースフード	58.2	23.4	20	14.4	25	8.2	26	9.6	27	2.6	21	
26	5139 オープンワーク	54.2	21.5	25	14.0	26	7.7	27	8.0	29	3.0	10	
27	2937 サンクゼール	52.4	18.8	28	11.2	29	9.0	22	10.2	24	3.2	6	
27	9556 INTLOOP	52.4	20.1	27	12.7	27	7.1	28	10.0	25	2.5	22	
29	6030 アドベンチャー	46.0	17.4	29	11.3	28	7.0	30	8.3	28	2.0	29	
30	4169 ENECHANGE	43.6	16.3	30	10.1	30	7.1	28	7.3	30	2.8	18	10
	評価対象企業評価平均点	64.42	24.07		16.23		9.67		11.62		2.83		

2024年度評価項目および配点（新興市場銘柄）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していますか。[1点～15点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)IR部門の機能	
・IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していますか。[1点～10点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(3)IRの基本スタンス	
①フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。[1点～5点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
②会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていますか。[1点～5点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（25点）	配点
(1)決算説明会、インタビューにおける開示	
①今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。また、四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていますか。[1点～10点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていますか。[1点～10点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・収益および財務分析に必要なデータは十分に記載されていますか。 [1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
3. フェア・ディスクロージャー（15点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示は迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。[1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていますか。また、英文による情報提供を行っていますか。[1点～5点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
4. ESGに関連する情報の開示（20点）	配点
(1)資本政策、株主還元策等の開示	
・資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか。[1点～8点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(2)経営機構、経営資源および内部統制について	
・経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか。[1点～7点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	7
(3)ESGに関する情報の開示	
・非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいますか[1点～5点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・ウェブサイトでの開示や決算説明会以外での開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいますか。（前年7月から本年6月までの間）[1点～5点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5

新興市場銘柄専門部会委員

部 会 長	古 島 次郎	大和証券
部会長代理	渡辺 真理子	UBS 証券
	新谷 嘉史	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	新井 勝己	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	岩本 誠一郎	アセットマネジメント One
	高 祥太郎	日興アセットマネジメント
	中川 雅嗣	三菱 UFJ アセットマネジメント
	納 博司	いちよし経済研究所
	東田 暁	野村アセットマネジメント

評価実施アナリスト（40名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	関根 哲	大和証券
新谷 嘉史	三井住友トラスト・アセットマネジメント	高 祥太郎	日興アセットマネジメント
姉川 俊幸	モルガン・スタンレー MUFG 証券	得永 一樹	大和証券
新井 勝己	モルガン・スタンレー MUFG 証券	富田 展昭	極東証券経済研究所
飯塚 恭平	第一生命保険	中川 義裕	みずほ証券
五十嵐 竣	大和証券	中川 雅嗣	三菱 UFJ アセットマネジメント
岩本 誠一郎	アセットマネジメント One	永田 昌寿	いちよし経済研究所
大浦 裕太	第一生命保険	納 博司	いちよし経済研究所
大牧 実慶	立花証券	原田 大輔	QUICK
奥村 裕介	岡三証券	東田 暁	野村アセットマネジメント
小澤 公樹	SBI 証券	久田 有貴	三井住友トラスト・アセットマネジメント
小山 和輝	みずほ証券	福井 悠香	第一生命保険
河内 亮	丸三証券	藤根 靖晃	ティー・アイ・タウリュ
古島 次郎	大和証券	宝水 裕圭里	SBI 証券
古西 正幸	第一生命保険	松浦 勇佑	丸三証券
阪口 和輝	大和証券	三浦 勇介	大和証券
佐藤 耕喜	JP モルガン証券	柳本 和紀	三菱 UFJ 信託銀行
佐藤 啓吾	ニッセイアセットマネジメント	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
鮫島 誠一郎	いちよし経済研究所	山本 真以人	ニッセイアセットマネジメント
清水 康之	QUICK	渡辺 真理子	UBS 証券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

個人投資家向け情報提供

1. 評価対象企業（31 社）

積水ハウス、アスクル、味の素、J．フロント リテリング、三越伊勢丹ホールディングス、旭化成、T I S、日産化学、三井化学、スパイダープラス、野村総合研究所、中外製薬、第一三共、オリエンタルランド、富士フイルムホールディングス、出光興産、日本製鉄、U A C J、小松製作所、荏原製作所、セガサミーホールディングス、コンコルディア・フィナンシャルグループ、本田技研工業、三井物産、日本瓦斯、三井住友フィナンシャルグループ、東京海上ホールディングス、三井不動産、川崎汽船、九州旅客鉄道、ソフトバンク

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

(1) 評価対象企業の選定

優良企業選定の評価対象企業は、本年度のディスクロージャー優良企業選定対象である各業種（18 業種）および新興市場銘柄についての評価結果において、各業種等の上位 1 割（評価対象企業の数 を 10 で割った数（小数点第 1 位を切上げ））のうち、2023 年 7 月から 2024 年 6 月までの間において、個人投資家向け会社説明会を開催した 31 社とした。

(2) 評価分野の構成

評価分野	本文中の略称	評価 項目(注 1)数	配点
①個人投資家向け会社説明会の開催等	個人投資家向け会社説明会	5	19
②ウェブサイトにおける開示等	ウェブサイト	9	61
③事業報告書等（注 2）の内容	事業報告書等	3	20
		17	100

（注 1）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（注 2）直近事業年度について、個人投資家が容易に取得可能な、事業・業績の概況について、わかりやすい解説を行っている IR 関連資料（事業報告書、株主通信、アニュアルレポート、統合報告書等）の中で、会社側から提示されたいずれか 1 種類。

(3) 評価方法

評価項目（17 項目）のうち、個人投資家向け会社説明会の開催の有無等 6 項目についての評価は、各評価対象企業にアンケート調査を実施し、その回答結果を基に評点を付した。残りの 11 項目の評価は、ディスクロージャー研究会「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員（14 名）が行い、最終評価は両者の評点を合算して行った。

3. 評価結果

(1) 総括（「個人投資家向け情報提供における評価比較総括表」は後掲）

本年度の評価対象企業は、上記 2. (1) のとおりに選定しており、昨年度から相当程度入れ替わっている。また、本年度において、項目内容・配点の一部を見直している。このため、昨年度（評価対象企業 28 社）と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 80.3 点（昨年度 78.2 点）となった。その内訳は、評価点 80 点台が

21 社（昨年度 15 社）、70 点台が 8 社（昨年度 9 社）、70 点未満 2 社（昨年度 4 社）となった。

3 つの評価分野の平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**個人投資家向け会社説明会**が 79%（昨年度 76%）、**ウェブサイト**が 80%（昨年度 79%）、**事業報告書等**が 81%（昨年度 79%）となり、全ての評価分野で昨年度を上回った。

(2) 評価対象企業に対するアンケート結果を基にした評価

- ① 評価対象企業へのアンケート結果を基に評価した 6 項目について見ると、**個人投資家向け会社説明会**に関しては、昨年 7 月から本年 6 月までの 1 年間の平均開催回数は、3.3 回（昨年度 3.0 回）であり、経営トップが説明を行っている企業は、対象企業 31 社中 13 社（42%）で、その割合は昨年度（46%）を下回った。
- ② 個人投資家向け会社説明会の内容をウェブサイトに掲載している企業は 30 社（97%）で、その割合は昨年度（89%）を上回った。30 社のうち、配布資料に加え動画または音声配信により視聴できる企業は 29 社（97%）で、その割合は昨年度（92%）を上回った。
- ③ 資本コストを意識した経営の実現に向けた対応を開示している企業は 31 社（100%）であった（今年度からのアンケート項目）。
- ④ 「各種説明会（個人投資家向け説明会を除く）の内容は、ウェブサイトに掲載されて誰でも動画で視聴できること」については、視聴できる企業が 28 社（90%）で、その割合は昨年度（86%）を上回った。

(3) 専門部会委員による評価

専門部会委員は、ウェブサイト等における開示内容が一般投資家に理解できるように具体的にわかりやすく説明、記載されているか、また、利用しやすいように工夫がされているかといった観点から、11 項目について評価を実施した。

【個人投資家向け会社説明会】

- (a) 「ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していますか」（平均得点率 76%〔昨年度 75%〕）（参考）個人投資家向け会社説明会の内容がウェブサイトに掲載されている企業（30 社）のみの平均得点率 78%〔昨年度 81%〕

【ウェブサイト】

- (b) 「IR に関するウェブサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して利用しやすく、かつわかりやすく工夫されていますか」（平均得点率 85%〔昨年度 83%〕）
- (c) 「個人投資家向けサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して、充実した内容であり、かつ、わかりやすく工夫されていますか。また、IR 情報のメール配信サービスなどの付加サービス機能を提供していますか」（平均得点率 79%〔昨年度 78%〕）
- (d) 「事業内容（主力商品、主力サービス等）が具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか」（平均得点率 82%〔昨年度 81%〕）
- (e) 「ウェブサイトに掲載されている各種説明会資料（個人投資家向け会社説明会資料およびその他掲載資料を含む）について」
 - A 「業績の動きが、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか」（平均得点率 80%〔昨年度 78%〕）
 - B 「経営目標・経営戦略が、会社の強み（業界シェアや他社との差別化等を含む）や課題等を踏まえて、具体的にかつ、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか」（平均得点率 81%〔昨年度 80%〕）
 - C 「ESG（人的資本、人権を含む）について、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。」（平均得点率 78%〔昨年度同率〕）

- (f) 「ウェブサイトに掲載のよくある質問と回答 (FAQ) は、会社の事業内容や業績を理解するうえで、有益な質問項目が設定されている等、全体的に充実し、わかりやすいですか」(平均得点率 67%〔昨年度 66%〕)

【事業報告書等】

- (g) 「全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ、理解しやすいように十分な工夫がなされて作成されていますか」(平均得点率 84%〔昨年度 81%〕)
- (h) 「経営方針、中・長期経営ビジョンが、ESG に関する情報も含めて、わかりやすく、かつ簡潔に説明されていますか。」(平均得点率 81%〔昨年度 78%〕)
- (i) 「業績の動きがわかりやすく(読み手が理解しやすいように)説明されていますか」(平均得点率 80%〔昨年度 77%〕)

(4) 上位3企業の評価概要

第1位 味の素 (ディスクロージャー優良企業〔4回連続4回目〕、総合評価点 88.8 点〔昨年度比+4.5 点〕)

- ① 同社は、3分野全てにおいて第1位となった。具体的には、**個人投資家向け会社説明会**(得点率(以下省略)96%)、**ウェブサイト**(87%)、**事業報告書等**(ASV レポート(統合報告書))(89%)となった。
- ② **個人投資家向け会社説明会**においては、評価対象企業に対するアンケート項目(全4項目)全てが満点評価となった。また、「ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく(一般投資家に理解できるように)、かつ充実していること」が、トップと僅差の同得点第2位となり、この分野で第1位となった。これに関連して、戦略が明快に書かれており納得感があるとの声が寄せられたほか、情報量が適切であり、また、情報を整理してわかりやすく伝える工夫が見て取れたとの声もあった。
- ③ **ウェブサイト**においては、「IR に関するウェブサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して利用しやすく、かつ、わかりやすく工夫されていること」、および「経営目標・経営戦略が、会社の強み(業界シェアや他社との差別化等を含む)や課題等を踏まえて、具体的に、かつ、わかりやすく(一般投資家に理解できるように)説明されていること」が同得点第1位となった。これらに関連して、項目が充実しており、全体像は「3分早わかり味の素グループ」で簡潔に説明との声があった。また、ASV(成長戦略)のロードマップが経済指標(ROE等)から社会価値指標(環境負荷軽減)まで非常に具体的との声が寄せられた。
- ④ **事業報告書等**においては、「全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ理解しやすいように十分な工夫がなされて作成されていること」、および「経営方針、中・長期経営ビジョンが、ESG に関する情報も含めて、わかりやすく、かつ簡潔に説明されていること」が、同得点第1位となった。これに関連して、「2030年にこうなる」というビジョンを掲げ、それに向けての注力領域や経営指標などが具体的に言及されていて非常にわかりやすいことを評価する声が寄せられた。

第2位 日本製鉄 (ディスクロージャー優良企業〔2回目〕、総合評価点 87.0 点)

- ① 同社は、**個人投資家向け会社説明会**が同得点第2位(93%)、**ウェブサイト**が第3位(86%)、**事業報告書等**(「統合報告書 2023」)が第8位(86%)となった。
- ② **個人投資家向け会社説明会**においては、評価対象企業に対するアンケート項目(全4項目)全てが満点評価となった。また、「ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく(一般投資家に理解できるように)、かつ充実していること」(同得点第8位)が85%以上の得点率となり、この分野で同得点第2位となった。これらに関連して、ビジネスモデル、外部環境、経営戦略の説明が充実していて理解しやすいとの声や、製造工程を図表を使い詳しく解説している点はこだわりを感じられたとの声もあった。
- ③ **ウェブサイト**においては、「ESG(人的資本、人権を含む)について、具体的にわかりやすく(一般投資家に理解できるように)説明されていること」が第2位となり、同項目を含む「ウェブサイトに掲載されている各種説明会資料(個人投資家向け会社説明会資料およびその他掲載資料を含む)」(3項目)は最も高い評価となり、この分野で第3位となった。これらに関連して、一般には理解しにくい製鉄事業の業績ドライバーがわかりやすく説明されていたとの声やセグメント毎のそれぞれの事業において価値創造プロセスが明確でわかりやすいとの声が寄せられた。

- ④ **事業報告書等**においては、「経営方針、中・長期経営ビジョンが、ESG に関する情報も含めて、わかりやすく、かつ簡潔に説明されていること」が同得点第 7 位となった。これに関連して、ESG を経営の中心に据え、具体的に説明できており、情報量も豊富との声があった。一方、「業績の動きがわかりやすく（読み手が理解しやすいように）説明されていること」は第 11 位となった。これに関連して、業績推移について、図表で示されるとなお良いとの声があった。

第 3 位 東京海上ホールディングス（ディスクロージャー優良企業〔2 回目〕

総合評価点 86.5 点〔昨年度比＋1.8 点〕

- ① 同社は、**個人投資家向け会社説明会**が同得点第 2 位（93%）、**ウェブサイト**が同得点第 11 位（84%）、**事業報告書等**（「2023 統合レポート」）が第 3 位（88%）となった。
- ② **個人投資家向け会社説明会**においては、評価対象企業に対するアンケート項目（全 4 項目）全てが満点評価となった。また、「ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していること」（同得点第 8 位）が 85%以上の得点率となり、この分野で同得点第 2 位となった。これらに関連して、「基本戦略」「重点戦略」に関する情報が豊富かつ具体的との声が寄せられた。また、説明が詳細かつ、ダイジェスト版の動画があることを評価する声もあった。
- ③ **ウェブサイト**においては、「個人投資家向けサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して、充実した内容であり、かつ、わかりやすく工夫されていますか。また、IR 情報のメール配信サービスなどの付加サービス機能を提供していること」が同得点第 5 位に、「ESG（人的資本、人権を含む）について、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていること」が第 3 位となった。これらに関連して、人的資本に関する戦略と指標・データがまとめられている点についてわかりやすいことを評価する声が寄せられた。
- ④ **事業報告書等**においては、「経営方針、中・長期経営ビジョンが、ESG に関する情報も含めて、わかりやすく、かつ簡潔に説明されていること」が同得点第 1 位となり、この分野で第 3 位となった。これに関連して、過去の中期計画から、現在の進捗状況、今後の展開を丁寧に言及していることや経営の振り返りを具体的に行っている点を評価する声が寄せられた。

上記の味の素、日本製鉄、東京海上ホールディングスの 3 社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら 3 社を本年度の個人投資家向け情報提供における優良企業として選定した。

以 上

2024年度 個人投資家向け情報提供における評価比較総括表

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 個人投資家向け会社説明会 の開催等		2. ウェブサイトにおける 開示等		3. 事業報告書等の内容	
			(配点 19点)		(配点 61点)		(配点 20点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	2802 味の素	88.8	18.2	1	52.9	1	17.7	1
2	5401 日本製鉄	87.0	17.6	2	52.3	3	17.1	8
3	8766 東京海上ホールディングス	86.5	17.6	2	51.3	11	17.6	3
	評価対象企業(31社) 評価平均点	80.32	15.05		49.02		16.25	

経営方針、中・長期経営ビジョン
や業績動向の説明の分かりやす
さ等3項目

個人投資家向けサイトの有無
や、事業内容、各種説明会資
料の分かりやすさ等9項目

開催回数、社長等代表役員
の説明の有無等5項目

2024年度評価項目および配点（個人投資家向け情報提供）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 個人投資家向け会社説明会の開催等（19点）	配点
(1)過去1年間（前年7月から本年6月までの間）に個人投資家向け会社説明会を何回開催していますか。 [A.2回以上：2点、B.1回:1点]	2
(2)個人投資家向け会社説明会は、リアル（対面）形式と、オンライン形式の両方で行っていますか。 [A.両方で行った：1点、B.リアル（対面）形式のみ：0点、オンライン形式のみ：0点]	1
(3)個人投資家向け会社説明会は、経営トップが説明を行いましたか。 [A.経営トップが行った：2点、B.経営トップ以外が行った：1点]	2
(4)個人投資家向け会社説明会の内容は、ウェブサイトに掲載されて閲覧できますか。 [A.配布資料に加え動画または音声で視聴できる：4点、B.配布資料の掲載のみ：2点、C.掲載なし：0点]	4
(5)ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していますか。 【個人投資家向け会社説明会に限定して評価】 [1点～10点の整数で評価。掲載なし：0点]	10
2. ウェブサイトにおける開示等（61点）	配点
(1)IRに関するウェブサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して利用しやすく、かつ、わかりやすく工夫されていますか。 [1点～4点の整数で評価]	4
(2)個人投資家向けサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して、充実した内容であり、かつ、わかりやすく工夫されていますか。また、IR情報のメール配信サービスなどの付加サービス機能を提供していますか。 [1点～8点の整数で評価。個人投資家向けサイトがない場合：0点]	8
(3)事業内容（主力商品、主力サービス等）が具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(4)資本コストを意識した経営の実現に向けた対応を開示していますか。 [A.開示している：2点、B.開示していない：0点] （開示している場合には、当該開示資料のURL等を添付してください。）	2
(5)ウェブサイトに掲載されている各種説明会資料（個人投資家向け会社説明会資料およびその他掲載資料を含む）について	
A 業績の動きが、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
B 経営目標・経営戦略が、会社の強み（業界シェアや他社との差別化等を含む）や課題等を踏まえて、具体的に、かつ、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
C ESG（人的資本、人権を含む）について、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(6)各種説明会（個人投資家向け会社説明会を除く）の内容はウェブサイトに掲載されて誰でも動画で視聴できますか。 [A.できる：2点、B.できない：0点]	2
(7)ウェブサイトに掲載のよくある質問と回答（FAQ）は、会社の事業内容や業績を理解するうえで、有益な質問項目が設定されている等全体的に充実し、わかりやすいですか。 [1点～5点の整数で評価。FAQの掲載がない場合：0点]	5
3. 事業報告書等の内容（注）（20点）	配点
(1)全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ理解しやすいように十分な工夫がなされて作成されていますか。 [1点～5点の整数で評価]	5
(2)経営方針、中・長期経営ビジョンが、ESGに関する情報も含めて、わかりやすく、かつ簡潔に説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]	10
(3)業績の動きがわかりやすく（読み手が理解しやすいように）説明されていますか。 [1点～5点の整数で評価]	5

網掛けの項目は、評価対象企業へのアンケート結果をもとに評点

（注）直近事業年度について、個人投資家が容易に取得可能な、事業・業績の概況について、わかりやすい解説を行っているIR関連資料（事業報告書、株主通信、アニュアルレポート、統合報告書等）の中で、会社側から提供のあったいずれか一種類を評価対象とする。

個人投資家向け情報提供専門部会委員

部 会 長	東 英憲	野村證券
部会長代理	宇田川 克己	いちよし証券
	岩崎 利昭	水戸証券
	大坂 隼矢	野村證券
	小松崎 直樹	丸三証券
	澤田 遼太郎	東海東京インテリジ [®] ェンス・ラボ [®]
	柴田 光浩	大和証券
	嶋田 和昭	岩井コスモ証券
	鈴木 英之	SBI 証券
	高取 千誉	大和証券
	高山 裕介	SMBC 日興証券
	二宮 雅之	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	降幡 剣士	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	山本 信一	岡三証券

本著作物の著作権は、公益社団法人 日本証券アナリスト協会®に属します。本著作物の全部または一部を、許可なく印刷、複写、転載、磁気もしくは光記録媒体への入力等、その方法の如何を問わず、これを複製することを禁じます。

**証券アナリストによる
ディスクロージャー優良企業選定
(2024 年度)**

2024 年 10 月発行

編集兼発行所 公益社団法人 日本証券アナリスト協会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 2-1
東京証券取引所ビル 5 階
<http://www.saa.or.jp>
